日本総研
The Japan Research Institute, Limited

2020 年 8 月 13 日

# 若者の意識調査（報告）

## ― ESG および SDGs、キャリア等に対する意識 ―

■調査の概要
株式会社日本総合研究所は、全国の中学生、高校生、大学生に焦点を当て、ESG および SDGs、キャリア等に対するアンケート調査を実施。

■調査の実施方法
- 調査期間および実施方法：2020 年 5 月 8 日から 5 月 10 日にかけてウェブ調査により実施。
- 調査対象：全国の中学生、高校生、大学生を対象とした。GMO リサーチ株式会社の調査パネル 1,000 人から回答を受領。
  レポート集計対象：中学生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、高校生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、大学生 400 人（男子 200 人、女子 200 人）
  ＊中学生については、保護者を通じてアンケート調査の依頼を行った。

目次

1. 環境問題や社会課題等に対する関心や行動........3

1.1. 関心を持っていること........3
1.2. 経済状態........5
1.3. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心........7
1.4. グレタ・トゥンベリ氏について........8
1.5. 関心のある環境問題や社会問題........10
1.6. 日頃行っている社会貢献活動........11
1.7. 環境問題や社会課題の解決意欲........12
1.8. SDGs（持続可能な開発目標）の認知........14
1.9. 関心のある SDGs の 17 の目標........15
1.10. 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業を認知する媒体........17
1.11. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業の商品かどうかの意識........18
1.12. 環境問題や社会問題に取り組む企業の商品に支払える金額........19

2. ESG 投資に対する認知........23

2.1. 金融や経済への関心および金融や経済に関して学ぶ機会........23
2.2. 金融や経済についての授業の理解度........25
2.3. 授業で ESG 投資や SRI 投資という言葉を学んだか........27
2.4. 投資の意欲........28
2.5. 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲........30
2.6. 今後、環境問題や社会課題に関心をより深めると思うきっかけ........32

3. キャリアへの考え方........33

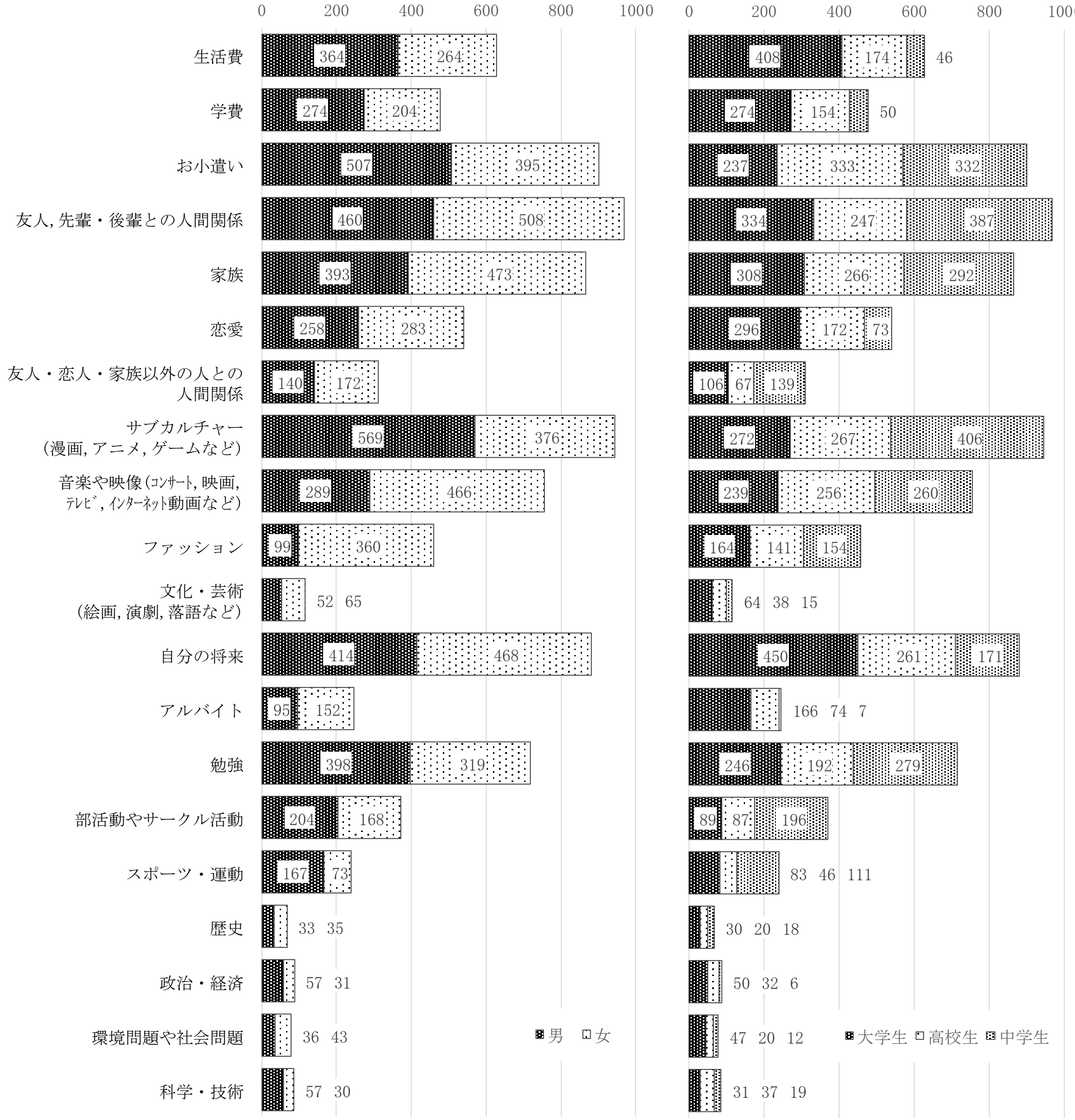
3.1. 労働価値観........33
3.2. 結婚して子どもをもったときの、自分と結婚相手の働き方の理想........41
3.3. 共働きを選ぶ理由........43
3.4. 就職したい企業や団体........44
3.5. 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業で働く意欲........46
3.6. 企業に対する次世代からのメッセージ........48
3.7. 大人たちに対する次世代からのメッセージ........52

# 1. 環境問題や社会課題等に対する関心や行動

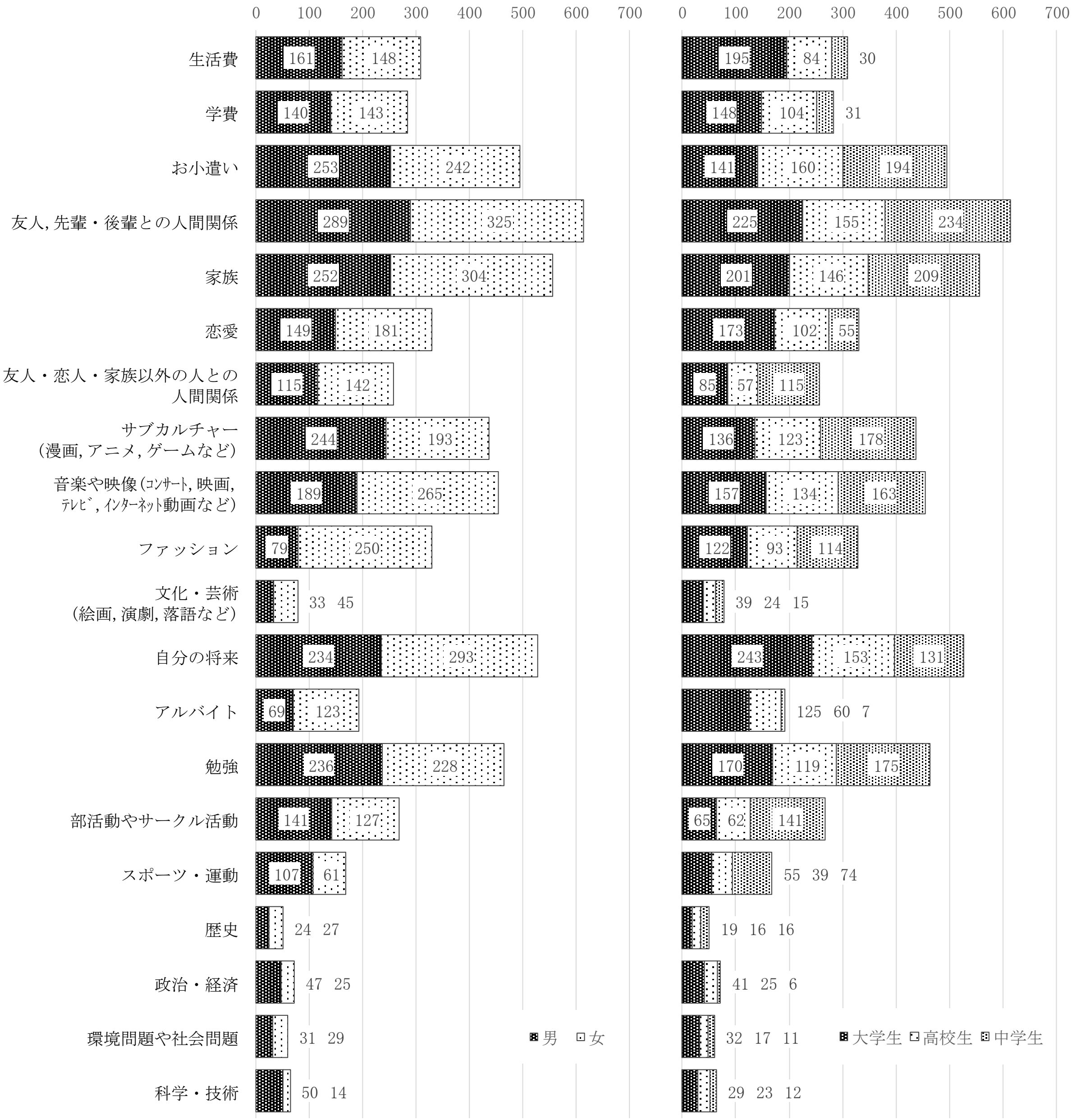
## 1.1. 関心を持っていること

・全体としては、「友人・先輩・後輩との人間関係」、「サブカルチャー（漫画、アニメ、ゲームなど）」、「お小遣い」、「自分の将来」への関心の高さがうかがえる。
・男女間による関心の差は「ファッション」において大きくみられ、女子の回答率が男子の約4倍となっている。
・大学生では「自分の将来」、高校生では「お小遣い」、中学生では「サブカルチャー（漫画、アニメ、ゲームなど）」への関心の高さがうかがえる。

図表 1 関心を持っていること（合計10点を持ち点として、関心の高さにあわせて採点）



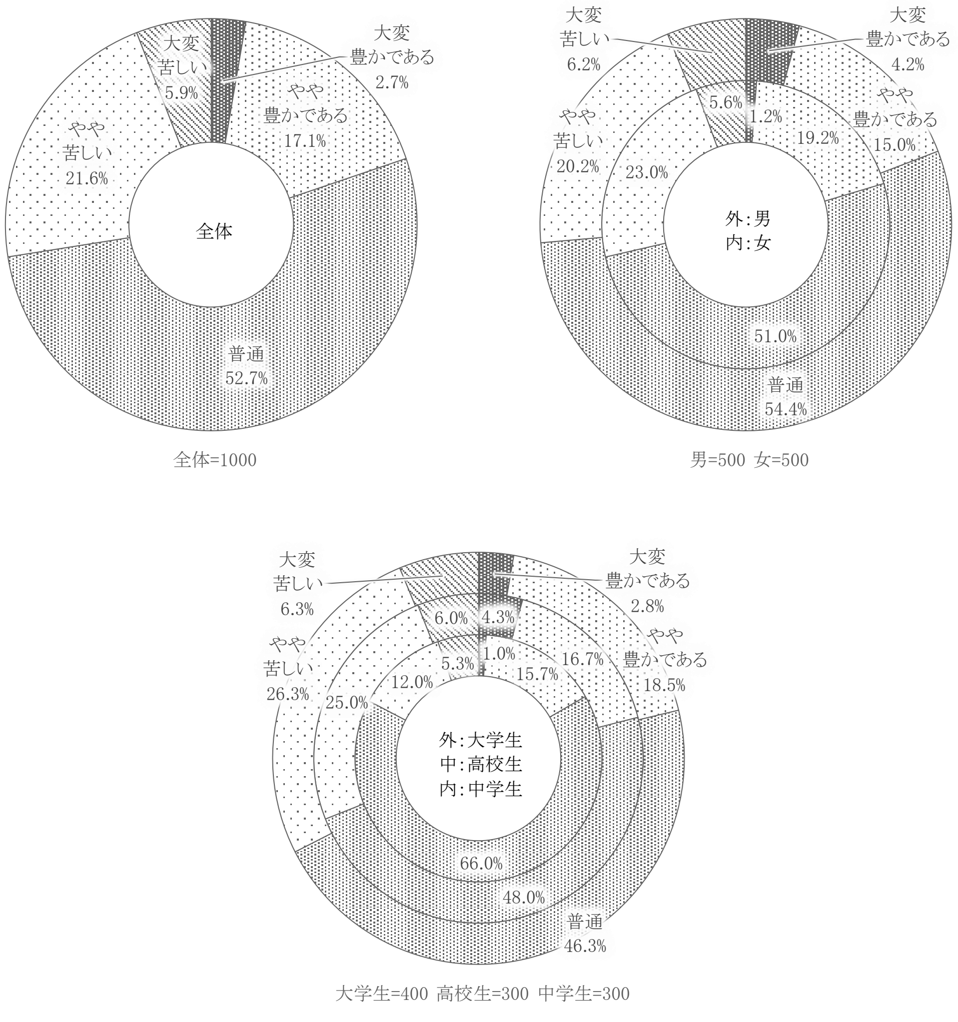
（参考）図表 1 の結果を選択した人数ごとに算定



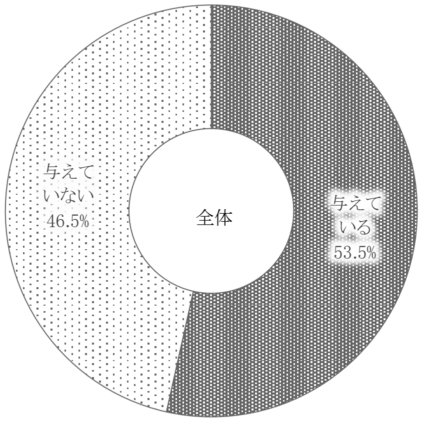
## 1.2. 経済状態

・現在の経済状態として、普通（52.7%）と回答した若者が最も多いものの、苦しい（「大変苦しい」、「やや苦しい」）と回答した若者も約 3 割存在している。
・経済状態が苦しいと回答した若者については、大学生（32.6%）が最も多く、高校生（31.0%）、中学生（17.3%）と続く。
・さらに、新型コロナウイルスが自身の経済的生活に悪影響をもたらしたと感じている若者は、全体で 53.5%、き経済状態が苦しいと回答した若者においては約 7 割に上る。

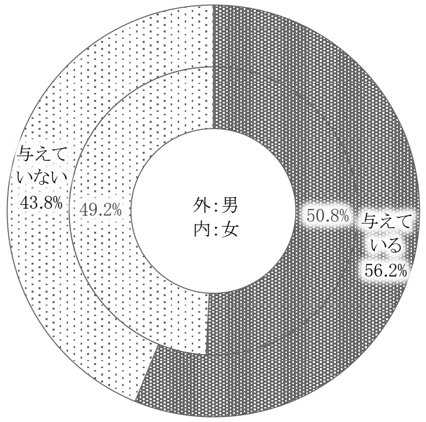
**図表 2 経済状態（単一複数選択）**



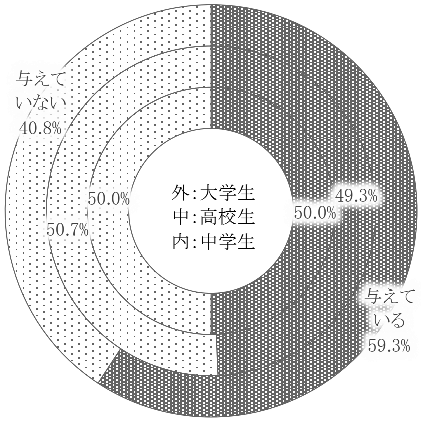
図表 3 新型コロナウイルスの、経済的な悪影響（単一複数選択）



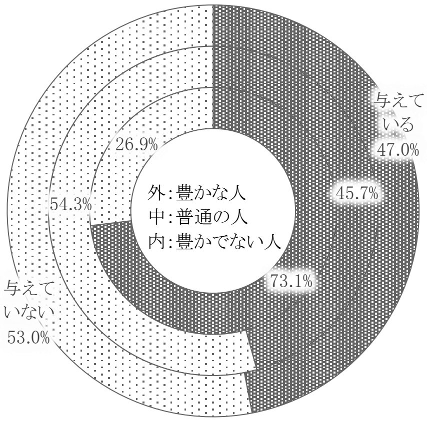

全体=1000




男=500 女=500




大学生=400 高校生=300 中学生=300

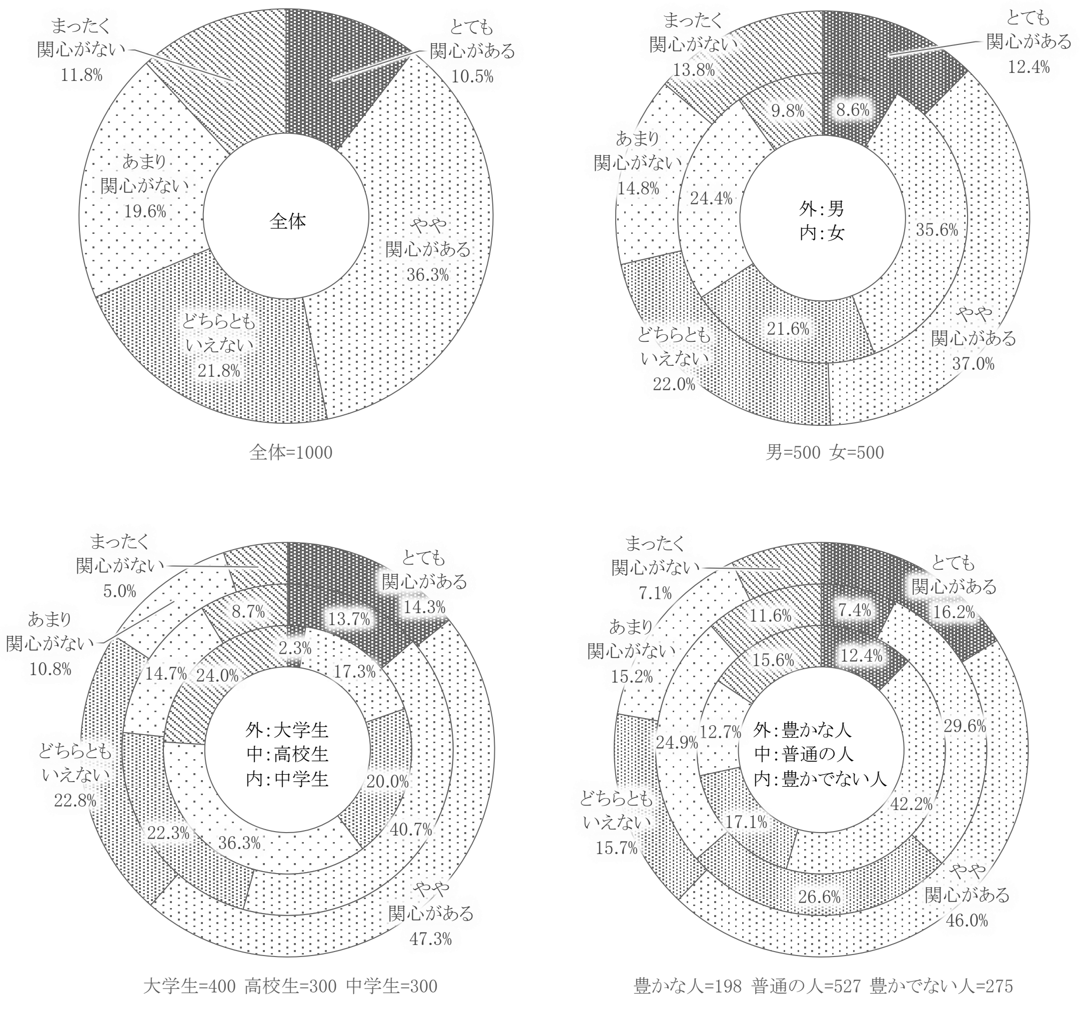



豊かな人=198 普通の人=527 豊かでない人=275

## 1.3. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心

- 国内や海外の環境問題や社会課題への関心を持つ（「とても関心がある」、「やや関心がある」、以下同様）若者は、全体の 46.8%である。
- 女子（44.2%）より男子（49.4%）の方が環境問題や社会課題への関心が高く、中学生（19.6%）よりも高校生（54.4%）、高校生よりも大学生（61.6%）と年齢が上昇するにしたがって関心を持つ人が増えている。
- 経済状況別では、豊かであると回答した若者においては、関心を持つ人は 62.2%である。一方、豊かでないと回答した若者（54.6%）と普通と回答した若者（37.0%）を比べると、普通の若者の関心が低いことが明らかになった。

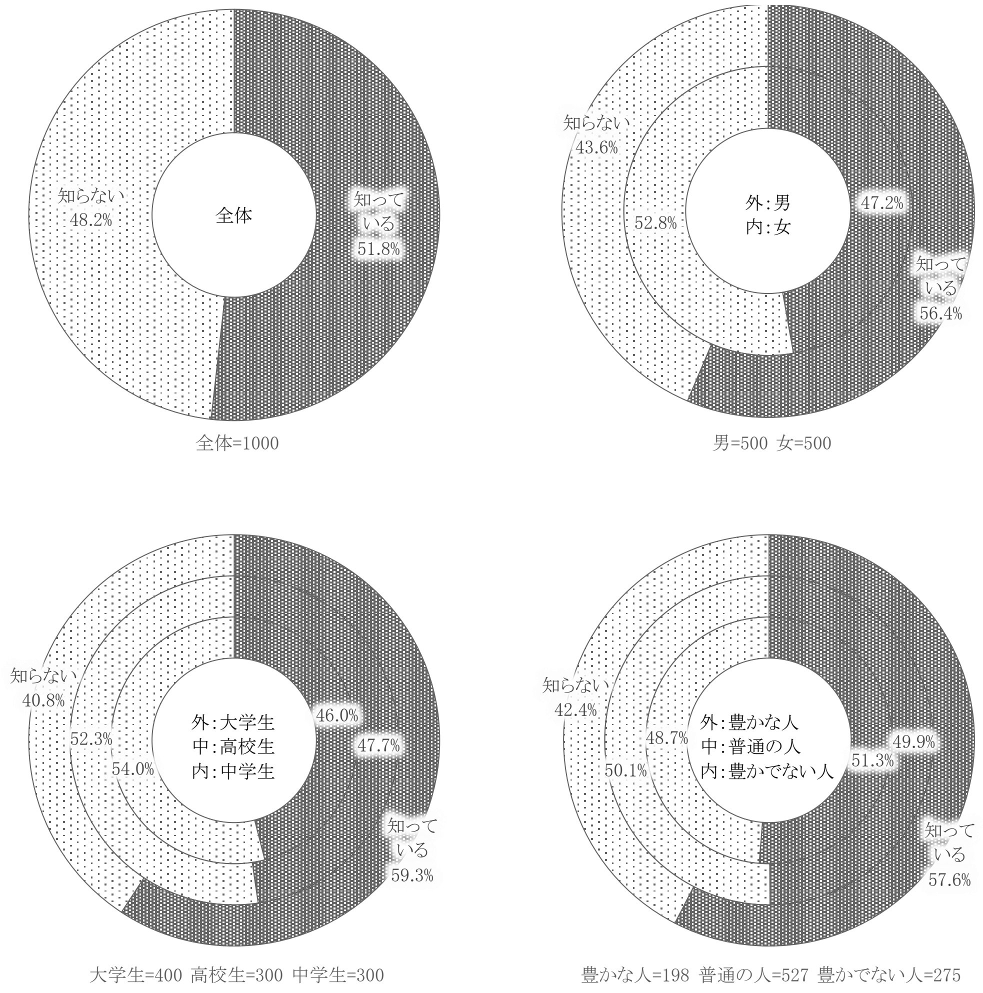
**図表 4 国内や海外の環境問題や社会課題への関心（単一選択）**



## 1.4. グレタ・トゥンベリ氏について

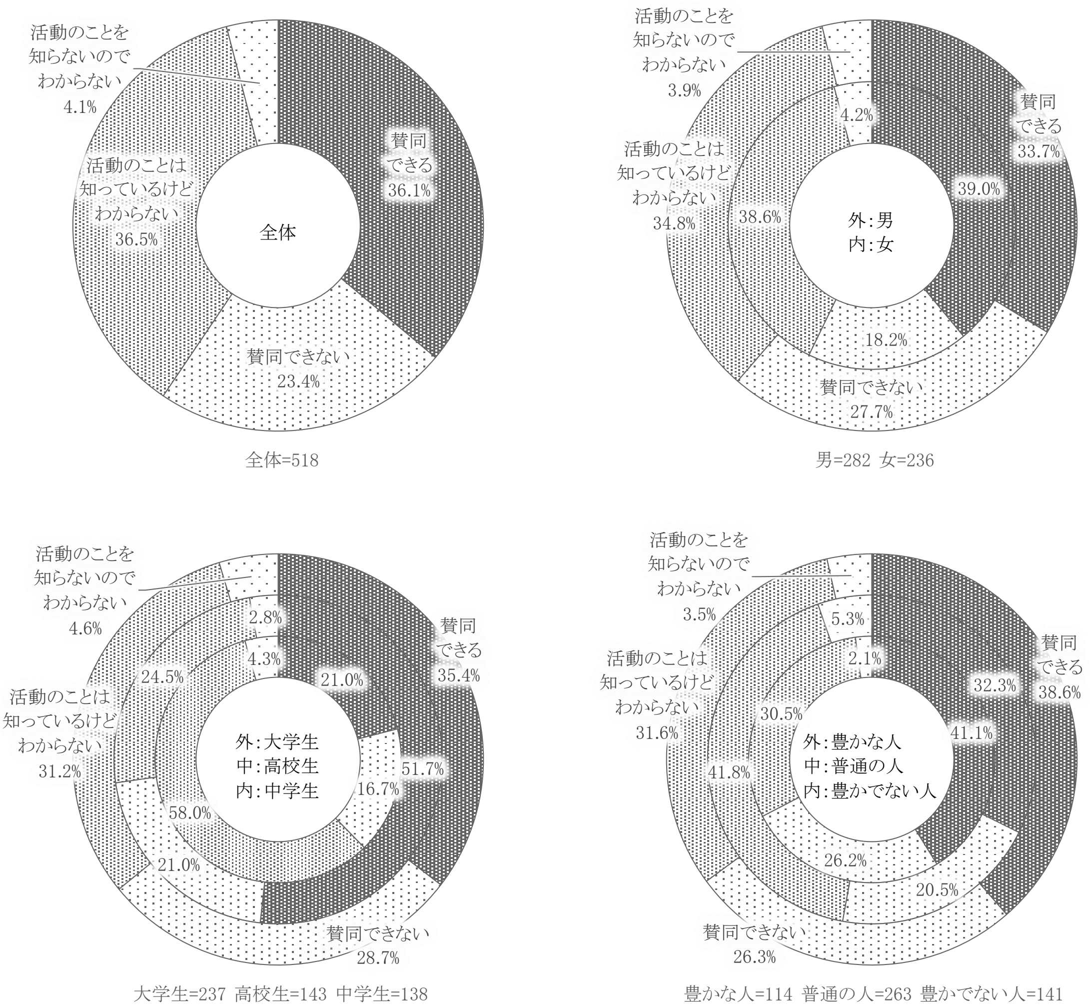
・スウェーデンの若手環境活動家であるグレタ・トゥンベリ氏を知っている若者は、全体の約半数である。女子（47.2%）よりも、男子（56.4%）の方が知っている人が多い。
・中学生（46.0%）、高校生（47.7%）ではほとんど差はないものの、大学生においては約6割に上る。
・経済状況別では、豊かであると回答した若者においては、約6割に上り、豊かでないと回答した若者（51.3%）と普通と回答した若者（49.9%）ではほとんど差はないことが明らかとなった。

**図表 5 グレタ・トゥンベリ氏の認知（単一選択）**



・グレタ・トゥンベリ氏を知っている若者のうち、賛同している若者は、全体の36.1%である。男子（33.7%）よりも、女子（39.0%）の方が賛同している人が多い。
・高校生（51.7%）が最も賛同しており、次に大学生（35.4%）、中学生（21.0%）と続く。
・経済状況別では、豊かでないと回答した若者（41.1%）が最も多く、次に豊かであると回答した若者（38.6%）、普通と回答した若者（32.3%）と続く。前出した図表 4 においても、経済状況が普通と回答した若者が最も環境問題や社会課題への関心が低かったことと類似の結果となった。

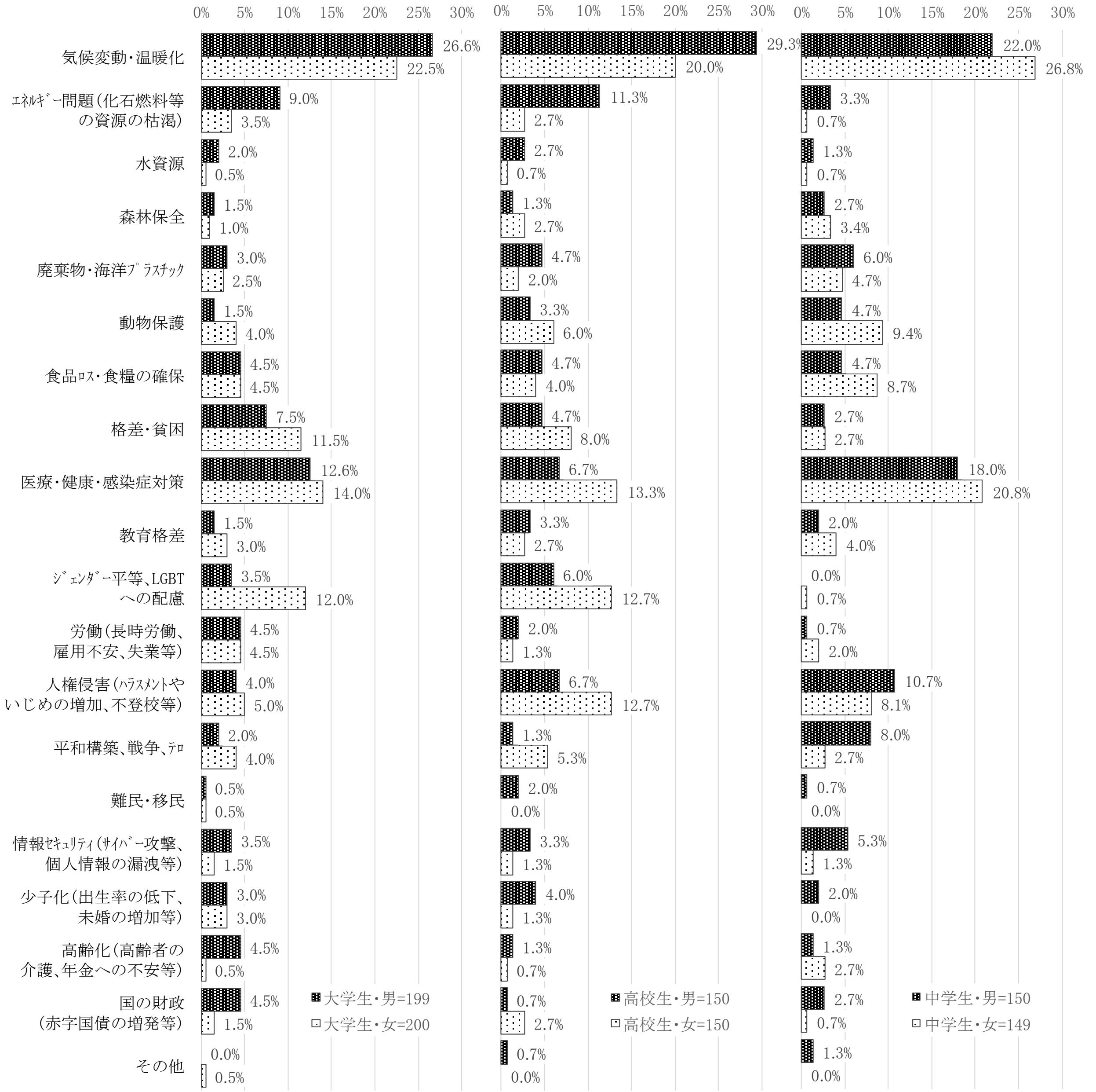
**図表 6 グレタ・トゥンベリ氏の評価（単一選択）**



## 1.5. 関心のある環境問題や社会問題

- 大学生、高校生、中学生の男女いずれにおいても、「気候変動・温暖化」への関心が最も高い。
- アンケート実施期間が新型コロナウイルスの感染拡大期であったことから次点として、「医療・健康・感染症対策」への関心も高いことが特徴的である。
- 中学生は「ジェンダー平等、LGBT への配慮」、「格差・貧困」への関心が男女ともに高くはないが高校生、大学生になるとこれらの課題に対し、特に女子の関心が高くなる傾向がある。

図表 7 関心のある環境問題や社会問題（1 位）

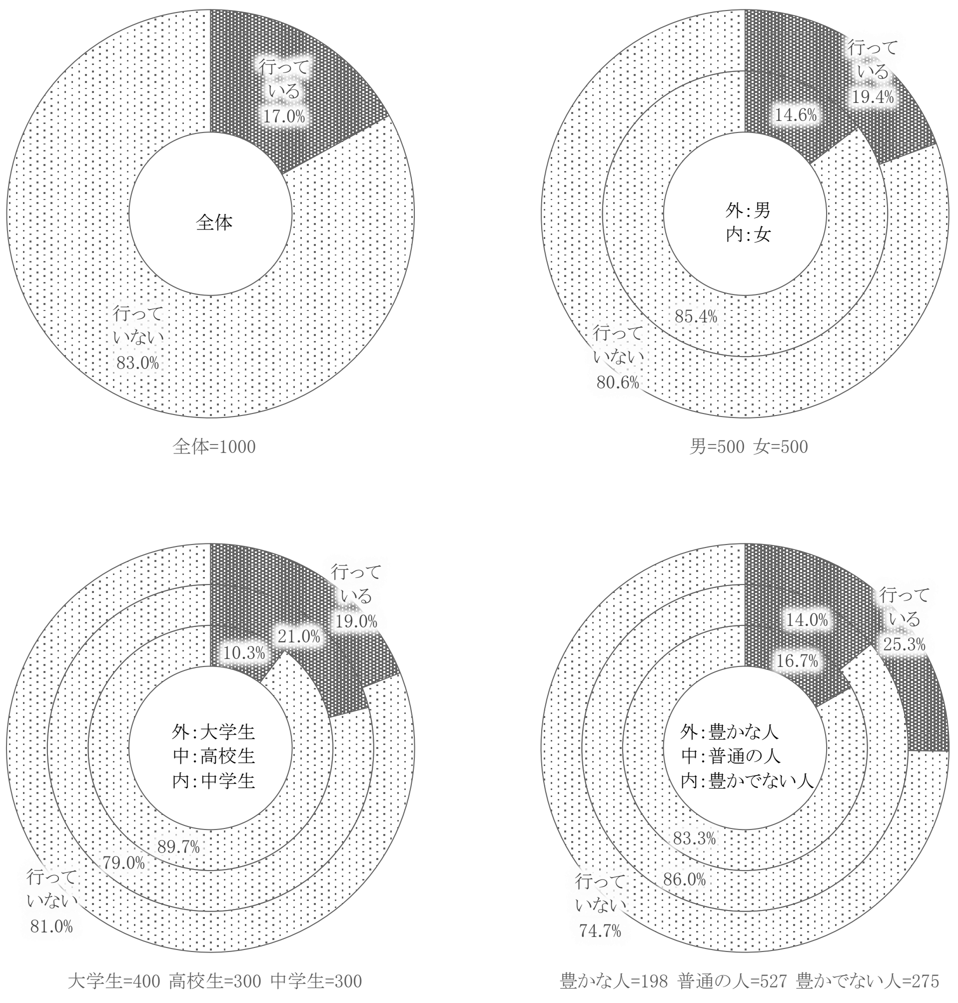



注 「その他」には、人種差別、捕鯨問題、コロナ、受験が各１件あった。

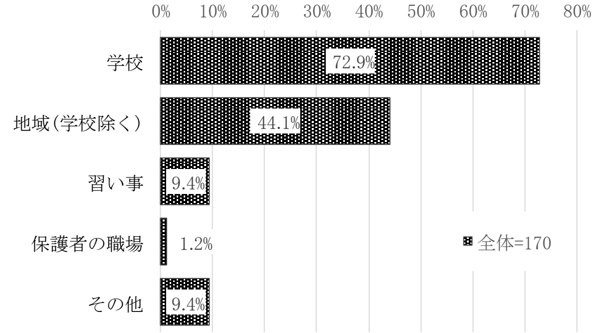
## 1.6. 日頃行っている社会貢献活動

- 社会貢献活動を行っている若者は全体の 17.0%で、女子（14.6%）よりも、男子（19.4%）の方がやや多い。
- 経済状況別では、豊かであると回答した若者が 25.3%と最も多く、豊かでないと回答した若者（16.7%）と普通と回答した若者（14.0%）と続く。
- 日頃行っている社会貢献活動の場所として、最も多いのが学校（72.9%）であり、次に「地域（学校除く）」（44.1%）である。

図表 8 社会貢献活動（環境活動、ボランティア、寄付活動など）を日頃行っているか（単一選択）




図表 9 日頃行っている社会貢献活動の場所（複数選択）

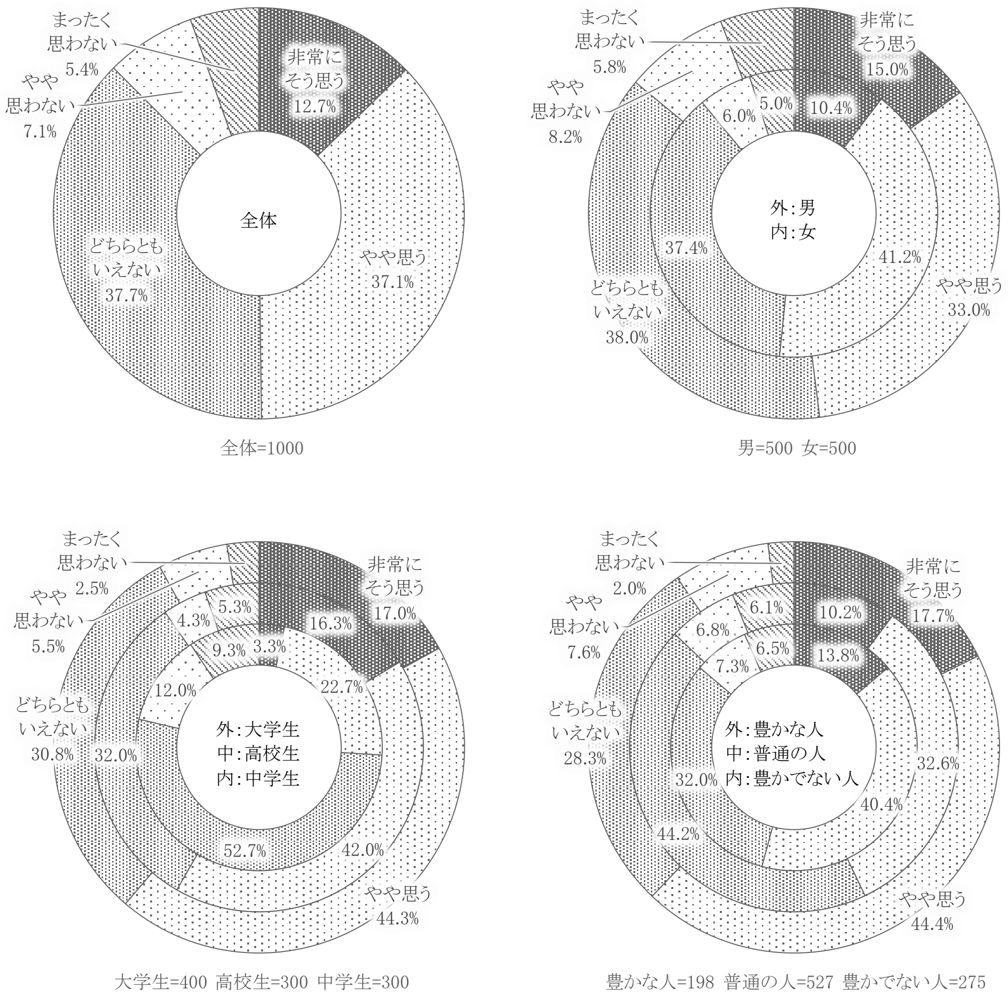



注 「その他」には、オンライン等4件、店舗等2件、献血、病院、自閉症児療育、学校外、ボーイスカウト、家、イベント、24時間ボランティア、川、海が各1件あった。

## 1.7. 環境問題や社会課題の解決意欲

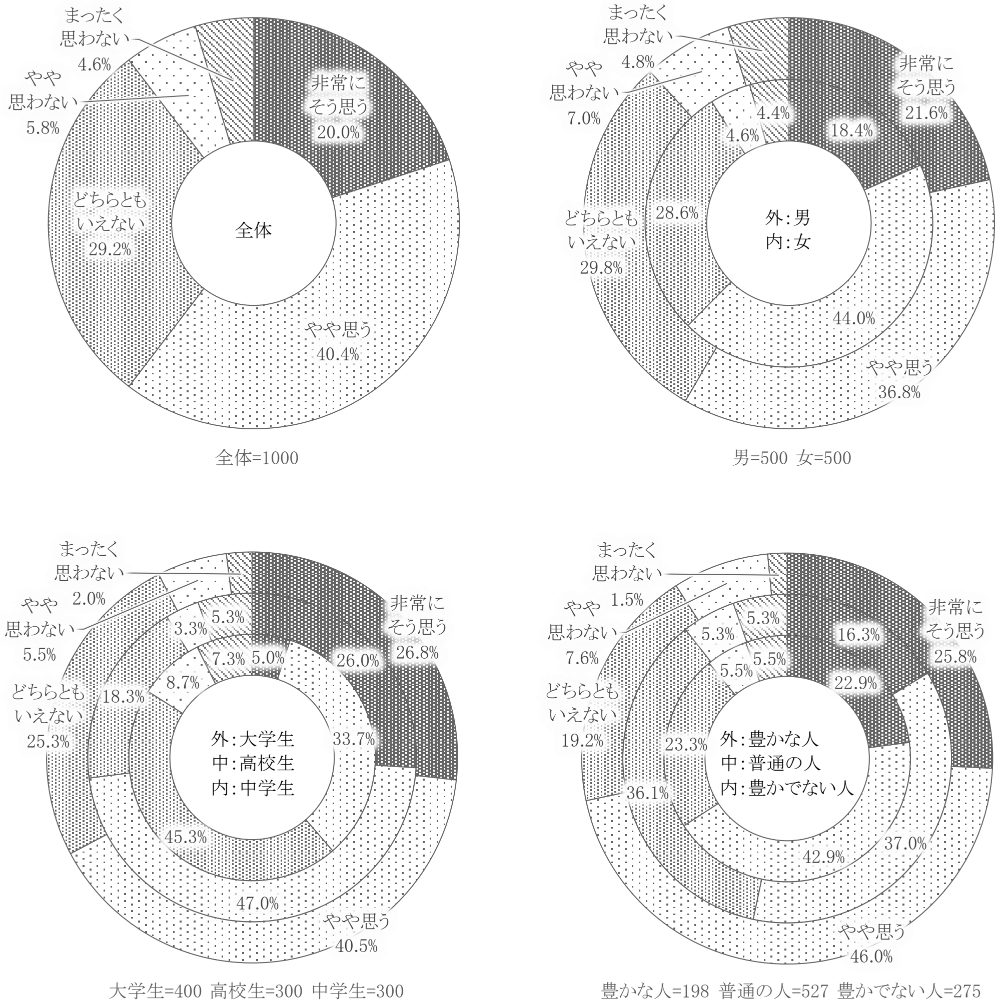
・現在、環境問題や社会課題の解決意欲を持つ（「非常にそう思う」、「やや思う」）若者は、約半数である。
・大学生（61.3%）が最も賛同しており、次に高校生（58.3%）、中学生（26.0%）と続く。
・経済状況別では、豊かであると回答した若者（62.1%）が最も多く、次に豊かでないと回答した若者（54.2%）、普通と回答した若者（42.8%）と続く。

図表 10 環境問題や社会課題の解決意欲（現在）（単一選択）



・将来、環境問題や社会課題の解決意欲を持つ（「非常にそう思う」、「やや思う」）若者は、約6割である。
・高校生（73.0%）が最も多く、大学生（67.3%）、中学生（38.7%）と続く。
・経済状況別では、豊かであると回答した若者（71.8%）が最も多く、次に豊かでないと回答した若者（65.8%）、普通と回答した若者（53.3%）と続く。

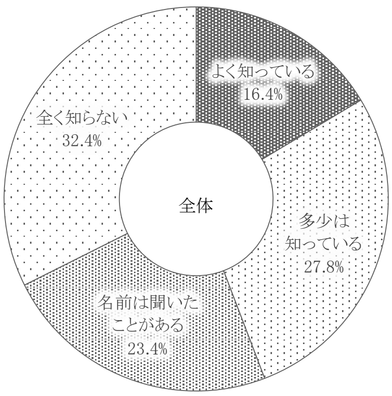
図表 11 環境問題や社会課題の解決意欲（将来）（単一選択）



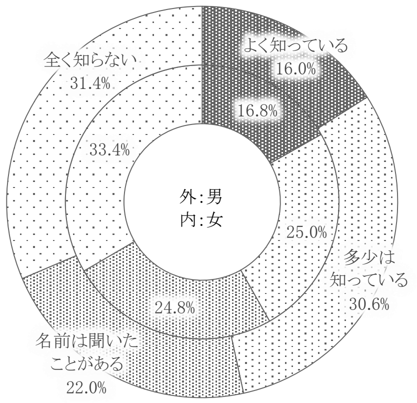
## 1.8. SDGs（持続可能な開発目標）の認知

・SDGs のことを知っている（「よく知っている」、「多少は知っている」）と回答した若者は全体の 44.2%である。
・そのうち、大学生（59.8%）が最も多く、高校生（51.4%）、中学生（16.3%）と続く。
・経済状況別では、豊かであると回答した若者の約 6 割が SDGs のことを知っていると回答し、普通、あるいは豊かでないと回答した若者においては、約 4 割にとどまっている。
・海外に住んだ経験のある若者においては、約 8 割が SDGs のことを知っていると回答している。

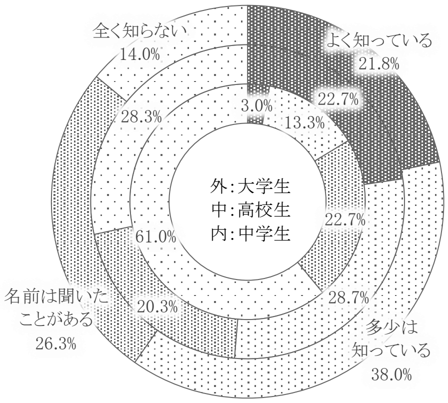
**図表 12 SDGs（持続可能な開発目標）の認知（単一選択）**



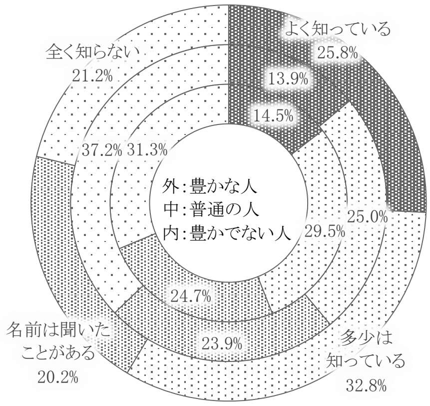
全体=1000



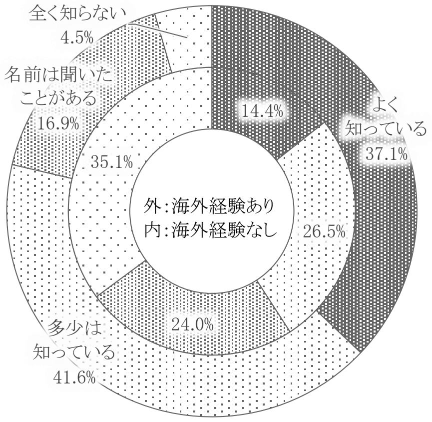
男=500 女=500



大学生=400 高校生=300 中学生=300



豊かな人=198 普通の人=527 豊かでない人=275

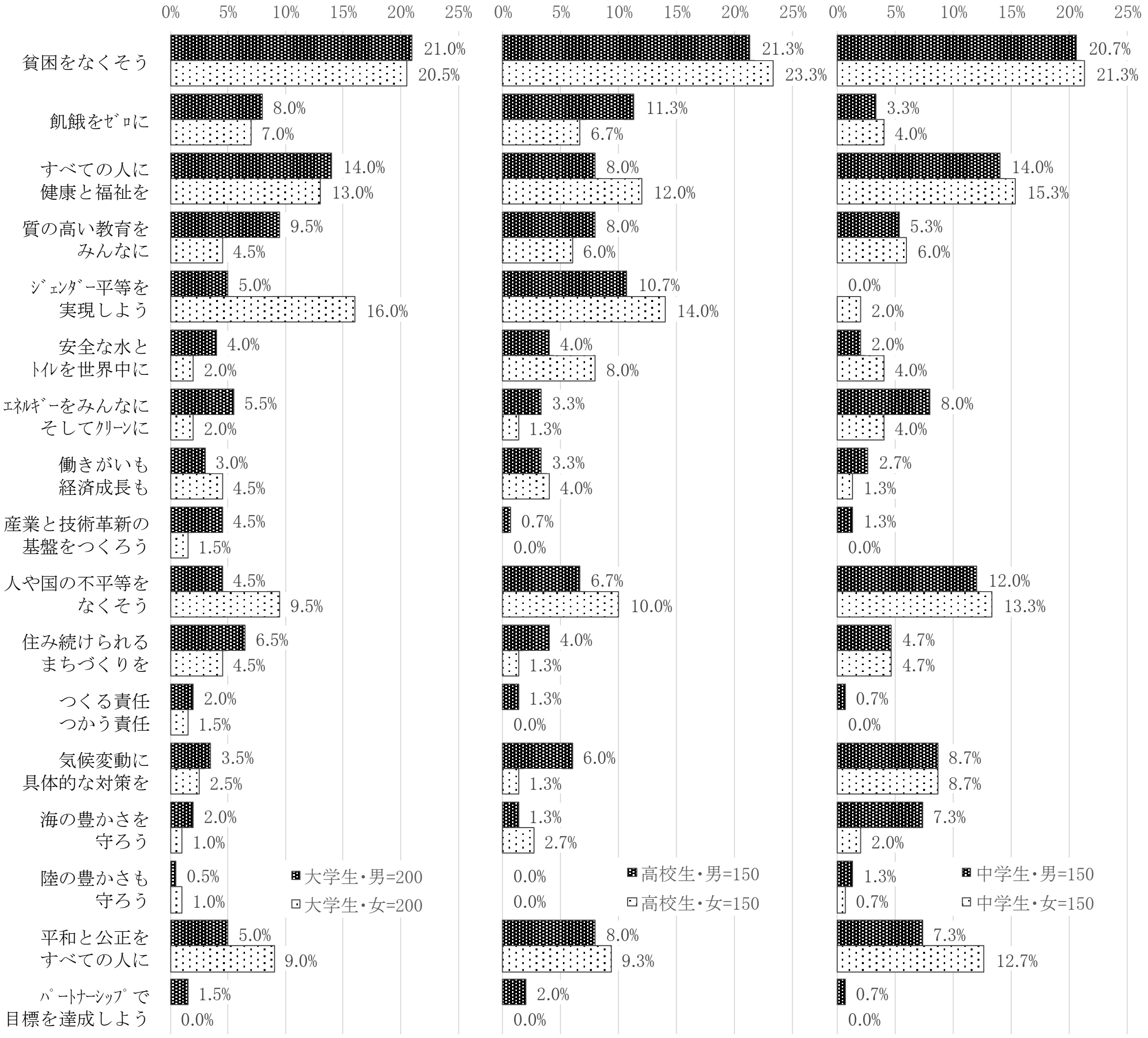


海外経験あり==89 海外経験なし=911

## 1.9. 関心のある SDGs の 17 の目標

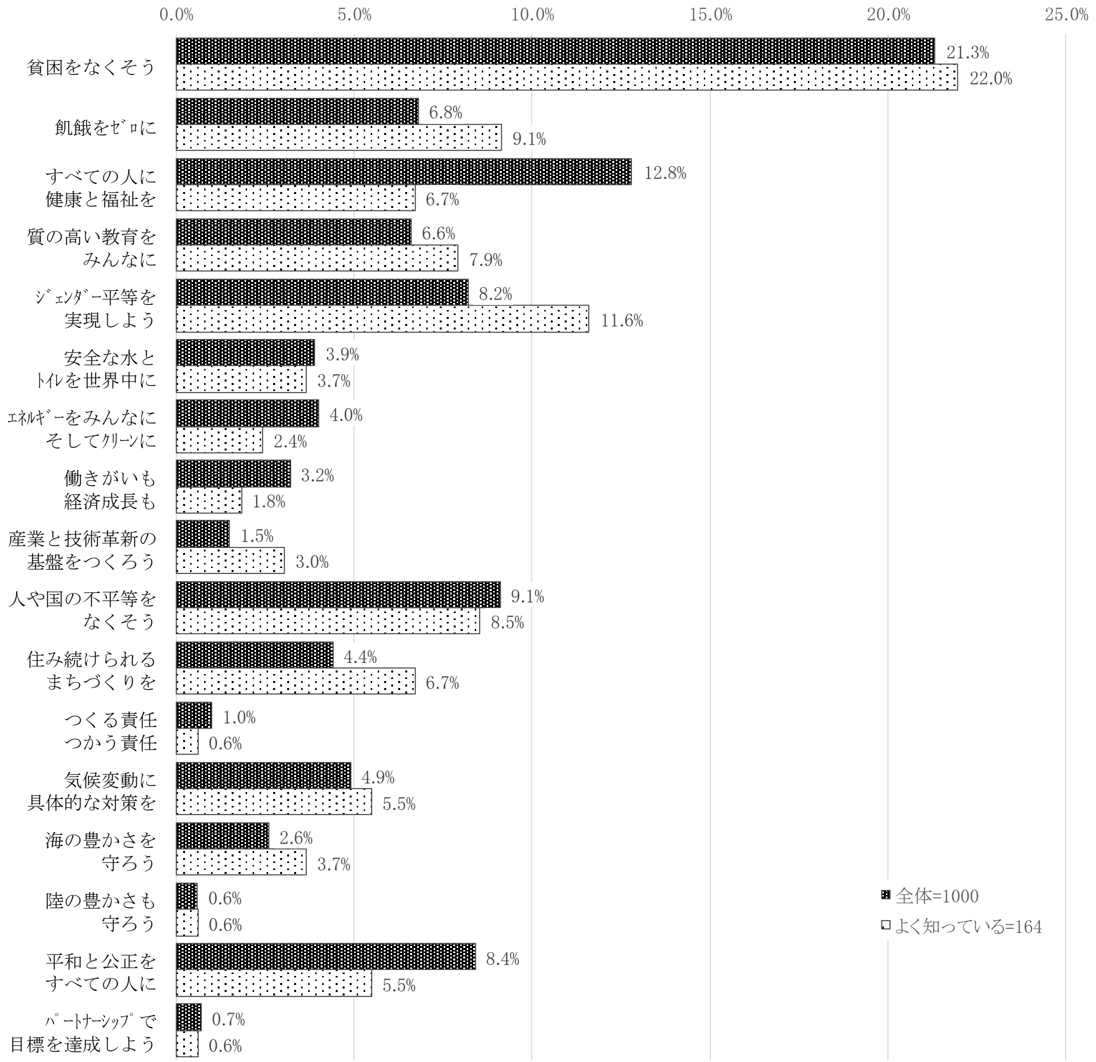
- SDGs の 17 の目標のなかで、最も関心のある目標は、中学生、高校生、大学生ともに「貧困をなくそう」である。
- 大学生（女子）、高校生（女子）、中学生（女子）においては「ジェンダー平等を実現しよう」「人や国の不平等をなくそう」、中学生全体においては、大学生、高校生に比べて「人や国の不平等をなくそう」の関心も高いことが特徴的である。
- 前出した、「図表 7 関心のある環境問題や社会問題」の回答では、気候変動・温暖化が上位であったことを鑑みれば、本設問の回答結果とのギャップが生じている。

図表 13 関心のある SDGs の 17 の目標（1 位）



・SDGs をよく知っていると回答した若者にとっては、「貧困をなくそう」への関心が男女ともに最も高く、次に男子では「すべての人に健康と福祉を」、女子では「ジェンダー平等を実現しよう」への関心が高い状況がうかがえる。

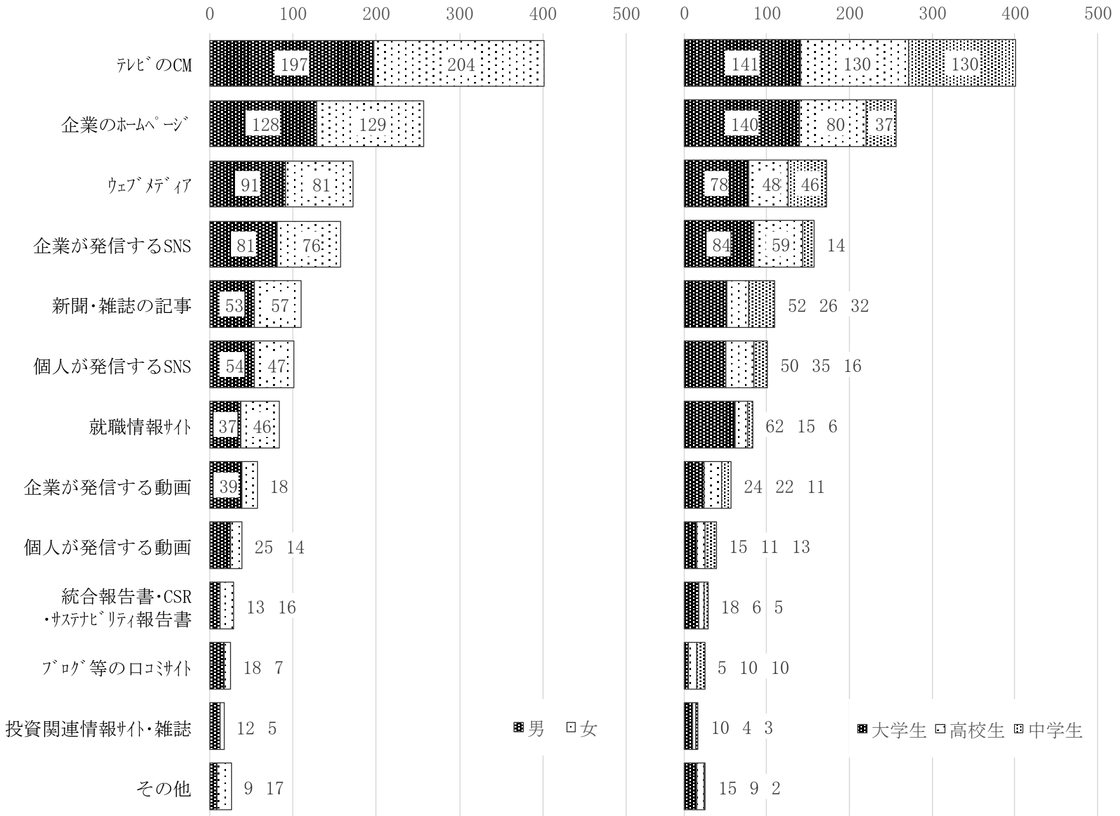
図表 14 SDGs をよく知っている人の関心のある 17 の目標（1 位）



## 1.10. 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業を認知する媒体

・環境問題や社会課題に取り組んでいる企業を認知する媒体としては、全体として「テレビ CM」を選ぶ若者が多く、「企業のホームページ」、「ウェブメディア」、「企業が発信する SNS」と続く。

図表 15 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業を認知する媒体（複数選択）

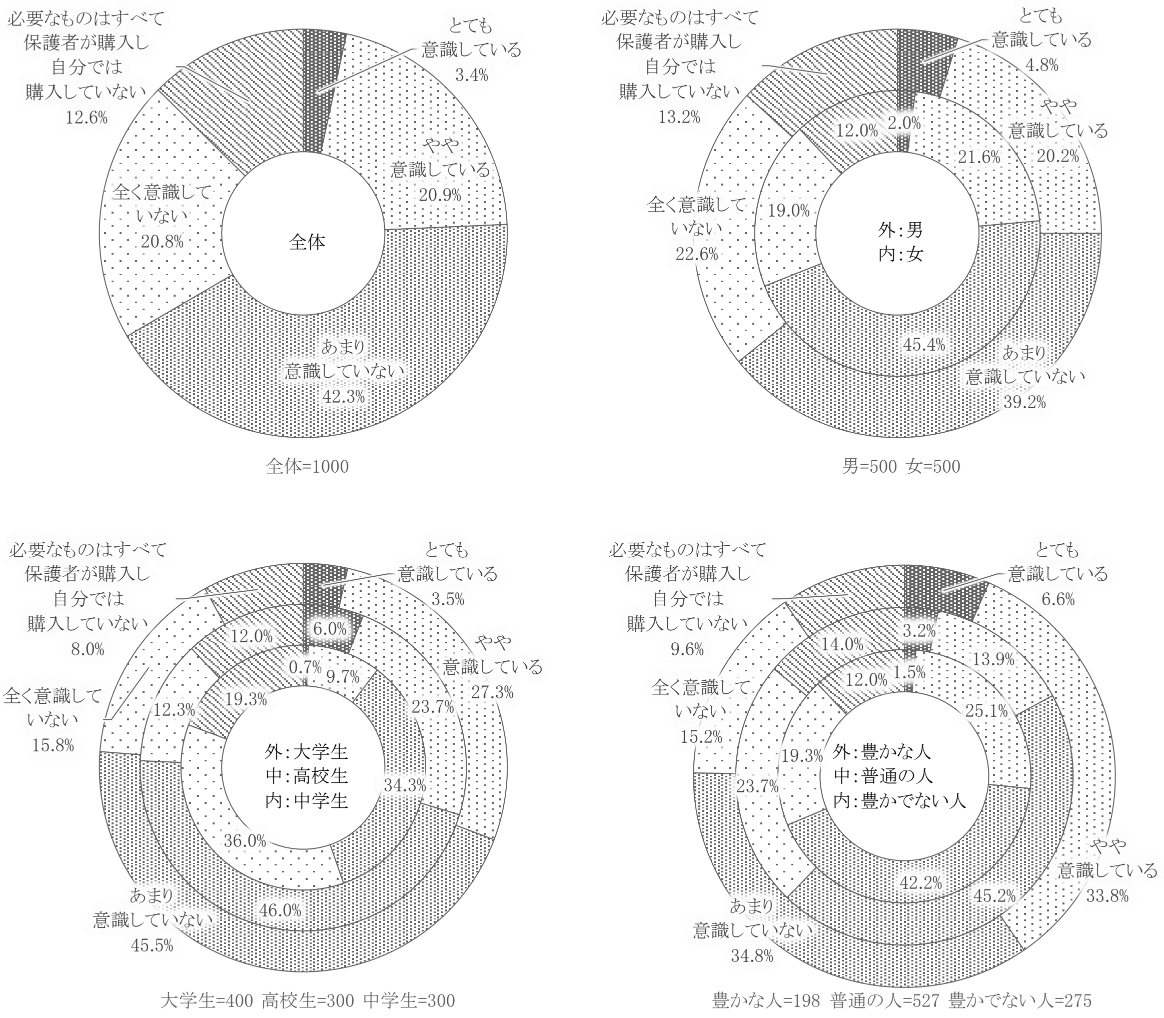



注 「その他」には、授業など学校が 22 件、ニュースなどが 2 件、車内広告、親からが各 1 件あった。

## 1.11. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業の商品かどうかの意識

- 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業の商品かどうかを意識して購入している（「とても意識している」、「やや意識している」）若者は約 2 割にとどまっている。
- 学生別では、大学生が 30.8%と最も多く、高校生（29.7%）、中学生（10.4%）と続く。
- 経済状況別では、豊かであると回答した若者（40.4%）が最も多く、次に豊かでないと回答した若者（26.6%）、普通と回答した若者（17.1%）と続く。

図表 16 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業の商品かどうかの意識（単一選択）

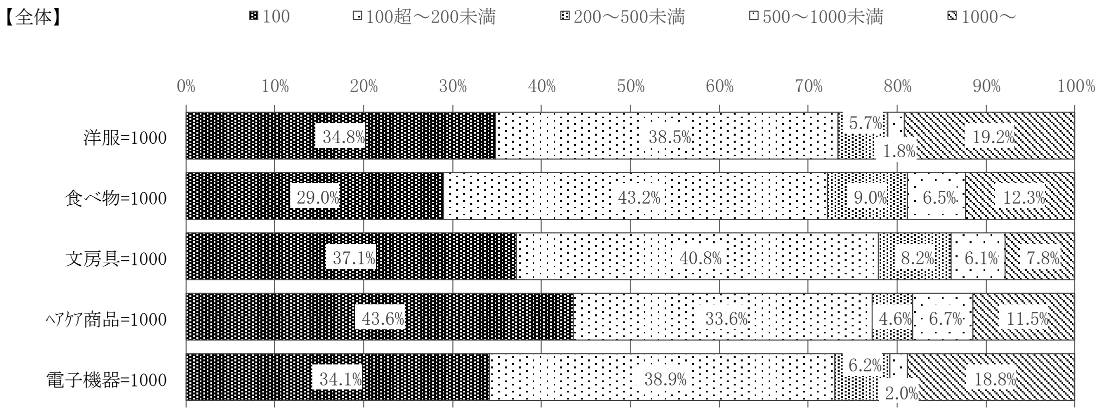


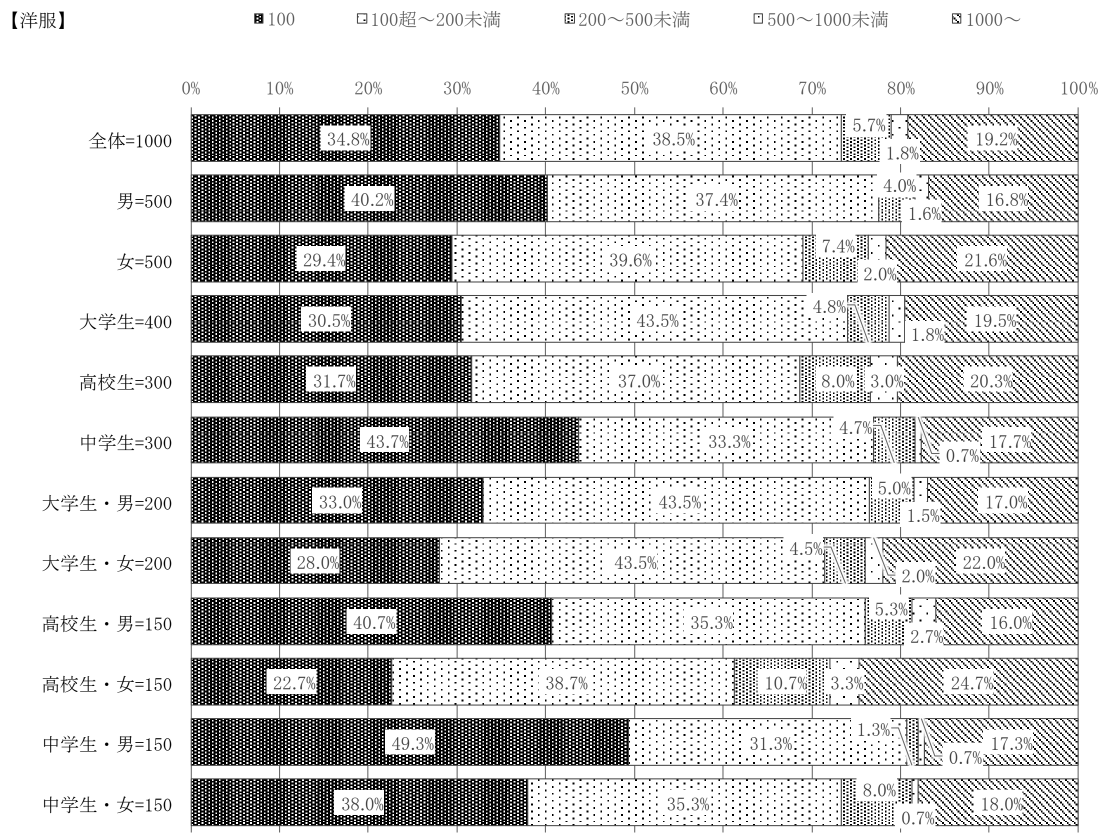
## 1.12. 環境問題や社会問題に取り組む企業の商品に支払える金額

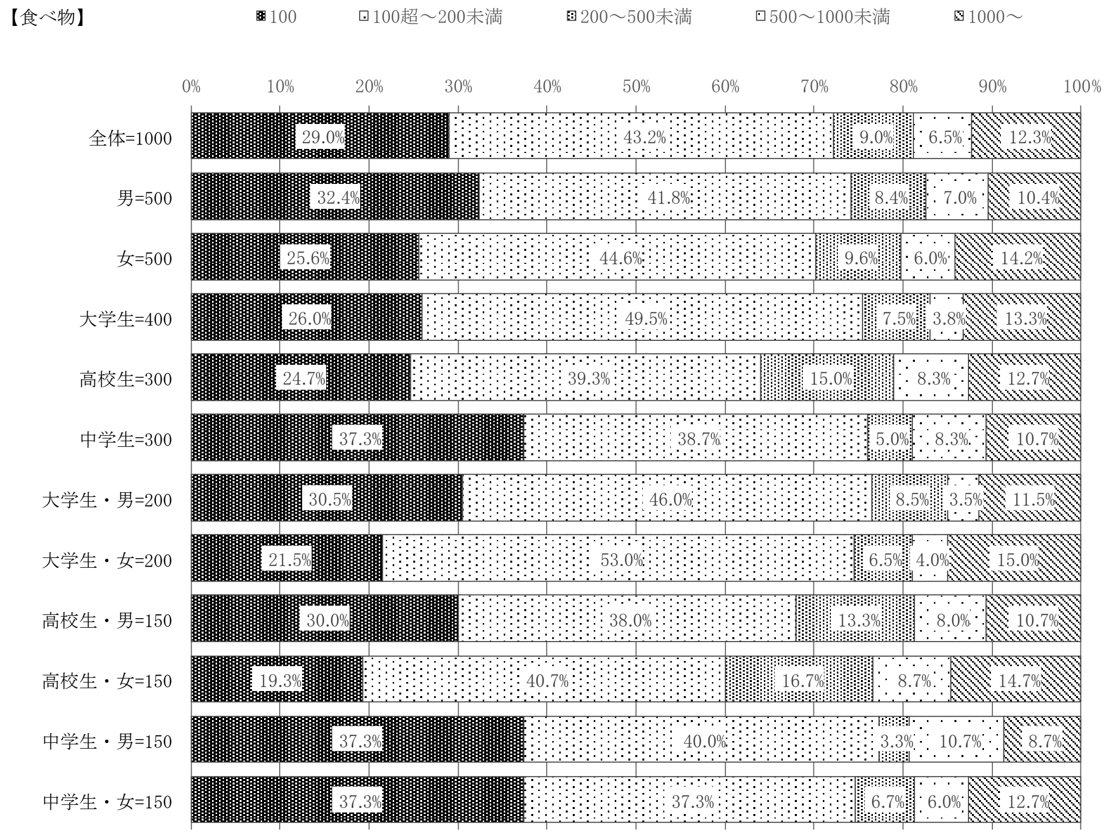
・環境問題や社会問題に取り組む企業の商品に支払い金額として、普通の商品を 100 とした場合に、それよりさらに高い金額支払ってもよいと回答した比率（「100 超～200 未満」、「200～500 未満」、「500～1000 未満」、「1000～」）を製品ごとに見てみると、洋服が 65.2%、食べ物 71.0%、文房具 62.9%、ヘアケア商品 56.4%、電子機器 65.9%である。半数以上の若者が環境問題や社会問題に取り組む企業の商品により高い値段を支払ってもよいと考えている状況がうかがえ、特に食べ物に対してはその姿勢がさらに強いことが分かる。

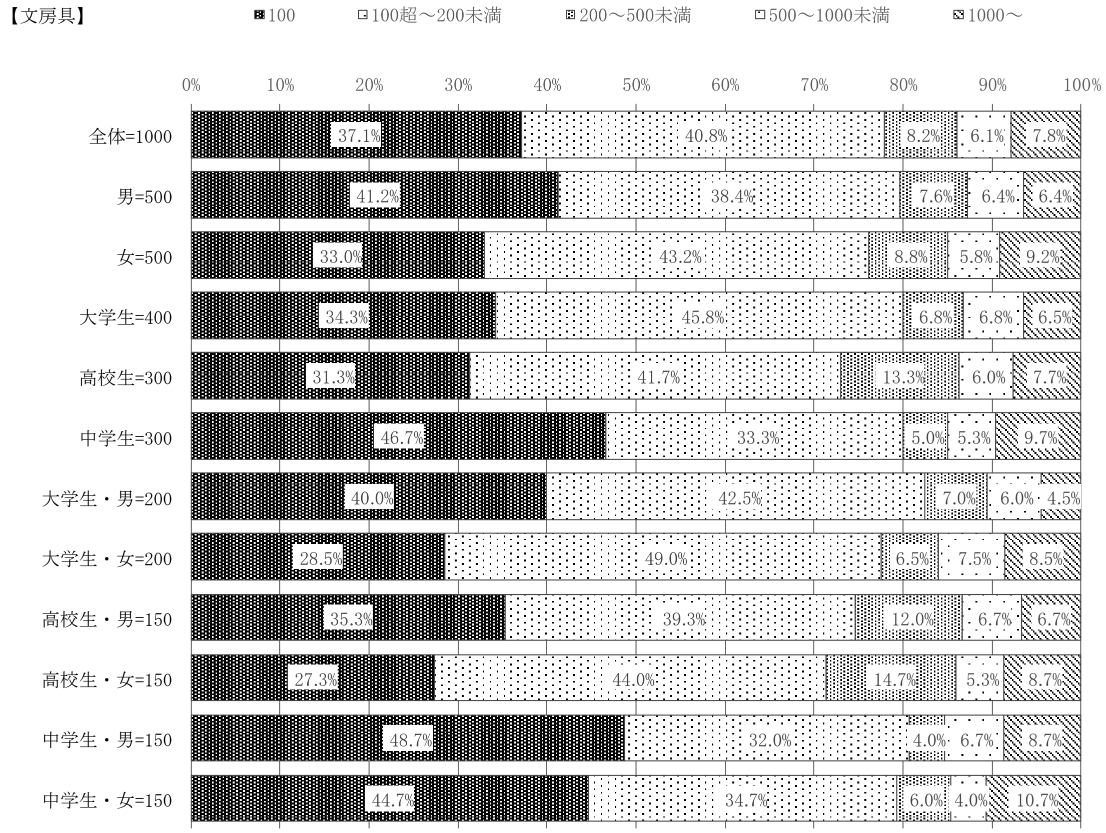
### 図表 17 環境問題や社会問題に取り組む企業の商品に支払える金額（普通の商品を 100 とした場合の数値）

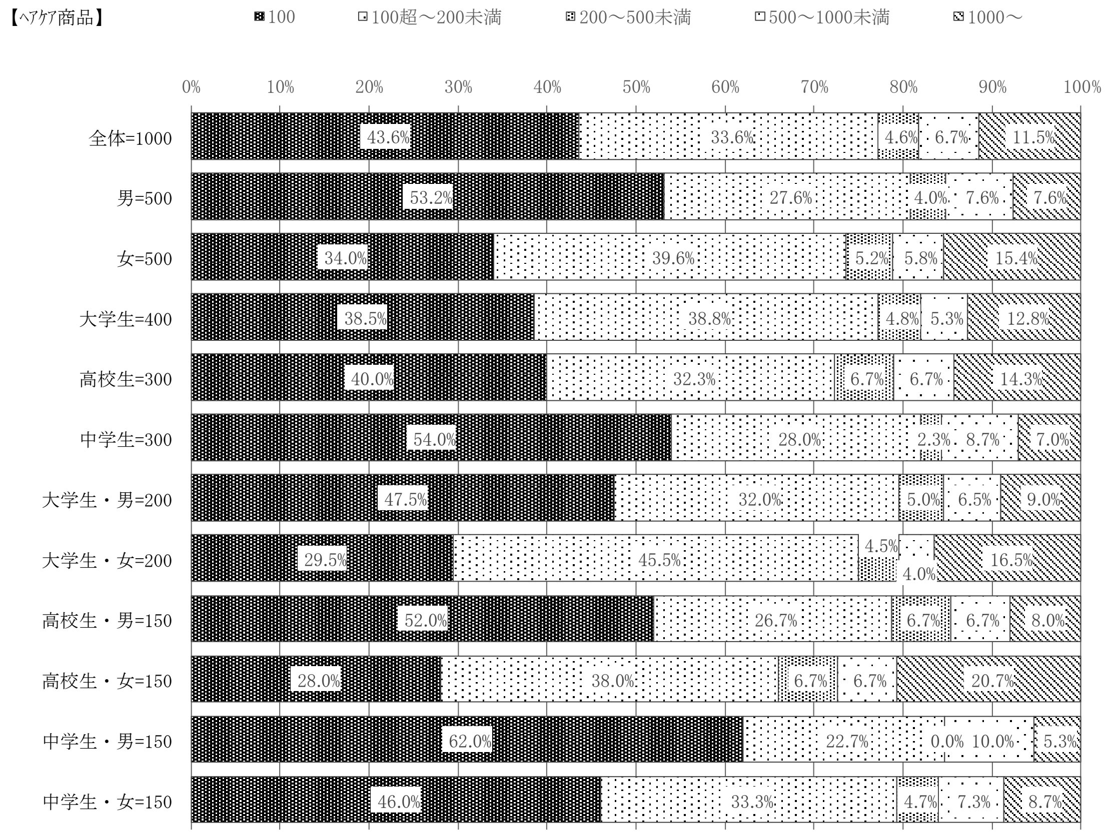
| | | 全体 | 男 | 女 | 大学生 | 高校生 | 中学生 | 大学生・男 | 大学生・女 | 高校生・男 | 高校生・女 | 中学生・男 | 中学生・女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 洋服 | 平均値 | 865.2 | 739.7 | 990.8 | 1010.2 | 784.2 | 753.1 | 1059.8 | 960.6 | 573.3 | 995.1 | 479.4 | 1026.7 |
| | 中央値 | 120 | 110 | 120 | 120 | 120 | 110 | 120 | 120 | 115 | 150 | 103 | 110 |
| 食べ物 | 平均値 | 542.5 | 574.9 | 510.2 | 691.4 | 489.4 | 397.2 | 889.2 | 493.6 | 386.1 | 592.6 | 344.5 | 449.8 |
| | 中央値 | 120 | 120 | 120 | 120 | 138 | 110 | 120 | 120 | 124 | 150 | 110 | 110 |
| 文房具 | 平均値 | 275.6 | 231.1 | 320.2 | 264.6 | 296.4 | 269.6 | 226.0 | 303.2 | 227.3 | 365.4 | 241.5 | 297.7 |
| | 中央値 | 110 | 110 | 110 | 110 | 120 | 105 | 110 | 120 | 118 | 120 | 105 | 108 |
| ﾍｱｹｱ商品 | 平均値 | 492.5 | 327.6 | 657.4 | 659.2 | 524.2 | 238.5 | 388.0 | 930.4 | 366.0 | 682.5 | 208.7 | 268.2 |
| | 中央値 | 110 | 100 | 120 | 110 | 120 | 100 | 102 | 120 | 100 | 120 | 100 | 105 |
| 電子機器 | 平均値 | 2768.5 | 3045.4 | 2491.6 | 3118.5 | 3655.9 | 1414.4 | 3390.8 | 2846.3 | 4004.8 | 3307.0 | 1625.5 | 1203.3 |
| | 中央値 | 120 | 120 | 120 | 120 | 130 | 110 | 115 | 120 | 125 | 130 | 110 | 110 |



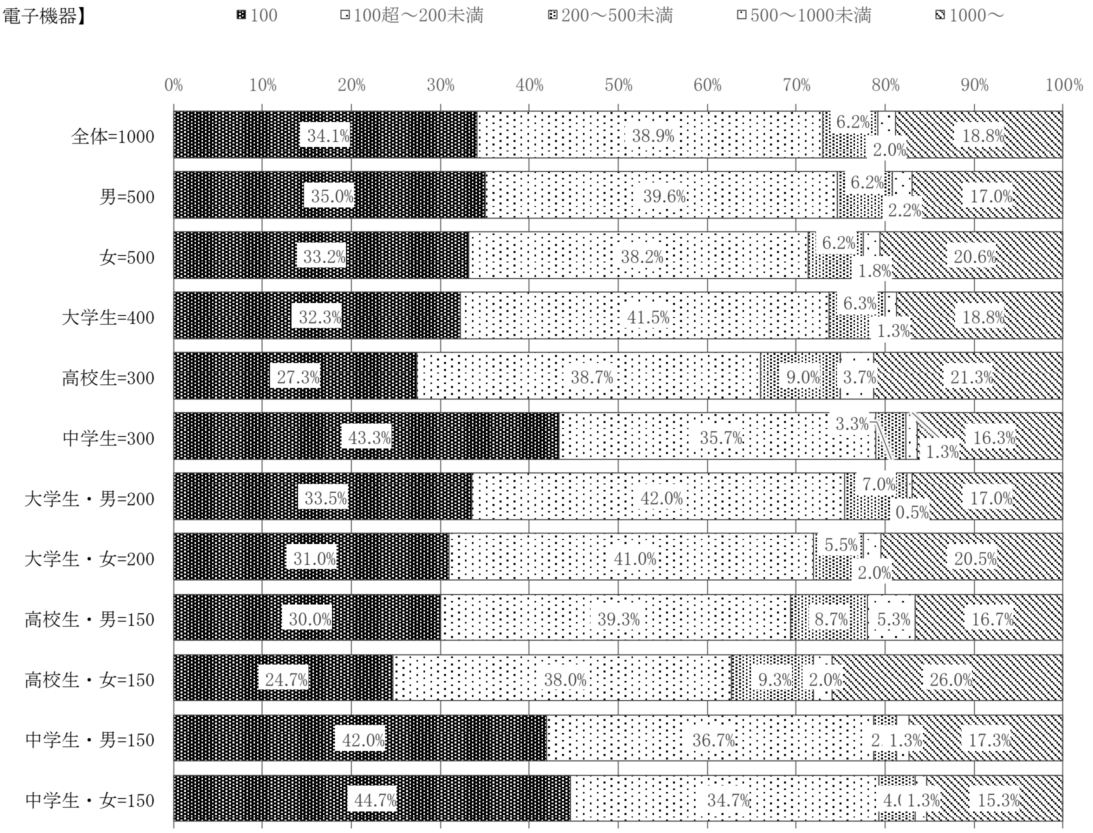

【洋服】
100
100超～200未満
200～500未満
500～1000未満
1000～
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体=1000 34.8% 38.5% 5.7% 1.8% 19.2%
男=500 40.2% 37.4% 4.0% 1.6% 16.8%
女=500 29.4% 39.6% 7.4% 2.0% 21.6%
大学生=400 30.5% 43.5% 4.8% 1.8% 19.5%
高校生=300 31.7% 37.0% 8.0% 3.0% 20.3%
中学生=300 43.7% 33.3% 4.7% 0.7% 17.7%
大学生・男=200 33.0% 43.5% 5.0% 1.5% 17.0%
大学生・女=200 28.0% 43.5% 4.5% 2.0% 22.0%
高校生・男=150 40.7% 35.3% 5.3% 2.7% 16.0%
高校生・女=150 22.7% 38.7% 10.7% 3.3% 24.7%
中学生・男=150 49.3% 31.3% 1.3% 0.7% 17.3%
中学生・女=150 38.0% 35.3% 8.0% 0.7% 18.0%


【食べ物】
100
100超～200未満
200～500未満
500～1000未満
1000～
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体=1000 29.0% 43.2% 9.0% 6.5% 12.3%
男=500 32.4% 41.8% 8.4% 7.0% 10.4%
女=500 25.6% 44.6% 9.6% 6.0% 14.2%
大学生=400 26.0% 49.5% 7.5% 3.8% 13.3%
高校生=300 24.7% 39.3% 15.0% 8.3% 12.7%
中学生=300 37.3% 38.7% 5.0% 8.3% 10.7%
大学生・男=200 30.5% 46.0% 8.5% 3.5% 11.5%
大学生・女=200 21.5% 53.0% 6.5% 4.0% 15.0%
高校生・男=150 30.0% 38.0% 13.3% 8.0% 10.7%
高校生・女=150 19.3% 40.7% 16.7% 8.7% 14.7%
中学生・男=150 37.3% 40.0% 3.3% 10.7% 8.7%
中学生・女=150 37.3% 37.3% 6.7% 6.0% 12.7%


【文房具】
100
100超～200未満
200～500未満
500～1000未満
1000～
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
全体=1000 37.1% 40.8% 8.2% 6.1% 7.8%
男=500 41.2% 38.4% 7.6% 6.4% 6.4%
女=500 33.0% 43.2% 8.8% 5.8% 9.2%
大学生=400 34.3% 45.8% 6.8% 6.8% 6.5%
高校生=300 31.3% 41.7% 13.3% 6.0% 7.7%
中学生=300 46.7% 33.3% 5.0% 5.3% 9.7%
大学生・男=200 40.0% 42.5% 7.0% 6.0% 4.5%
大学生・女=200 28.5% 49.0% 6.5% 7.5% 8.5%
高校生・男=150 35.3% 39.3% 12.0% 6.7% 6.7%
高校生・女=150 27.3% 44.0% 14.7% 5.3% 8.7%
中学生・男=150 48.7% 32.0% 4.0% 6.7% 8.7%
中学生・女=150 44.7% 34.7% 6.0% 4.0% 10.7%


【ﾍｱｹｱ商品】
100
100超～200未満
200～500未満
500～1000未満
1000～
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
全体=1000 43.6% 33.6% 4.6% 6.7% 11.5%
男=500 53.2% 27.6% 4.0% 7.6% 7.6%
女=500 34.0% 39.6% 5.2% 5.8% 15.4%
大学生=400 38.5% 38.8% 4.8% 5.3% 12.8%
高校生=300 40.0% 32.3% 6.7% 6.7% 14.3%
中学生=300 54.0% 28.0% 2.3% 8.7% 7.0%
大学生・男=200 47.5% 32.0% 5.0% 6.5% 9.0%
大学生・女=200 29.5% 45.5% 4.5% 4.0% 16.5%
高校生・男=150 52.0% 26.7% 6.7% 6.7% 8.0%
高校生・女=150 28.0% 38.0% 6.7% 6.7% 20.7%
中学生・男=150 62.0% 22.7% 0.0% 10.0% 5.3%
中学生・女=150 46.0% 33.3% 4.7% 7.3% 8.7%

【電子機器】

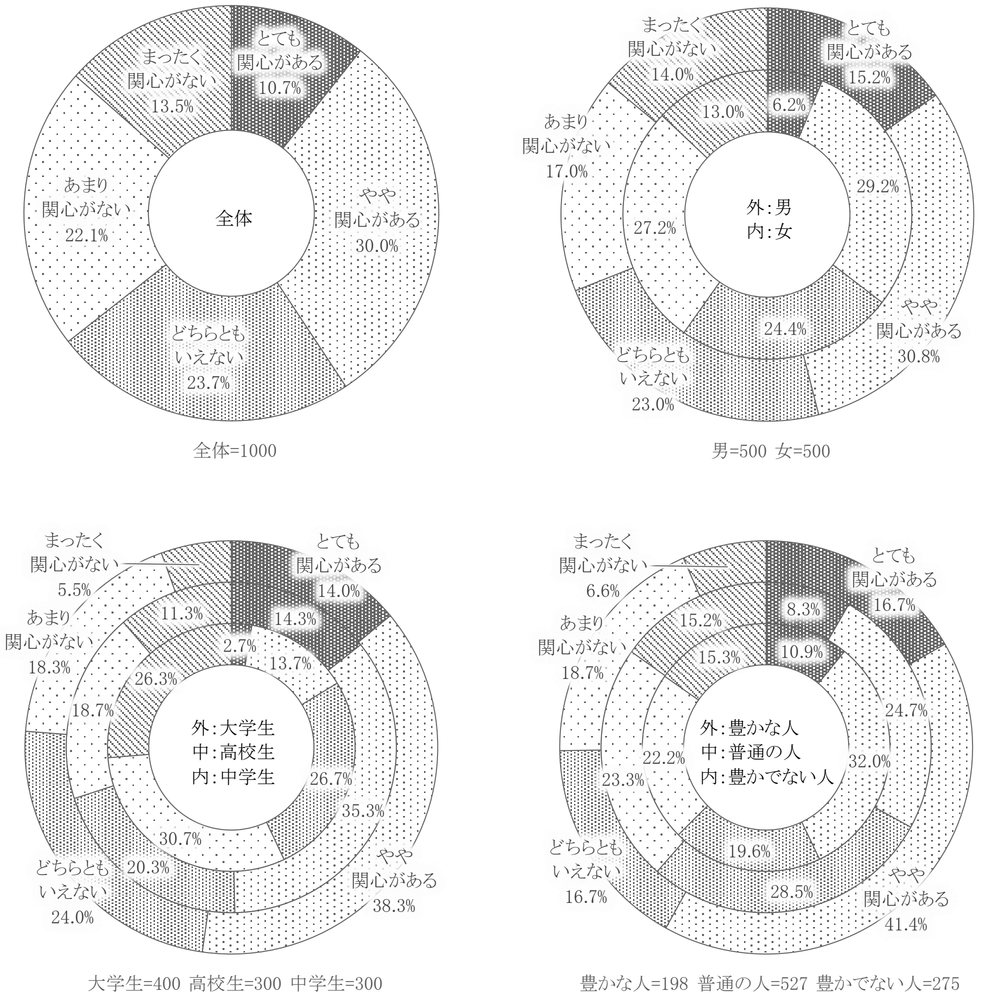

100
100超～200未満
200～500未満
500～1000未満
1000～
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体=1000
34.1%
38.9%
6.2%
2.0%
18.8%
男=500
35.0%
39.6%
6.2%
2.2%
17.0%
女=500
33.2%
38.2%
6.2%
1.8%
20.6%
大学生=400
32.3%
41.5%
6.3%
1.3%
18.8%
高校生=300
27.3%
38.7%
9.0%
3.7%
21.3%
中学生=300
43.3%
35.7%
3.3%
1.3%
16.3%
大学生・男=200
33.5%
42.0%
7.0%
0.5%
17.0%
大学生・女=200
31.0%
41.0%
5.5%
2.0%
20.5%
高校生・男=150
30.0%
39.3%
8.7%
5.3%
16.7%
高校生・女=150
24.7%
38.0%
9.3%
2.0%
26.0%
中学生・男=150
42.0%
36.7%
1.3%
17.3%
中学生・女=150
44.7%
34.7%
1.3%
15.3%

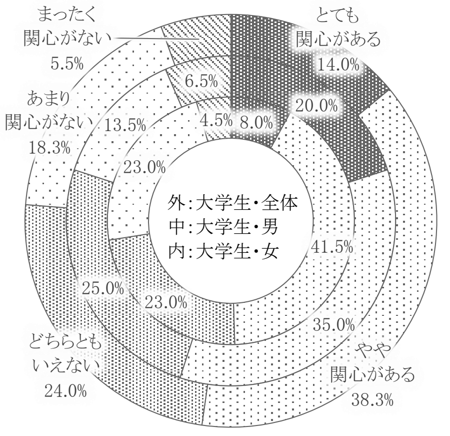
## 2. ESG 投資に対する認知

### 2.1. 金融や経済への関心および金融や経済に関して学ぶ機会

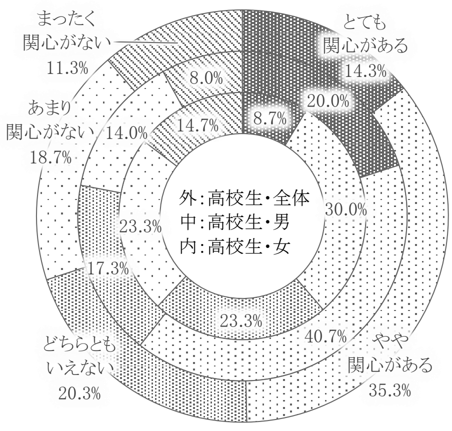
- 金融や経済への関心を持つ（「とても関心がある」、「やや関心がある」）若者は全体で 40.7%であり、男子で 46.0%、女子で 35.4%である。
- さらに学生および性別ごとに金融や経済への関心を持つ若者の比率を比べると、大学生（男子）では 55.0%、大学生（女子）では 49.5%、高校生（男子）では 60.7%、高校生（女子）では 38.7%、中学生（男子）では 19.3%、中学生（女子）では 13.3%である。男子の方が女子よりも金融や経済への関心が高い状況がうかがえる。
- 経済状況別では、豊かであると回答した若者（58.1%）が最も多く、次に豊かでないと回答した若者（42.9%）、普通と回答した若者（33.0%）と続く。

図表 18 金融や経済への関心（単一選択）

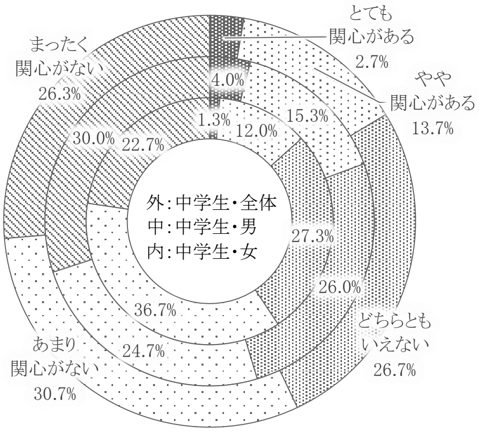





大学生・全体=400 大学生・男=200 大学生・女=200

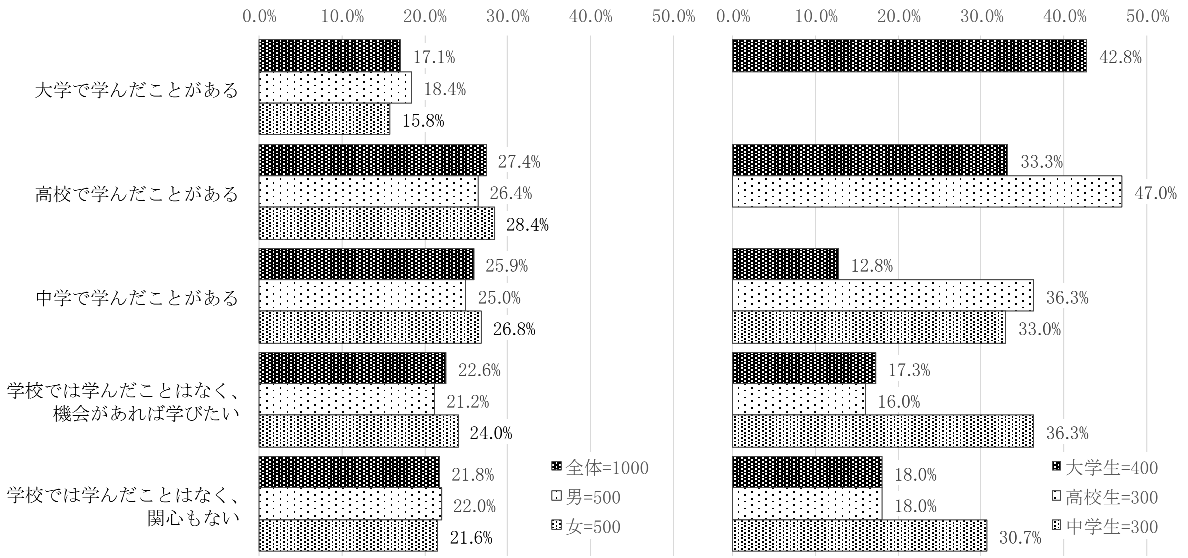



高校生・全体=300 高校生・男=150 高校生・女=150




中学生・全体=300 中学生・男=150 中学生・女=150

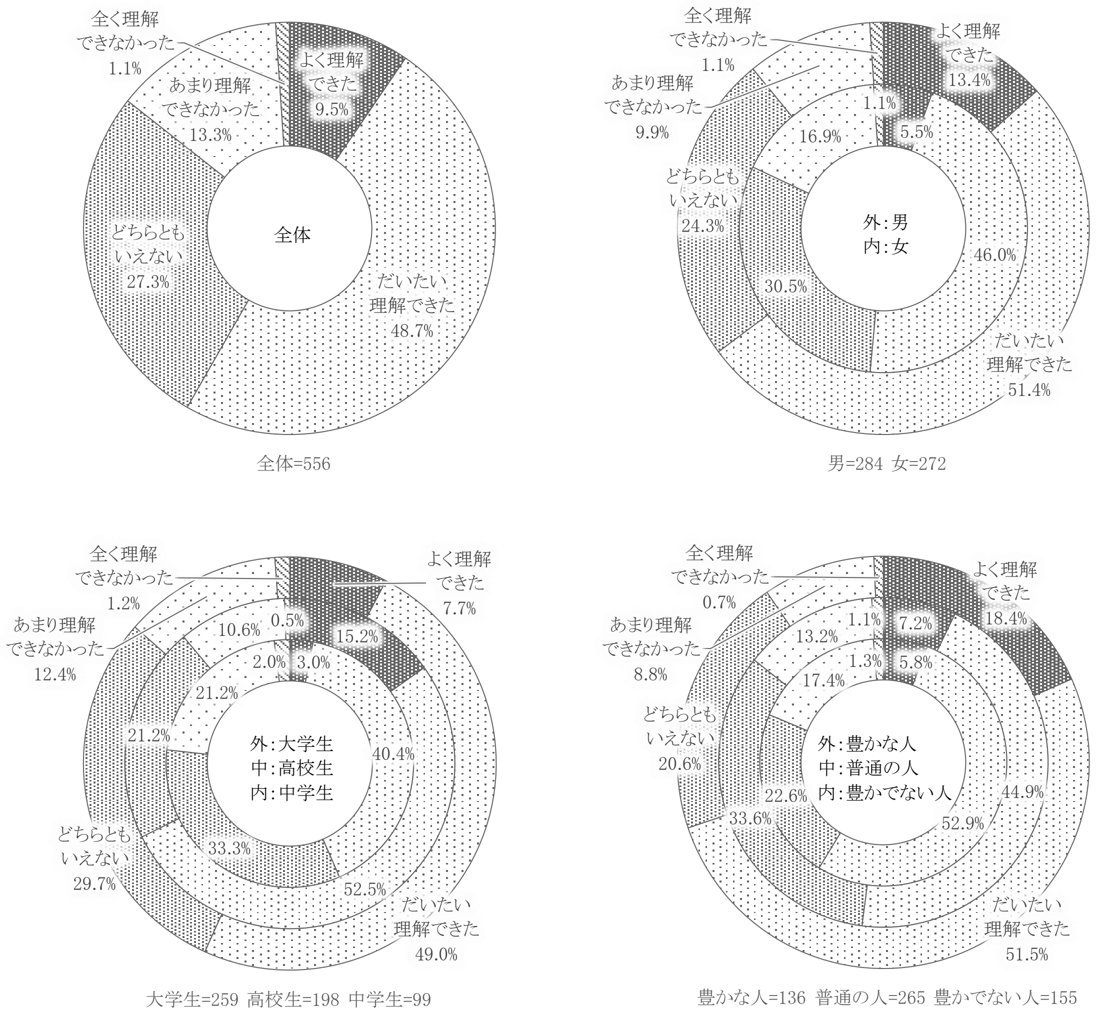
## 図表 19 学校で、金融や経済（投資、家計管理など）について授業で学んだ経験（複数選択）

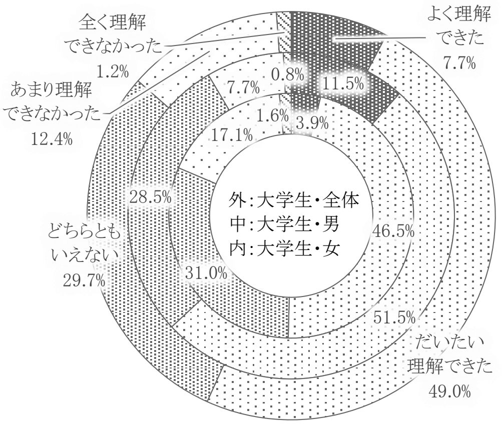


## 2.2. 金融や経済についての授業の理解度

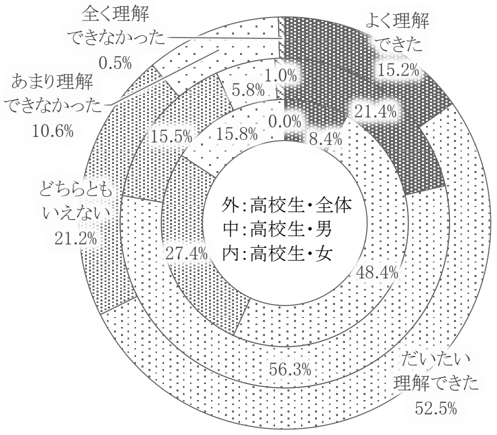
・金融や経済についての授業を受けたことがある若者のうち、理解ができたと感じている若者（「よく理解できた」、「だいたい理解できた」）若者は全体で58.2%であり、男子で64.8%、女子で51.5%である。
・学生別では、高校生が67.7%と最も高く、大学生（56.7%）、中学生（43.4%）と続く。
・さらに学生および性別ごとに理解ができたと感じている若者の比率を比べると、大学生（男子）では63.0%、大学生（女子）では50.4%、高校生（男子）では77.7%、高校生（女子）では56.8%、中学生（男子）では43.2%、中学生（女子）では43.8%である。高校生以上では、男子の方が女子よりも金融や経済への理解度が高くなる状況がうかがえる。

図表 20 金融や経済についての授業の理解度（単一選択）

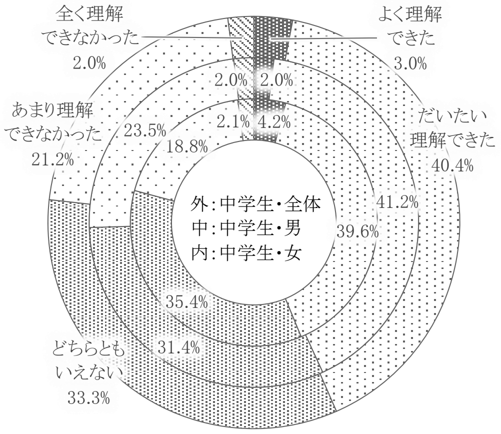





大学生・全体=259 大学生・男=130 大学生・女=129




高校生・全体=198 高校生・男=103 高校生・女=95

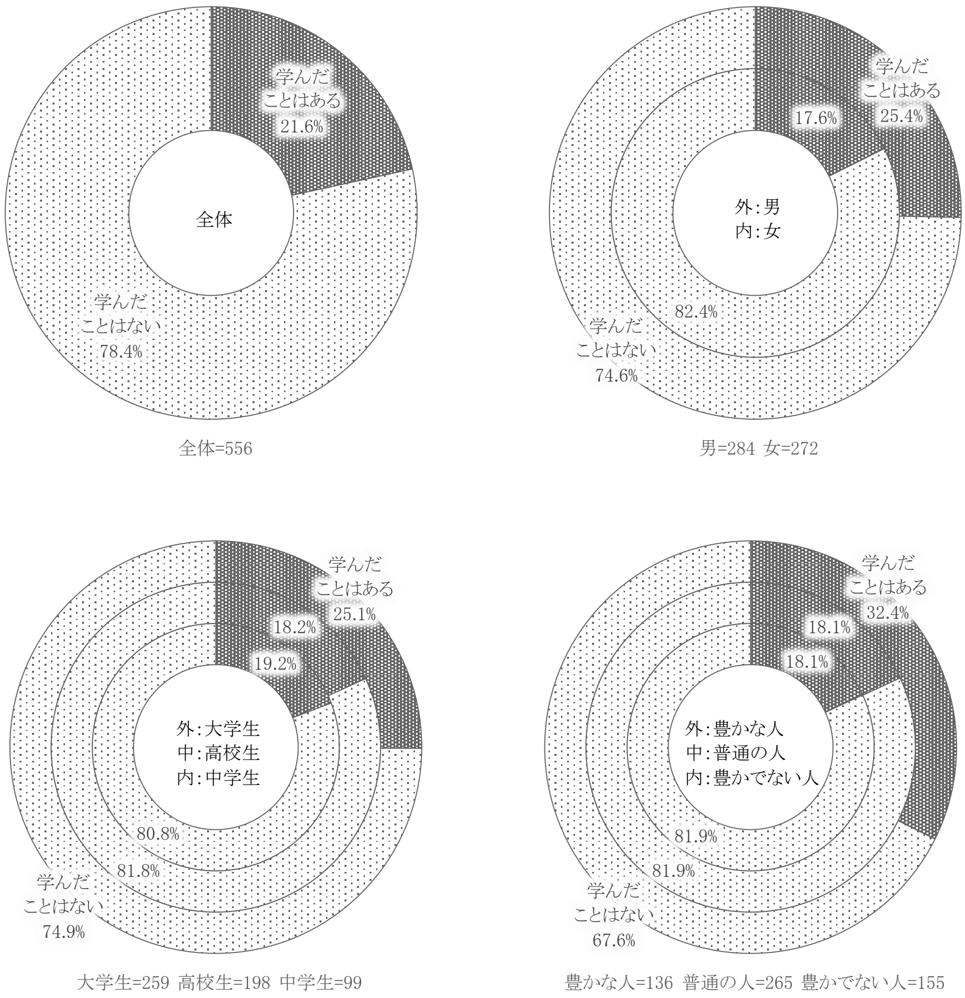



中学生・全体=99 中学生・男=51 中学生・女=48

## 2.3. 授業で ESG 投資や SRI 投資という言葉を学んだか

・金融や経済についての授業を受けたことがある若者のうち、ESG 投資や SRI 投資という言葉を学んだことがある若者は全体で 21.6%であり、男子で 25.4%、女子で 17.6%である。
・学生別では、大学生が 25.1%と最も高く、中学生（19.2%）、高校生（18.2%）と続く。

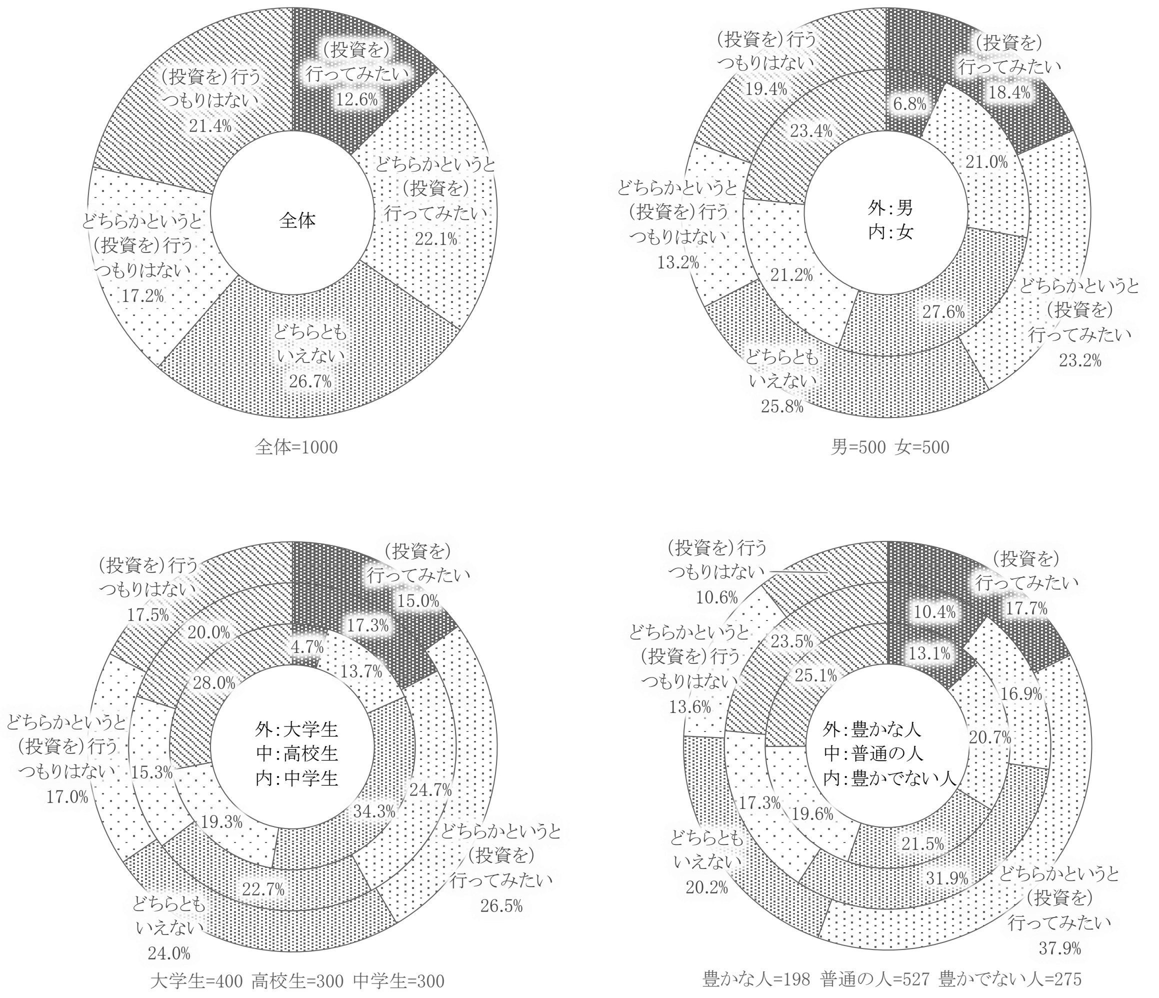
図表 21 授業で ESG 投資や SRI 投資という言葉を学んだか（単一選択）

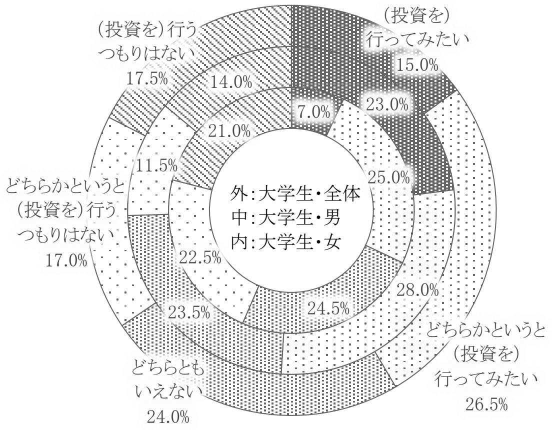


## 2.4. 投資の意欲

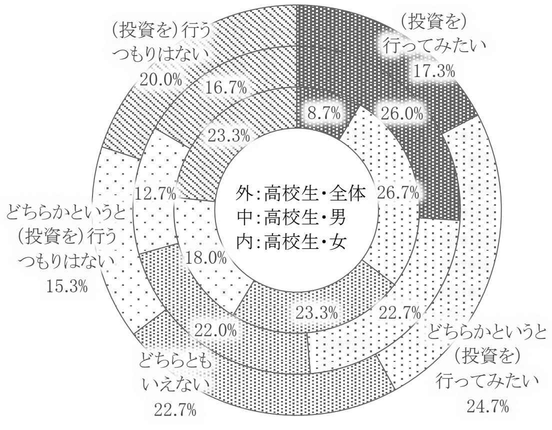
- 株式や債券等金融商品に対して、投資への意欲を持つ（「(投資を）行ってみたい」、「どちらかというと（投資を）行ってみたい」）若者は全体で 34.7%であり、男子で 41.6%、女子で 27.8%である。
- 学生別では、高校生（42.0%）が最も多く、大学生（41.5%）、中学生（18.4%）と続く。
- さらに学生および性別ごとに投資への意欲を持つ若者の比率を比べると、大学生（男子）では 51.0%、大学生（女子）では 32.0%、高校生（男子）では 48.7%、高校生（女子）では 35.4%、中学生（男子）では 22.0%、中学生（女子）では 14.7%である。男子の方が女子よりも投資への意欲が高く、男子については年齢が高くなるほどその傾向は強くなっている。

図表 22 投資の意欲（単一選択）

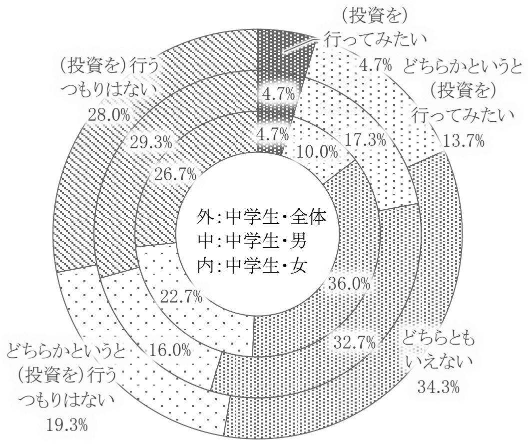





大学生・全体=400 大学生・男=200 大学生・女=200




高校生・全体=300 高校生・男=150 高校生・女=150

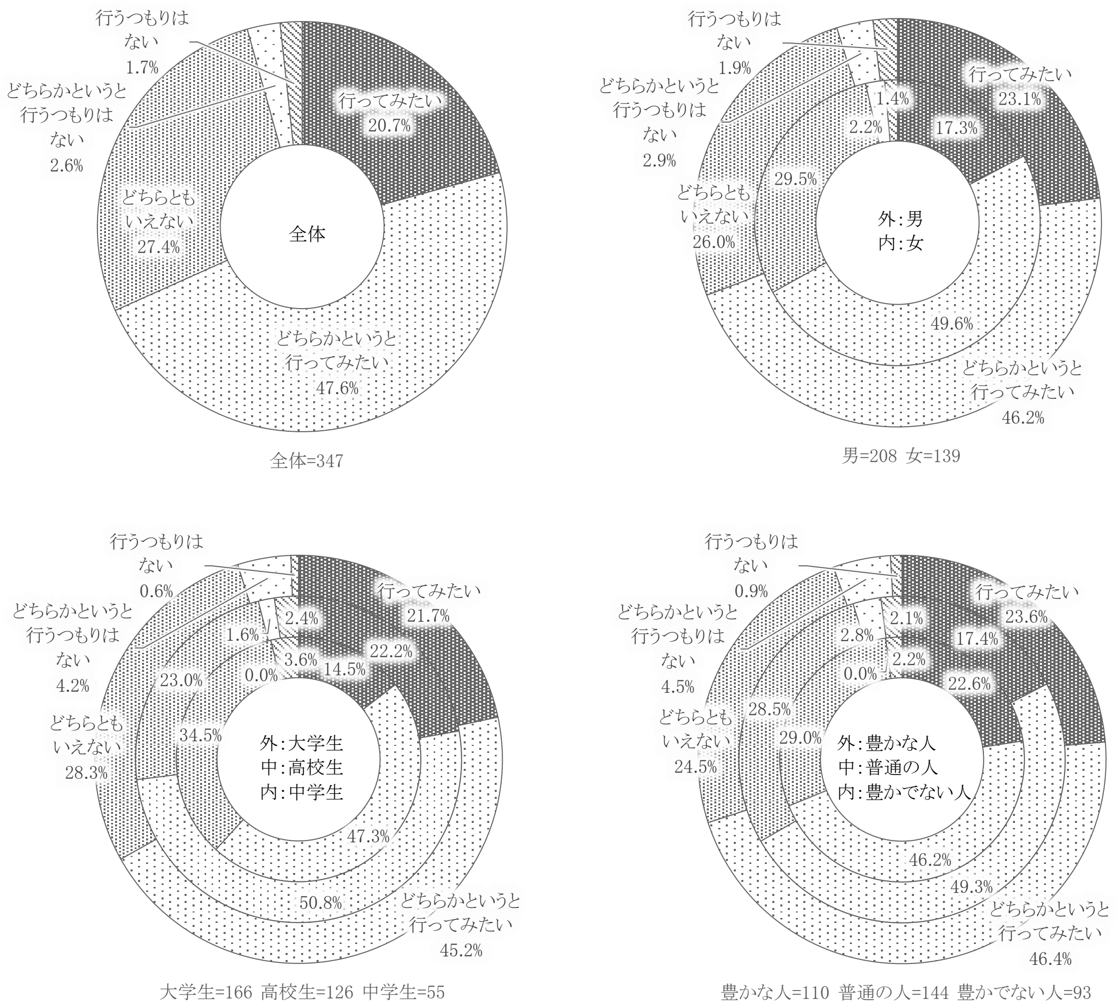


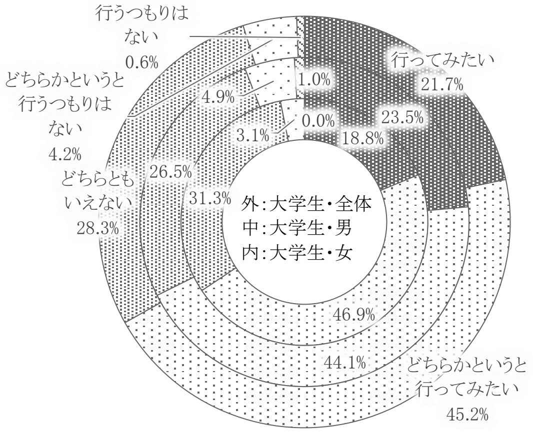

中学生・全体=300 中学生・男=150 中学生・女=150

## 2.5. 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲

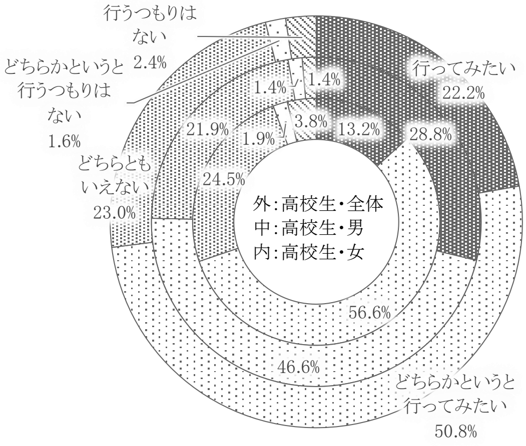
- 投資への意欲がある若者のうち、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲を持つ若者（「行ってみたい」、「どちらかというと行ってみたい」）若者は全体で68.3％であり、男子で69.3％、女子で66.9％である。
- 学生別では、高校生が73.0％と最も高く、大学生（66.9％）、中学生（61.8％）と続く。
- さらに学生および性別ごとに環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲を持つ若者の比率を比べると、大学生（男子）では67.6％、大学生（女子）では65.7％、高校生（男子）では75.4％、高校生（女子）では69.8％、中学生（男子）では60.6％、中学生（女子）では63.6％である。
- 経済状況別では、豊かであると回答した若者（70.0％）が最も多く、次に豊かでないと回答した若者（68.8％）、普通と回答した若者（66.7％）と続く。

図表 23 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲（単一選択）

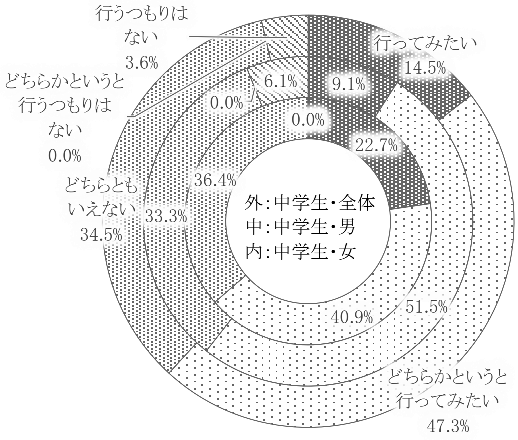





大学生・全体=166 大学生・男=102 大学生・女=64




高校生・全体=126 高校生・男=73 高校生・女=53

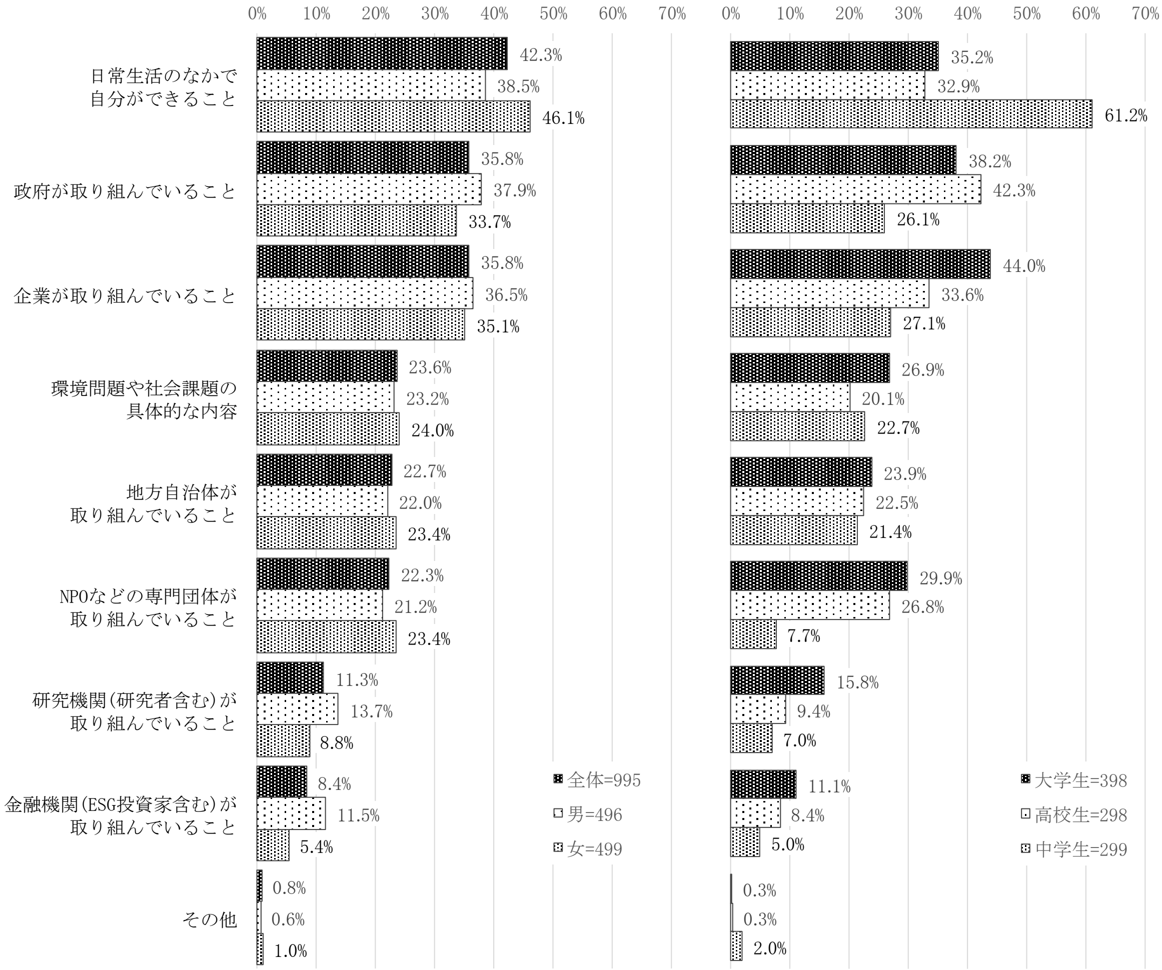



中学生・全体=55 中学生・男=33 中学生・女=22

## 2.6. 今後、環境問題や社会課題に関心をより深めると思うきっかけ

- 全体では、「日常のなかで自分ができること」(42.3%)、「政府が取り組んでいること」(35.8%)、「企業が取り組んでいること」(35.8%)が上位となり、大きな男女差は見られなかった。
- 大学生では「企業が取り組んでいること」が(44.0%)と最も回答が多く、中学生では、「日常のなかで自分ができること」が(61.2%)と他に突出した結果となった。(図表 24)。

図表 24 今後、環境問題や社会課題に関心をより深めると思うきっかけ(複数選択)




注 「その他」には、学校など、好きな著名人の活動や情報が各2件、気軽に参加できるサークルなど、テレビ、ゲームが各1件あった。

# 3. キャリアへの考え方

## 3.1. 労働価値観

就業継続に関する意思決定に影響を与える労働価値観：

○ 一般に、就業継続にあたっては、仕事に対する本人の考え方が影響すると考えられる。具体的には、「働くことによって得られる便益」と「働くことに伴う費用」を天秤にかけ、便益が費用を上回れば就業を行うという意思決定が下されると考えられる。ただし、便益、費用ともその考え方は個人によって異なる主観的なものと考えられる。

○ 「働くことによって得られる便益」は、働くことによって得られる給与所得や会社における安定的な地位の確保といった外的報酬と、仕事を通じて得られる自己成長や仕事そのものの面白さ・楽しさといった内的報酬に大別することができる。

○ 「働くことに伴う費用」は、仕事をすることによって諦めなければならない家族・プライベートの時間といった時間に関するものに加え、仕事によって負わなければならない精神的なストレスや肉体的な疲労といったものが含まれる。これをまとめると、「働くことに伴う費用」は、ハードワークに対する許容度合いと言い換えることができる。

○ 以上をまとめると、就業継続に関する意思決定には、「外的報酬に対する欲求」「内的報酬に対する欲求」「ハードワークに対する許容度合い」の3つにより構成される「労働価値観」が総合的に影響していると考えられる。

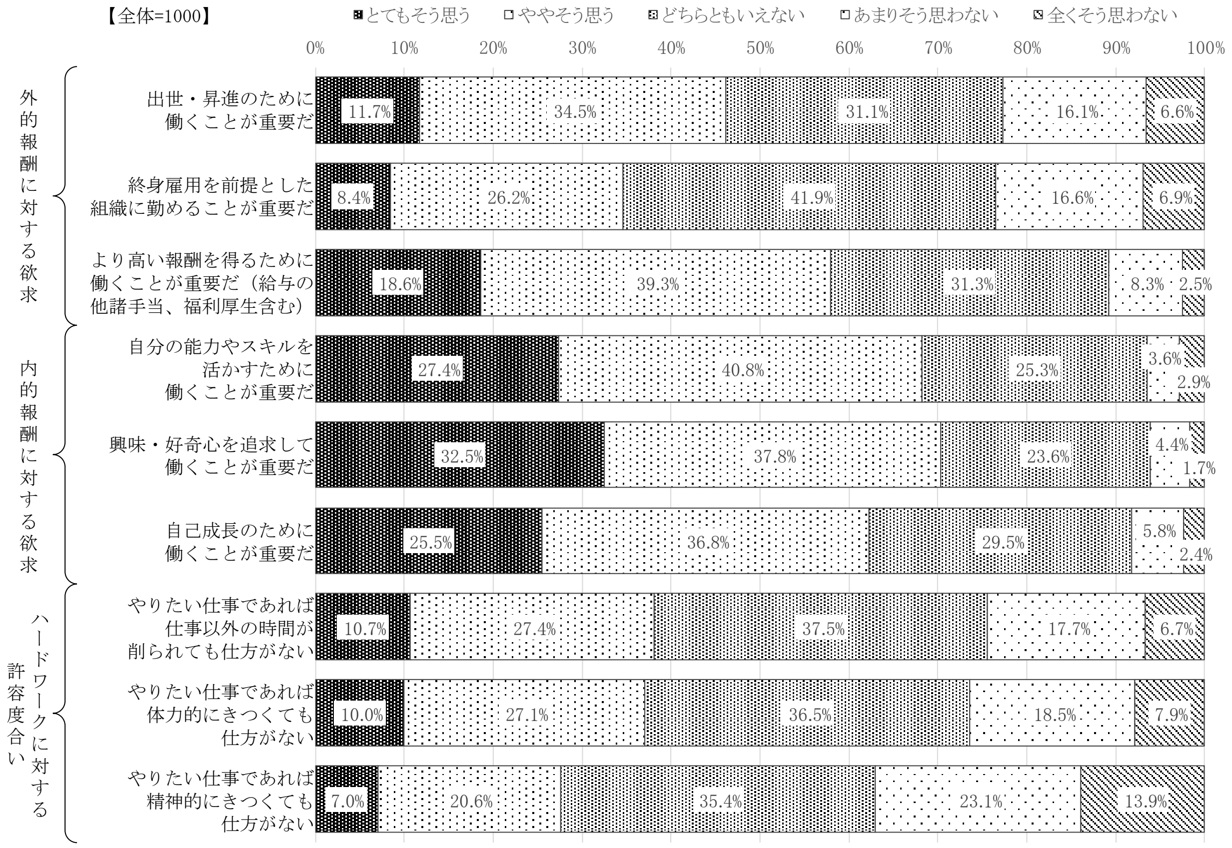
○ なお、アンケート調査結果を用いて行った確認的因子分析の結果からも、就業を巡る価値観として、「外的報酬に対する欲求」「内的報酬に対する欲求」「ハードワークに対する許容度合い」の3つの共通因子が得られており、上記の仮説を支持する結果となっている（参考資料の参考①を参照）。

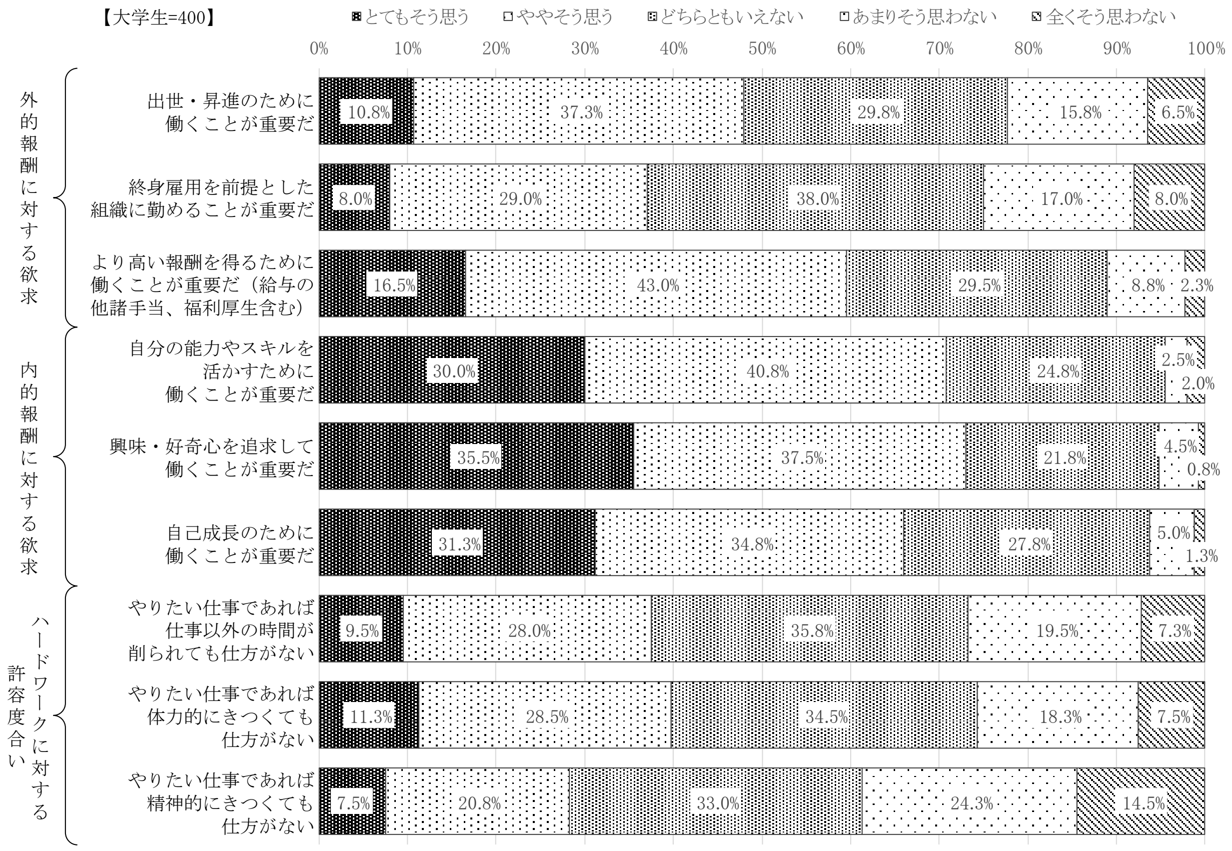
若者全体の労働価値観：

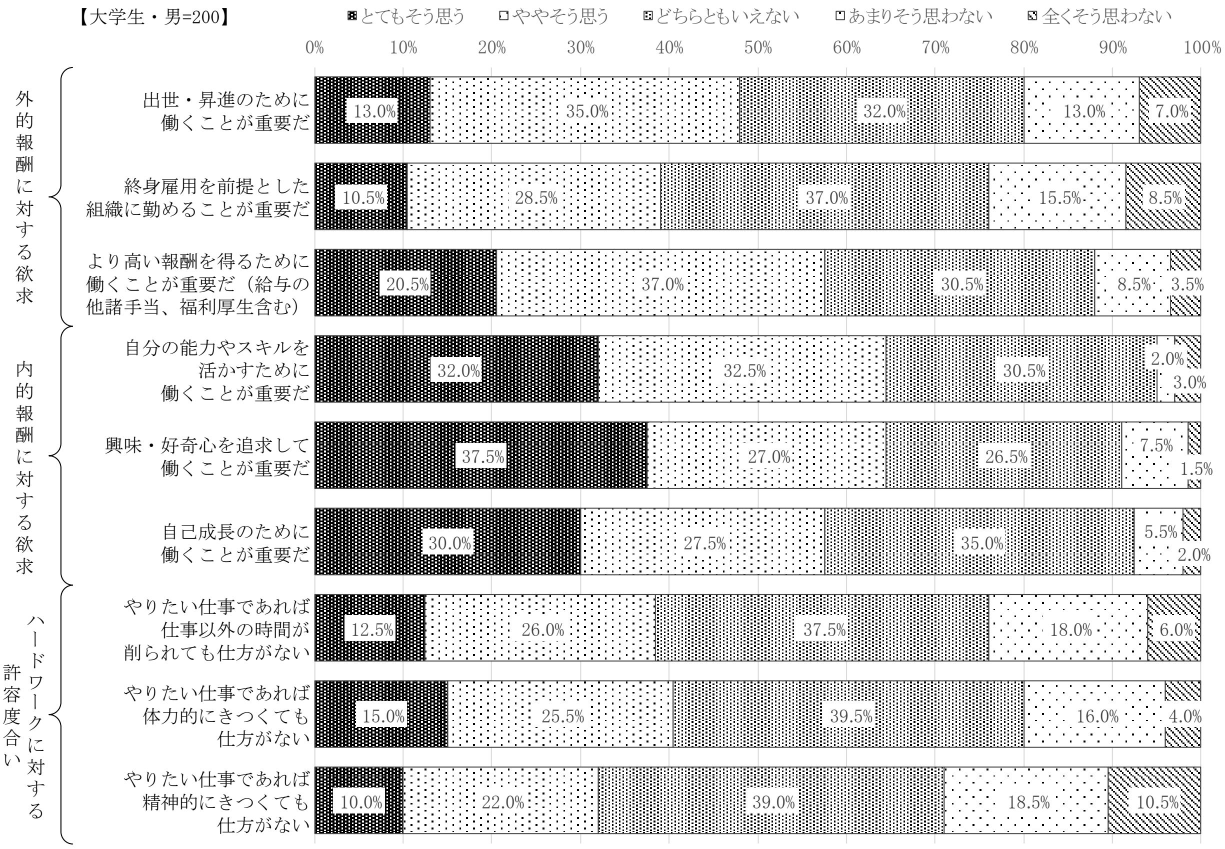
○ 「労働価値観」に関する9つの質問に対する回答結果（**図表 25**）から、下記の点が浮かび上がった。

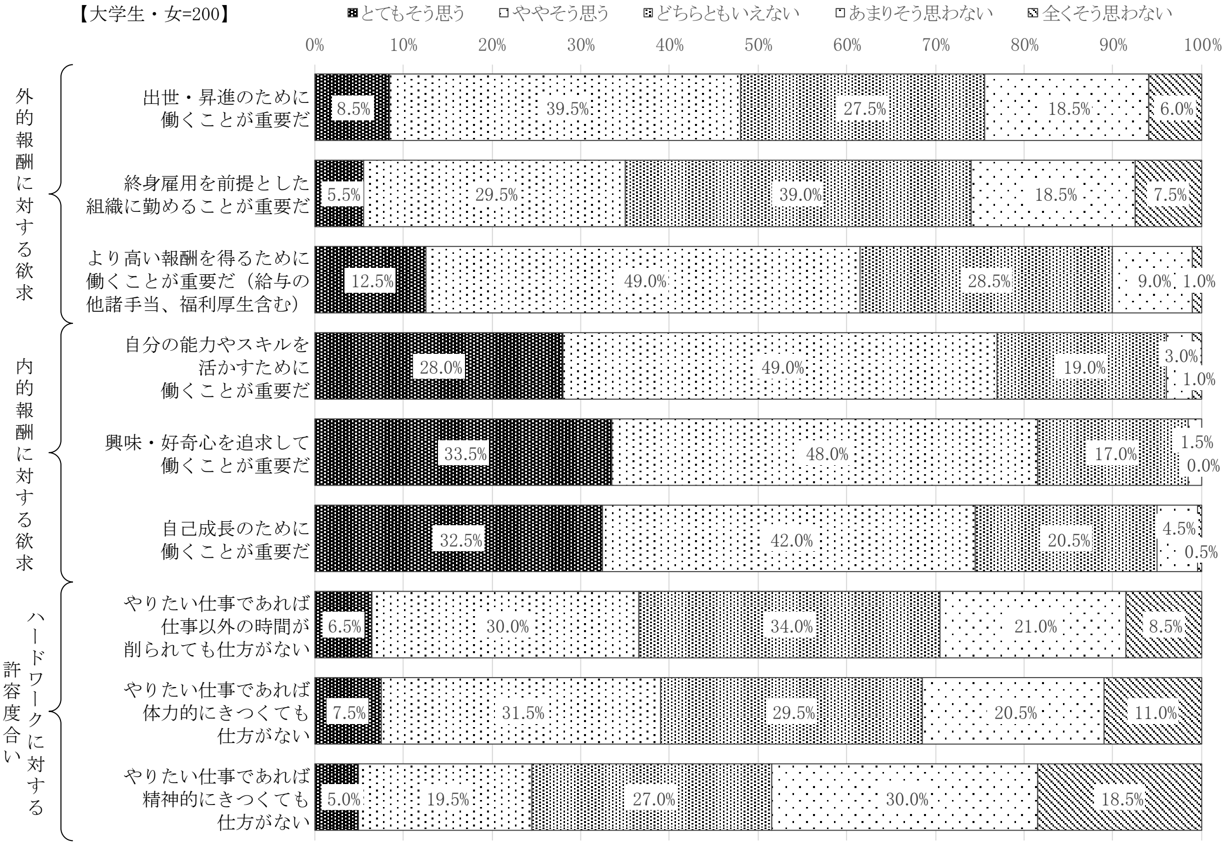
- 「外的報酬に対する欲求」に関して、より高い報酬を得たいという欲求は強い傾向にある。
- 「内的報酬に対する欲求」は、外的報酬に対する欲求と比べて総じて強い。
- 「ハードワークに対する許容度」においては、許容度が低い傾向にある。特に、「やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない」と思わない若者は、他の2設問に比べて相対的に多い。

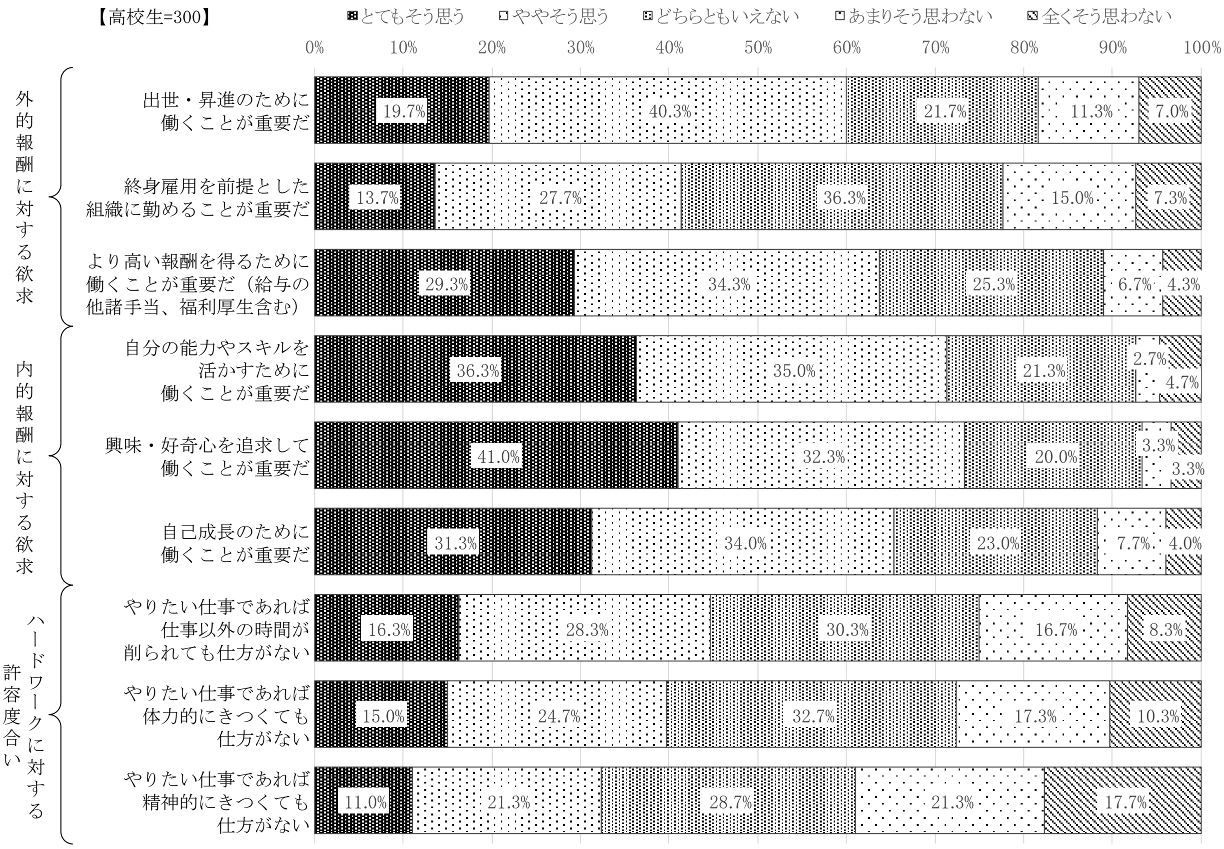
# 図表 25 労働価値観に関する質問に対する回答分布

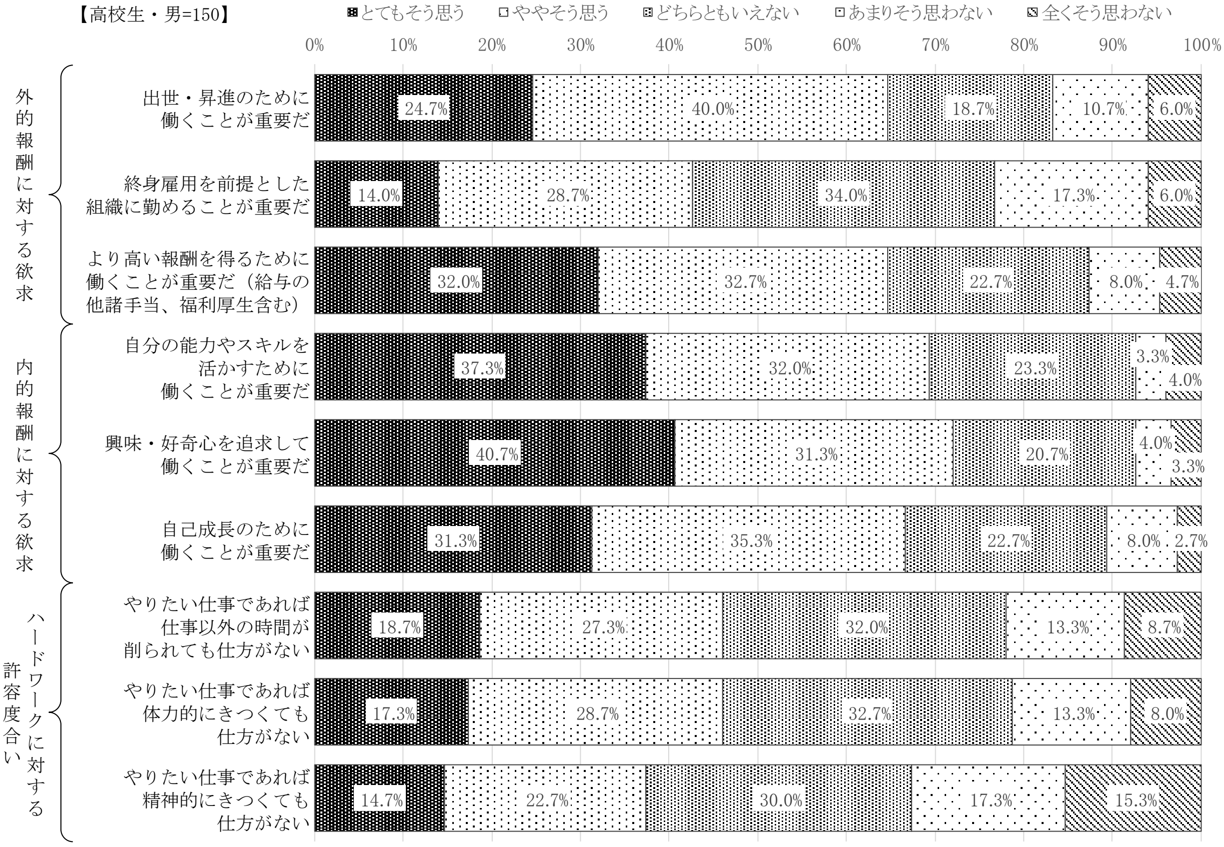


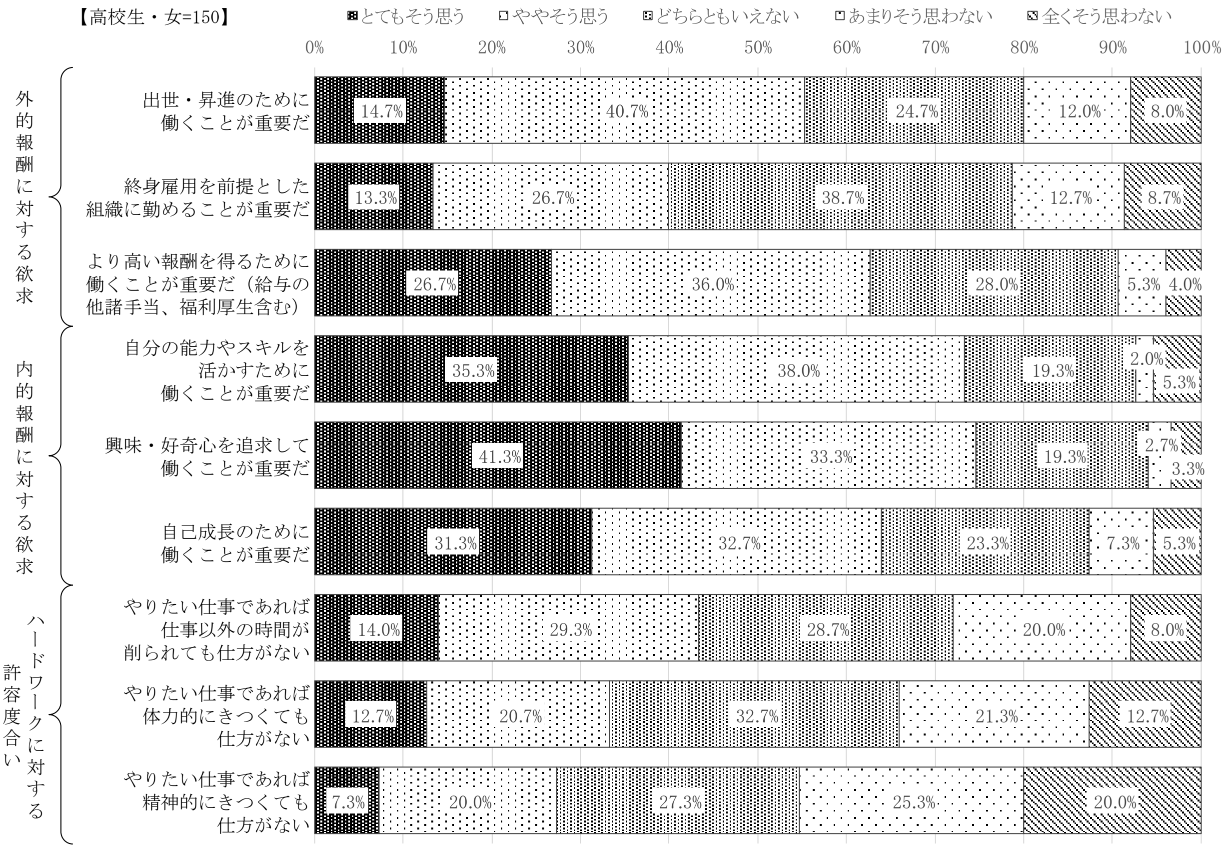



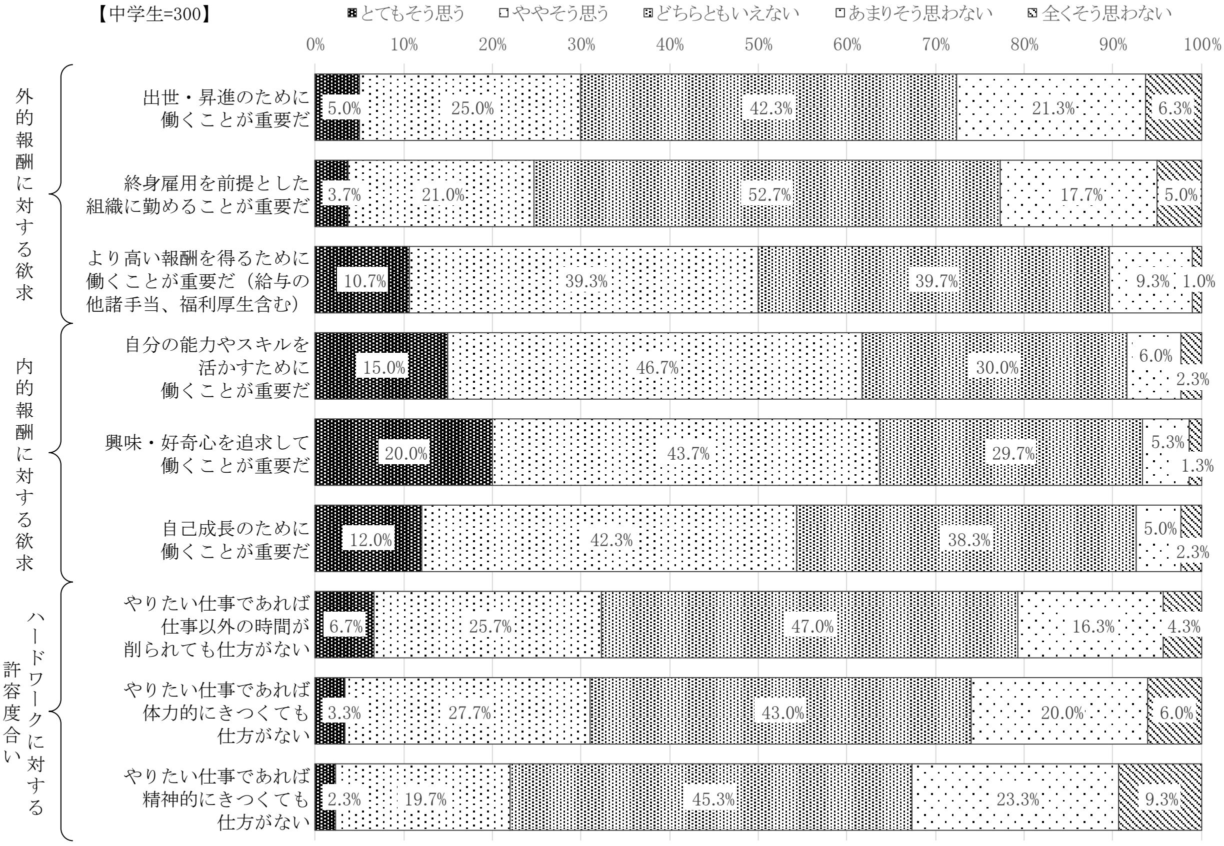

【大学生・男=200】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
内的報酬に対する欲求
ハードワークに対する許容度合い
出世・昇進のために働くことが重要だ
13.0%
35.0%
32.0%
13.0%
7.0%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
10.5%
28.5%
37.0%
15.5%
8.5%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
20.5%
37.0%
30.5%
8.5%
3.5%
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
32.0%
32.5%
30.5%
2.0%
3.0%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
37.5%
27.0%
26.5%
7.5%
1.5%
自己成長のために働くことが重要だ
30.0%
27.5%
35.0%
5.5%
2.0%
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
12.5%
26.0%
37.5%
18.0%
6.0%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
15.0%
25.5%
39.5%
16.0%
4.0%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
10.0%
22.0%
39.0%
18.5%
10.5%

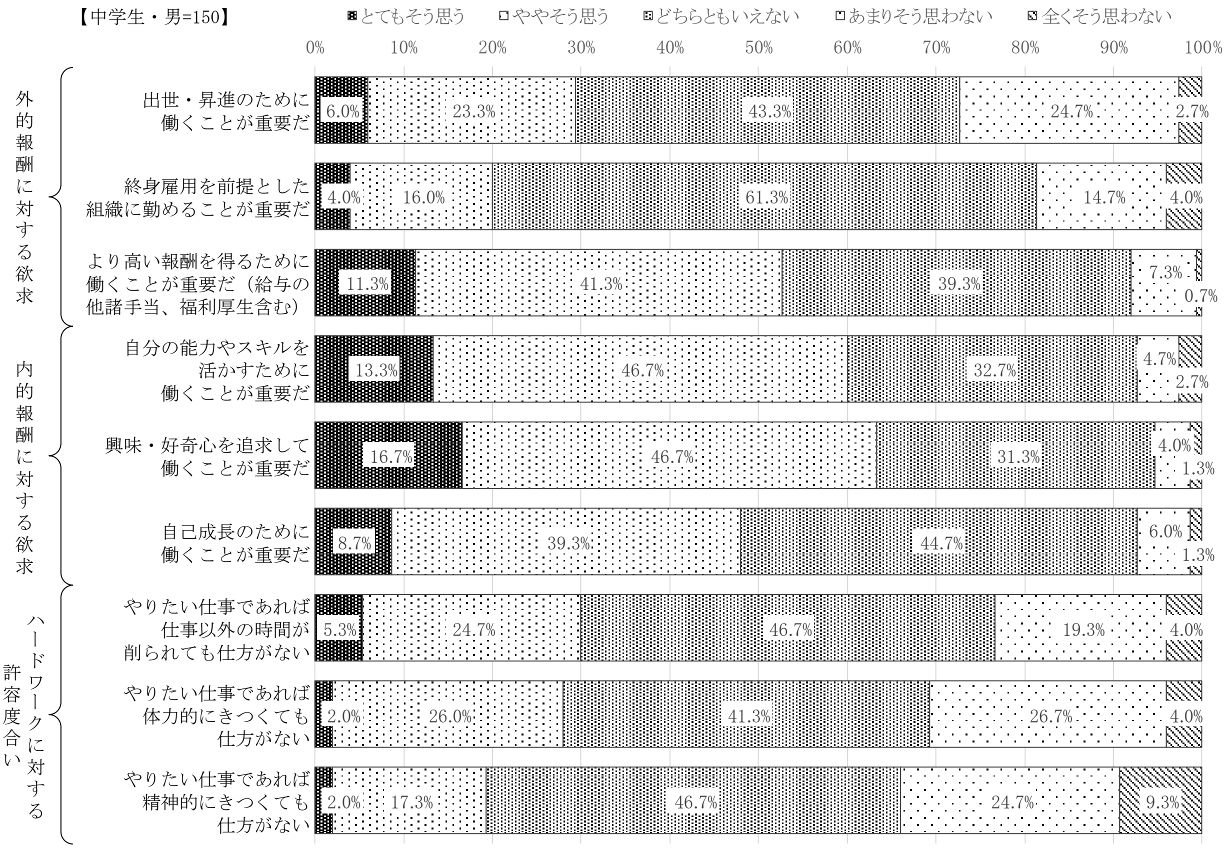

【大学生・女=200】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
内的報酬に対する欲求
ハードワークに対する許容度合い
出世・昇進のために働くことが重要だ
8.5%
39.5%
27.5%
18.5%
6.0%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
5.5%
29.5%
39.0%
18.5%
7.5%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
12.5%
49.0%
28.5%
9.0%
1.0%
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
28.0%
49.0%
19.0%
3.0%
1.0%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
33.5%
48.0%
17.0%
1.5%
0.0%
自己成長のために働くことが重要だ
32.5%
42.0%
20.5%
4.5%
0.5%
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
6.5%
30.0%
34.0%
21.0%
8.5%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
7.5%
31.5%
29.5%
20.5%
11.0%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
5.0%
19.5%
27.0%
30.0%
18.5%

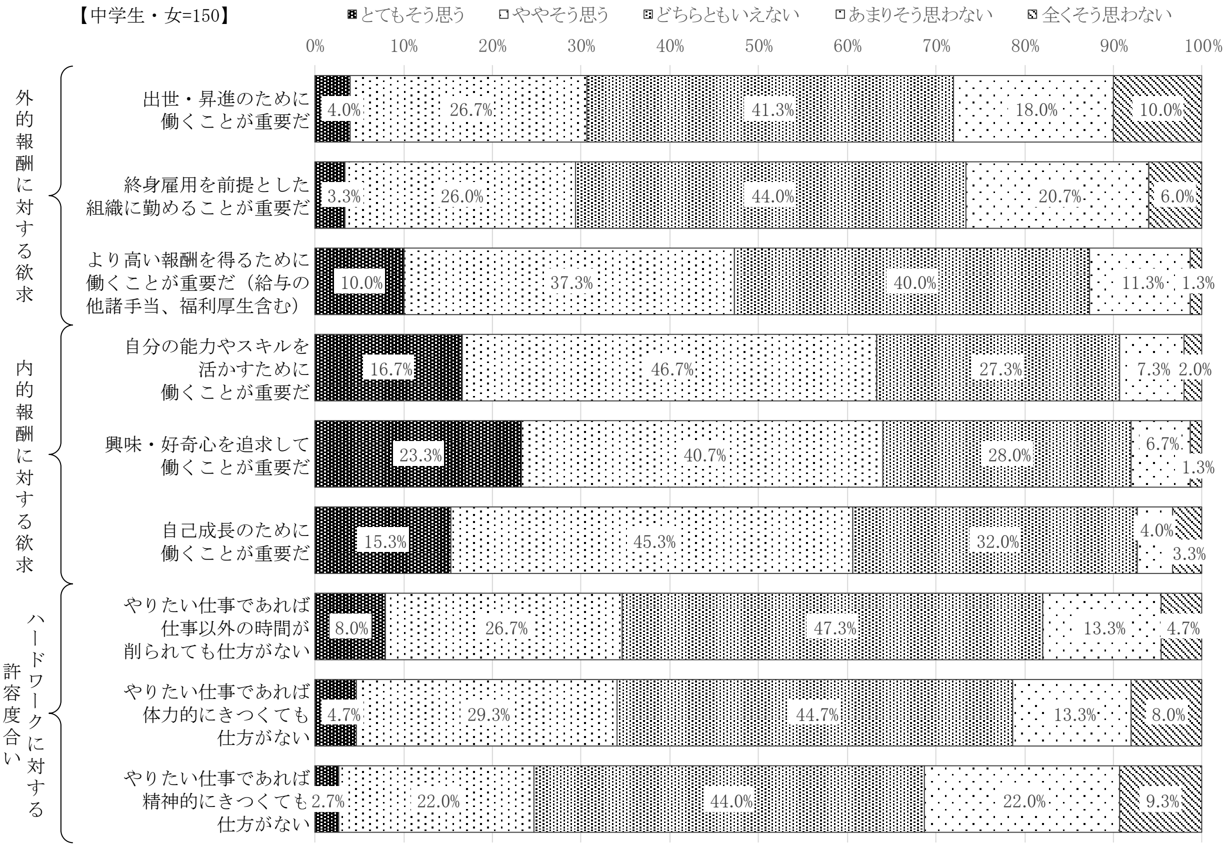

【高校生=300】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
出世・昇進のために働くことが重要だ
19.7%
40.3%
21.7%
11.3%
7.0%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
13.7%
27.7%
36.3%
15.0%
7.3%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
29.3%
34.3%
25.3%
6.7%
4.3%
内的報酬に対する欲求
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
36.3%
35.0%
21.3%
2.7%
4.7%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
41.0%
32.3%
20.0%
3.3%
3.3%
自己成長のために働くことが重要だ
31.3%
34.0%
23.0%
7.7%
4.0%
ハードワークに対する許容度合い
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
16.3%
28.3%
30.3%
16.7%
8.3%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
15.0%
24.7%
32.7%
17.3%
10.3%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
11.0%
21.3%
28.7%
21.3%
17.7%


【高校生・男=150】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
出世・昇進のために働くことが重要だ
24.7%
40.0%
18.7%
10.7%
6.0%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
14.0%
28.7%
34.0%
17.3%
6.0%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
32.0%
32.7%
22.7%
8.0%
4.7%
内的報酬に対する欲求
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
37.3%
32.0%
23.3%
3.3%
4.0%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
40.7%
31.3%
20.7%
4.0%
3.3%
自己成長のために働くことが重要だ
31.3%
35.3%
22.7%
8.0%
2.7%
ハードワークに対する許容度合い
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
18.7%
27.3%
32.0%
13.3%
8.7%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
17.3%
28.7%
32.7%
13.3%
8.0%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
14.7%
22.7%
30.0%
17.3%
15.3%


【高校生・女=150】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
出世・昇進のために働くことが重要だ
14.7%
40.7%
24.7%
12.0%
8.0%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
13.3%
26.7%
38.7%
12.7%
8.7%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
26.7%
36.0%
28.0%
5.3%
4.0%
内的報酬に対する欲求
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
35.3%
38.0%
19.3%
2.0%
5.3%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
41.3%
33.3%
19.3%
2.7%
3.3%
自己成長のために働くことが重要だ
31.3%
32.7%
23.3%
7.3%
5.3%
ハードワークに対する許容度合い
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
14.0%
29.3%
28.7%
20.0%
8.0%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
12.7%
20.7%
32.7%
21.3%
12.7%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
7.3%
20.0%
27.3%
25.3%
20.0%

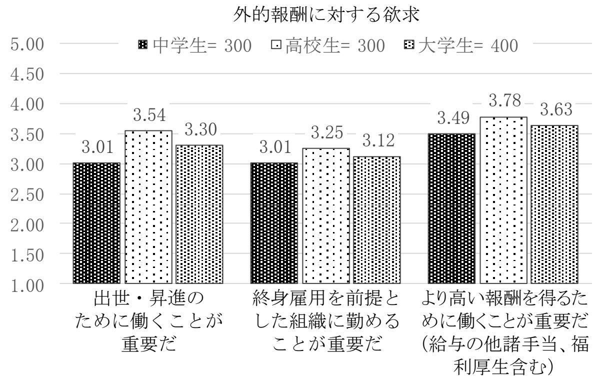

【中学生=300】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
出世・昇進のために働くことが重要だ
5.0%
25.0%
42.3%
21.3%
6.3%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
3.7%
21.0%
52.7%
17.7%
5.0%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
10.7%
39.3%
39.7%
9.3%
1.0%
内的報酬に対する欲求
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
15.0%
46.7%
30.0%
6.0%
2.3%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
20.0%
43.7%
29.7%
5.3%
1.3%
自己成長のために働くことが重要だ
12.0%
42.3%
38.3%
5.0%
2.3%
ハードワークに対する許容度合い
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
6.7%
25.7%
47.0%
16.3%
4.3%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
3.3%
27.7%
43.0%
20.0%
6.0%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
2.3%
19.7%
45.3%
23.3%
9.3%

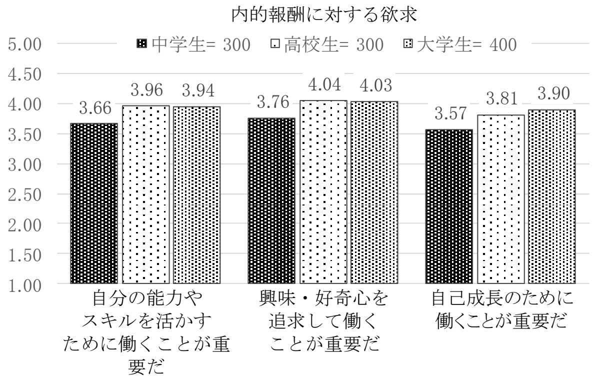

【中学生・男=150】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
出世・昇進のために働くことが重要だ
6.0%
23.3%
43.3%
24.7%
2.7%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
4.0%
16.0%
61.3%
14.7%
4.0%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
11.3%
41.3%
39.3%
7.3%
0.7%
内的報酬に対する欲求
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
13.3%
46.7%
32.7%
4.7%
2.7%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
16.7%
46.7%
31.3%
4.0%
1.3%
自己成長のために働くことが重要だ
8.7%
39.3%
44.7%
6.0%
1.3%
ハードワークに対する許容度合い
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
5.3%
24.7%
46.7%
19.3%
4.0%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
2.0%
26.0%
41.3%
26.7%
4.0%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
2.0%
17.3%
46.7%
24.7%
9.3%

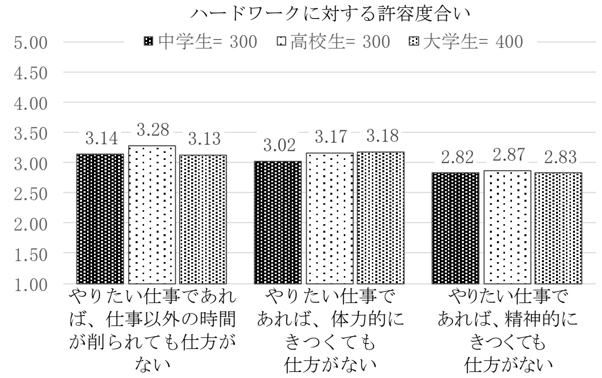

【中学生・女=150】
とてもそう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
外的報酬に対する欲求
出世・昇進のために働くことが重要だ
4.0%
26.7%
41.3%
18.0%
10.0%
終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
3.3%
26.0%
44.0%
20.7%
6.0%
より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む）
10.0%
37.3%
40.0%
11.3%
1.3%
内的報酬に対する欲求
自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
16.7%
46.7%
27.3%
7.3%
2.0%
興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
23.3%
40.7%
28.0%
6.7%
1.3%
自己成長のために働くことが重要だ
15.3%
45.3%
32.0%
4.0%
3.3%
ハードワークに対する許容度合い
やりたい仕事であれば仕事以外の時間が削られても仕方がない
8.0%
26.7%
47.3%
13.3%
4.7%
やりたい仕事であれば体力的にきつくても仕方がない
4.7%
29.3%
44.7%
13.3%
8.0%
やりたい仕事であれば精神的にきつくても仕方がない
2.7%
22.0%
44.0%
22.0%
9.3%

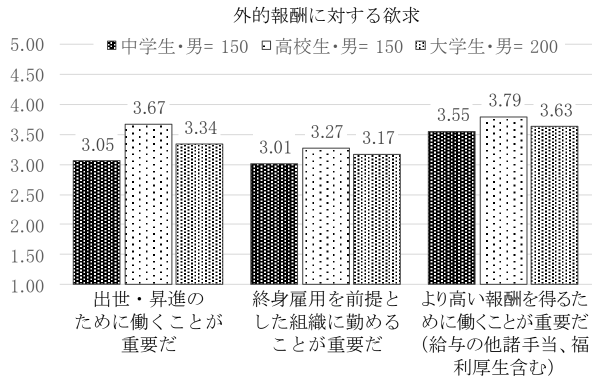
・「外的報酬に対する欲求」については、出世・昇進への欲求、終身雇用を前提とした働き方、より高い報酬への欲求という 3 つのすべての項目において、大学生、中学生に比べて、高校生の欲求が最も高い。
・「内的報酬に対する欲求」については、大学生と高校生は同程度の水準であるが、中学生においては、3 つのすべての項目において欲求が最も低い。
・「ハードワークに対する許容度合い」については、大学生、高校生、中学生すべて同程度の水準である。

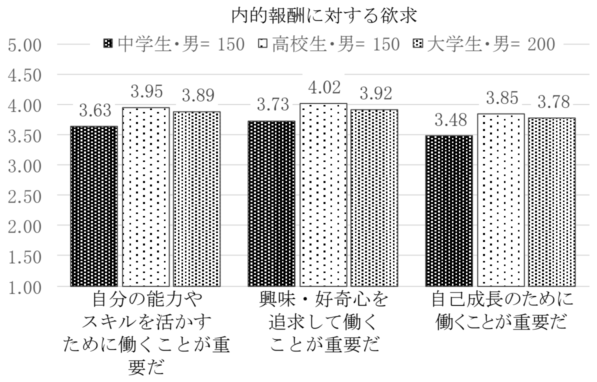
**図表 26 労働価値観とその変化（単一選択）**

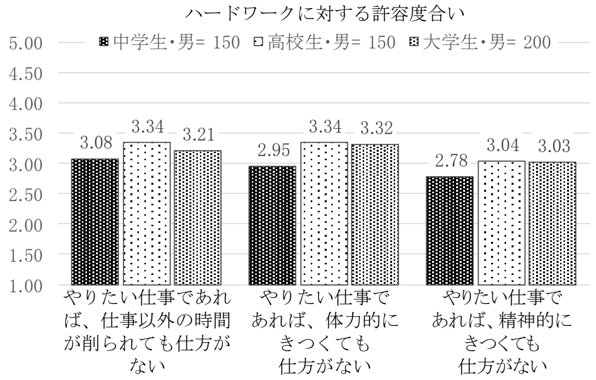


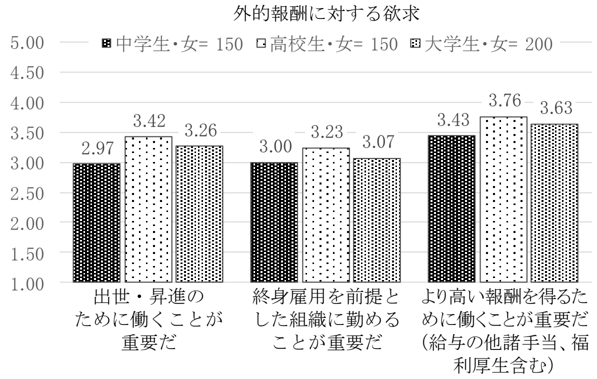



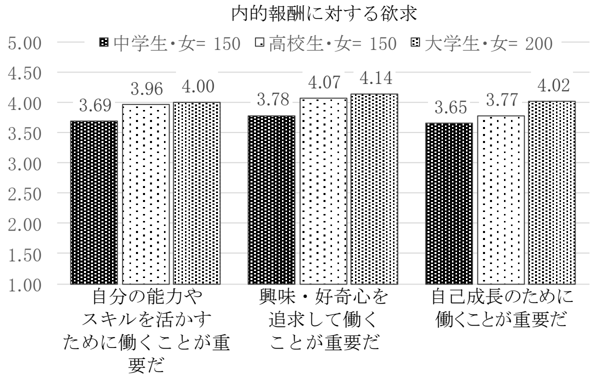



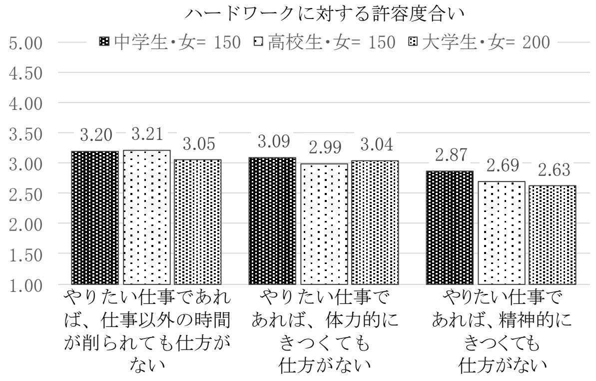





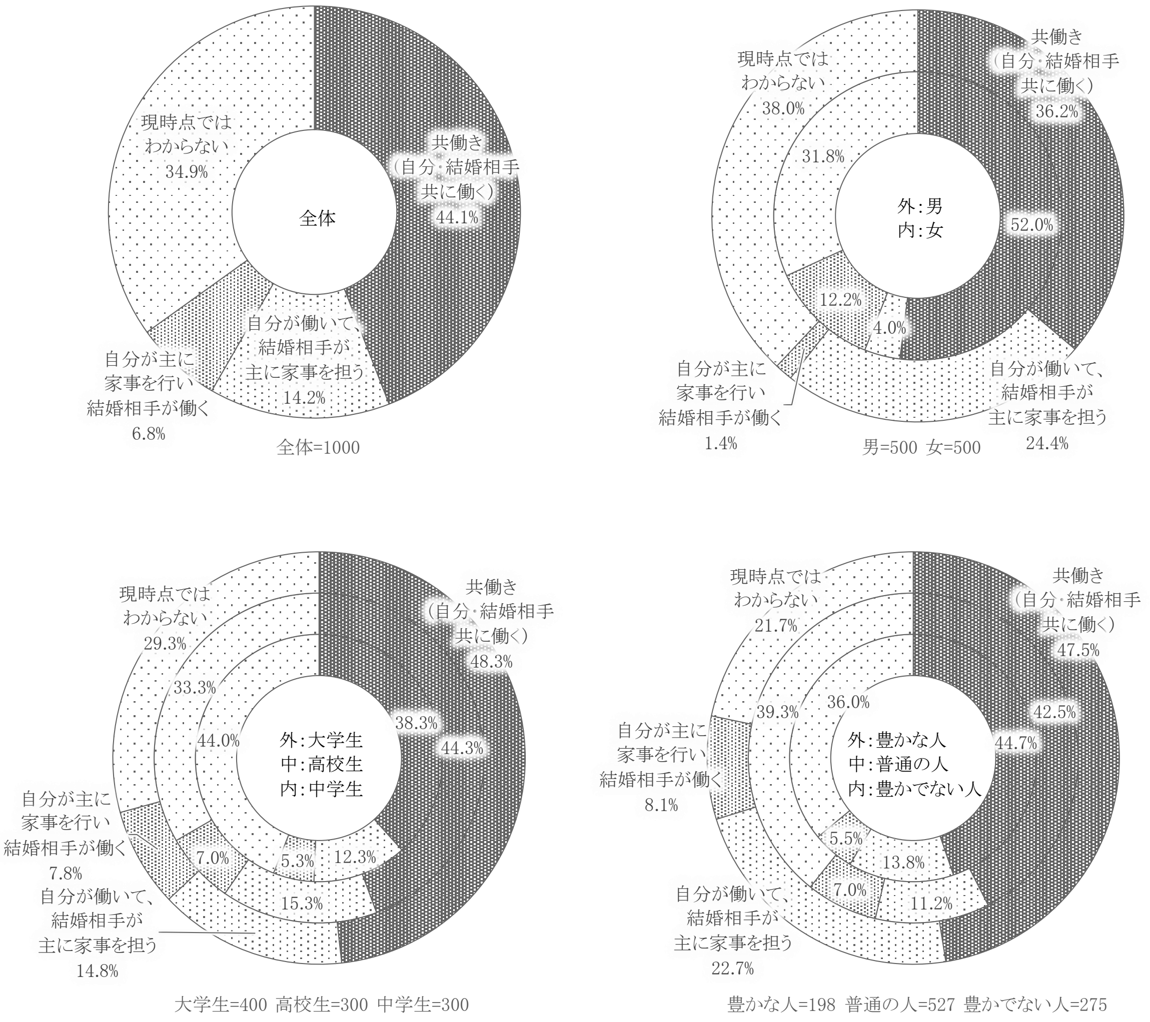



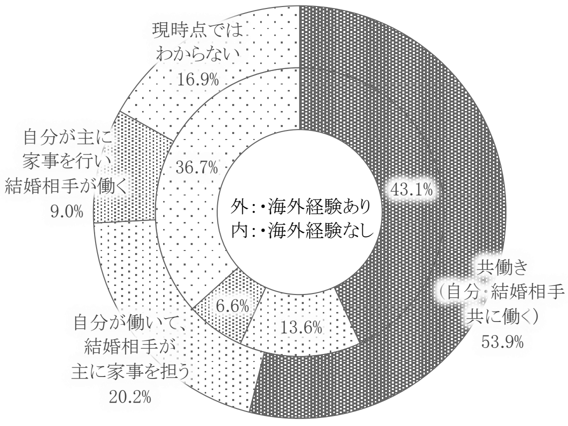

（注1）　グラフの値は、「外的報酬に対する欲求」、「内的報酬に対する欲求」、「ハードワークに対する許容度合い」に関係する各々3問の質問に対する回答結果を基に、「全くそうは思わなかった（思っている）」を1、「強くそう思っていた（思っている）」を5として、それぞれ数値に置き換え、平均値を算出したものである。したがって、当該平均値はそれぞれ1以上5以下の値である。なお、因子分析の結果、「外的報酬に対する欲求」、「内的報酬に対する欲求」、「ハードワークに対する許容度合い」の3因子が抽出されている（参考①参照）。

## 3.2. 結婚して子どもをもったときの、自分と結婚相手の働き方の理想

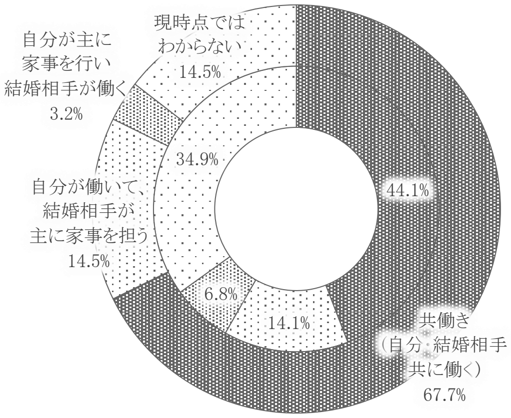
・将来、結婚をして子どもを持ったときの理想の働き方として、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（44.1%）を選んだ若者が最も多く、「自分が働いて、結婚相手が主に家事を担う」（14.2%）、「自分が主に家事を担い結婚相手が働く」（6.8%）はいずれも約１割程度である。さらに、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んだ若者は、男子（36.2%）よりも、女子（52.0%）が多い。
・「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んだ比率を学生別にみると、大学生が 48.3%と最も高く、高校生（44.3%）、中学生（38.3%）と続く。さらに女子を見ても、大学生（女子）が 60.0%と最も高く、高校生（女子）が 49.3%、中学生（女子）が 44.0%と続き、全体と比べると、女子のみの方が高く、女子の共働きへの意欲は高い状況がうかがえる。
・海外経験別では、海外に住んだ経験のある若者では 53.9%、海外に住んだ経験のない若者では 43.1%である。

**図表 27 結婚して子どもをもったときの、自分と結婚相手の働き方の理想（単一選択）**

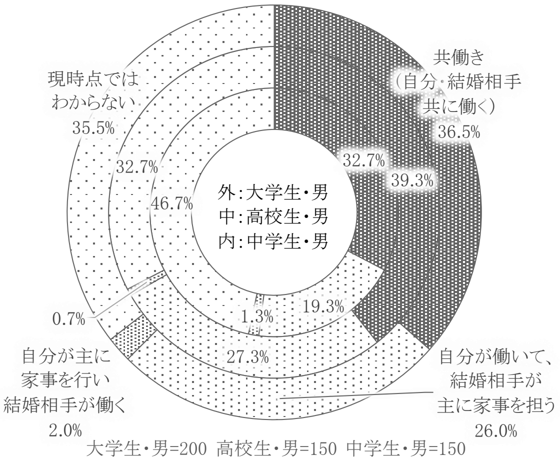




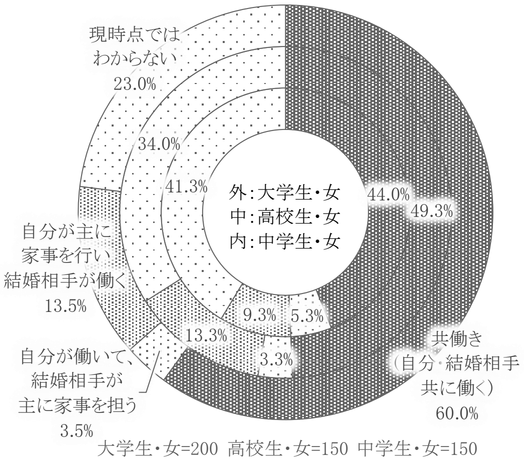
海外経験あり=89 海外経験なし=911



外：将来就職したい企業・団体の特色として
1位に「仕事と家庭の両立がしやすい」を選択=124
内：全体=997



大学生・男=200 高校生・男=150 中学生・男=150

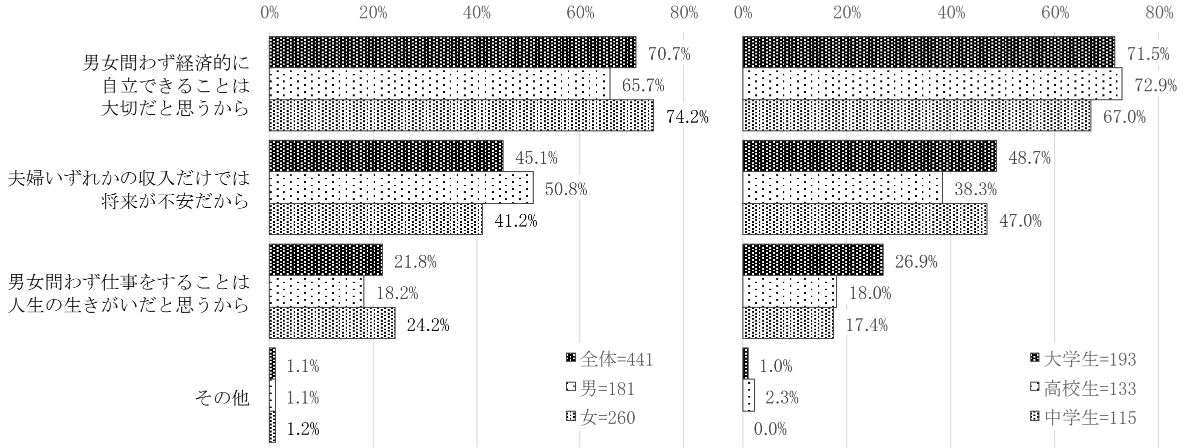


大学生・女=200 高校生・女=150 中学生・女=150

### 3.3. 共働きを選ぶ理由

・共働きを選ぶ理由として、全体では、「男女問わず経済的に自立できることは大切だと思うから」（70.7%）が最も多く、男子（65.7%）より女子（74.2%）の方が多い。
・「夫婦いずれかの収入だけでは将来が不安だから」と回答した若者は、女子（41.2%）よりも男子（50.8%）の方が多い。

図表 28 共働きを選ぶ理由（複数選択）

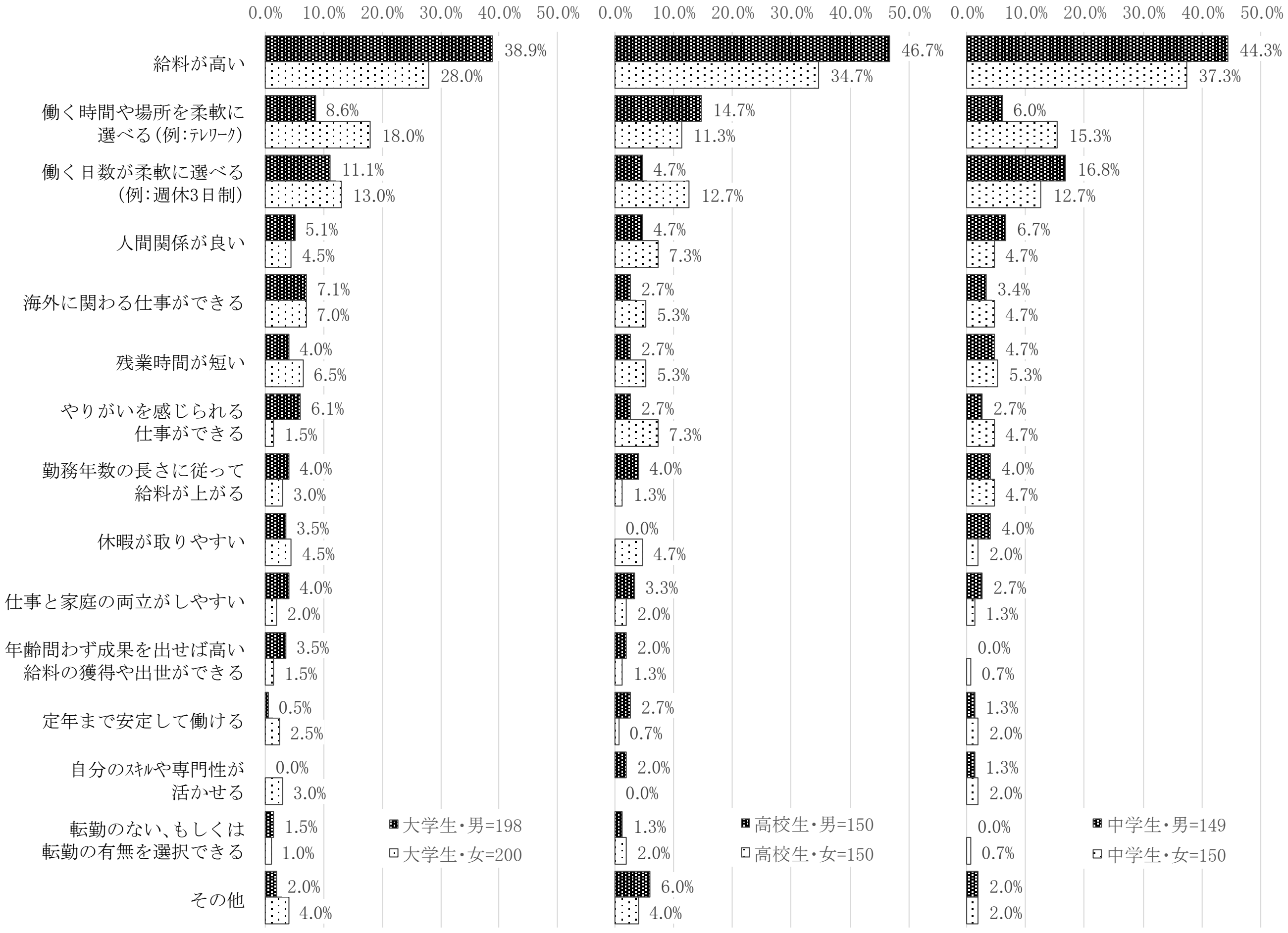



注　「その他」には、働きたいから、女子でも仕事することで得られる達成感もあるから、結婚したとしてもそれぞれが独立した形で生活を営みたいから、離婚するとなったときにキャリア等があった方がよいから、結婚相手が働くか専業主婦とするか私は決めないつもりでいる。好きなようにしてくれればよいが各１件あった。

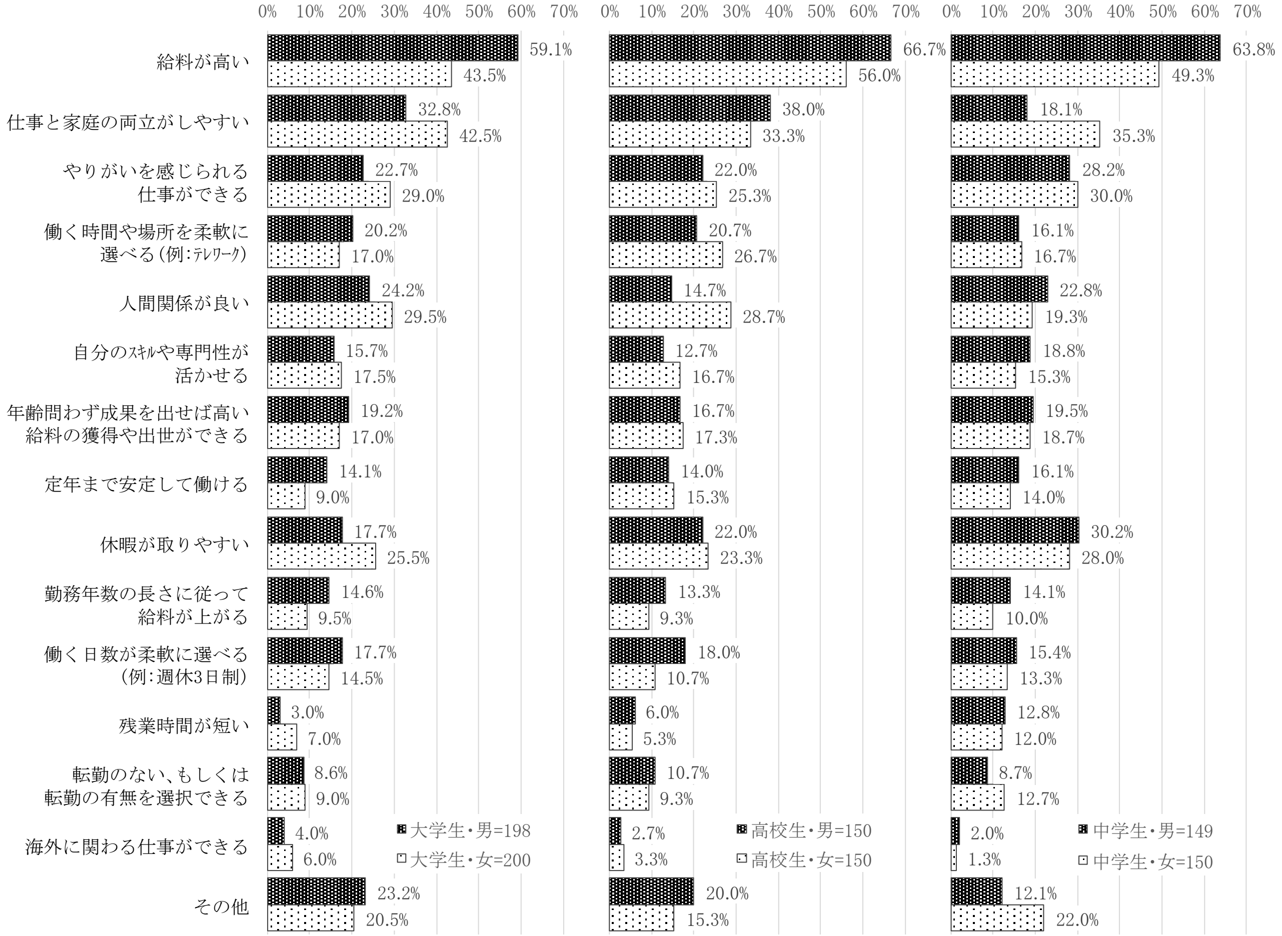
### 3.4. 就職したい企業や団体

- 就職したい企業や団体の条件として、大学生、高校生、中学生の男女が最も多く挙げているのが「給料が高い」ことである。「仕事と家庭の両立がしやすい」を選んだ若者は、いずれも約5%未満であり、働きやすさより給料の高さに関心が高い状況がうかがえる。
- ただし、1位～3位で選んだ回答を集計したところ、「給料が高い」が最も多いのは変わらないものの、次に多いのが「仕事と家庭の両立がしやすい」であった。

図表 29 就職したい企業や団体（1位）



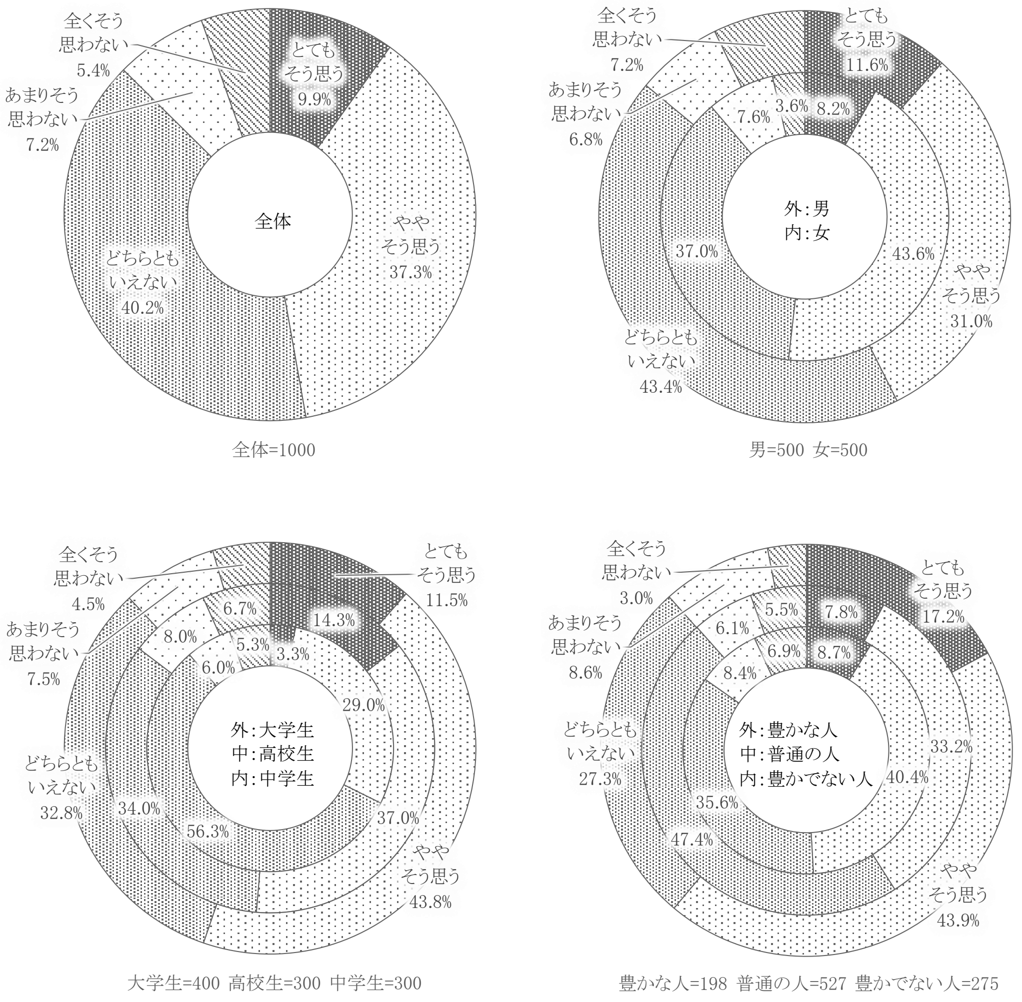
## （参考）就職したい企業や団体（1-3 位の合計）

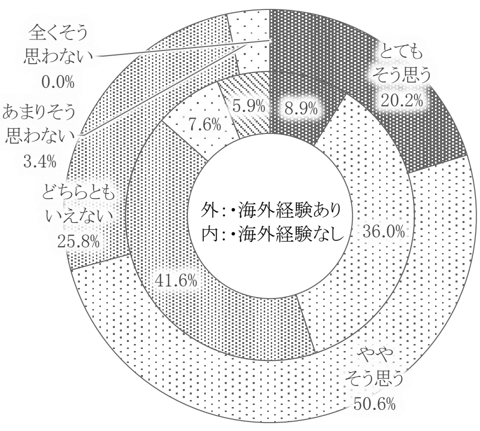


## 3.5. 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業で働く意欲

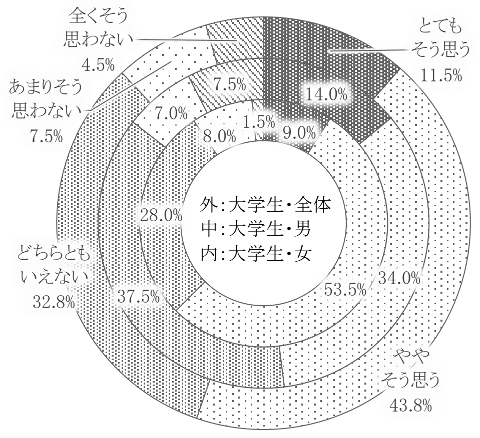
- 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業で働く意欲（「とてもそう思う」、「ややそう思う」）がある若者は、全体で47.2%であり、男子で42.6%、女子で51.8%である。
- 学生別では、大学生が55.3%と最も高く、高校生（51.3%）、中学生（32.3%）と続く。
- 経済状況別では、豊かであると回答した若者（61.1%）が最も多く、次に豊かでないと回答した若者（49.1%）、普通と回答した若者（41.0%）と続く。
- 海外経験別では、海外に住んだ経験のある若者では70.8%、海外に住んだ経験のない若者では44.9%である。

図表 30 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業で働く意欲（単一複数選択）

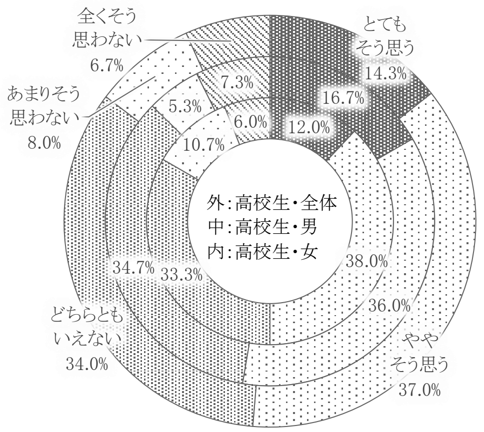




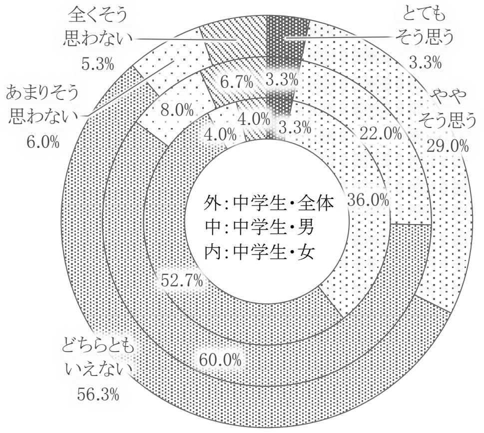

海外経験あり=89 海外経験なし=911




大学生・全体=400 大学生・男=200 大学生・女=200




高校生・全体=300 高校生・男=150 高校生・女=150




中学生・全体=300 中学生・男=150 中学生・女=150

### 3.6. 企業に対する次世代からのメッセージ

・下記の通り、社会貢献に関することや企業姿勢、製品・サービス。労働・雇用等に関する多様な意見が寄せられている。

**【社会貢献に関すること】（一部抜粋）記述の総計 166 件**
・これからも、もっと地球環境問題の解決に取り組んでいってください。（高校生・男）
・企業の利益目的だけではなく世界の環境問題などに率先して力を入れている企業には将来投資などして手助けに関わりたいと考えています。（高校生・女）
・環境問題改善に積極的に取り組む会社はすばらしい。（高校生・男）
・まだまだ利益重視の会社が多いが、企業が利益を生み出そうとしたことが原因でどれだけ環境に弊害があるか各社把握しているのだろうか。SDGs に取り組んでいることは偉いのではなく、使った資源を補うという意味では当たり前のことだ。どうかより責任意識を高く持って行動してほしい。（大学生・女）
・環境問題などを解決するような商品やサービスが、日本国民の生活習慣となるような取り組みをしてほしいし、そういう商品やサービスを販売してほしい。（大学生・女）
・最近は地球環境に優しい企業が増えてきてとても良いと思います。これからも続けていってください。（高校生・女）
・もっと産業廃棄物を減らせる取り組みをしてほしい。（高校生・女）
・プラスチックの排出量を減らすように努力するべき。（大学生・女）
・日本には無駄が多い。商品のレジ袋などもっとなくすお店があってもいいと思う。（高校生・女）
・プラスチック問題をなくすために、カフェでストローを紙にするのはいいことだと思う。（大学生・男）
・企業内で出る廃棄物をもっと減らせないものだろうか。特に食品分野ではロスが多すぎる。（高校生・男）
・食品など廃棄が多いのではないか。必要がないものは生産を減らしてほしい。（中学生・男）
・無駄な個包装はやめたほうがいいと思う。（大学生・女）
・ゴミの排出量を減らしてほしい。（大学生・男）
・経済的に裕福な家の子供は恵まれた環境で学べる。（中学生・男）
・貧富の差をなくしてほしい。（大学生・女）
・コロナ騒動を通して、努力している企業としていない企業の差が明確になったと感じる。今後はコロナに立ち向かって日本経済の復活のために頑張ってほしい。（大学生・女）
・人々がモノを買わなくなるのはコロナのせいにしているが、元から給料が充分にあったらそのようなことは起こらない。コロナのせいにする前に自分たちの会社についてきちんと考えるべきだと思う。（大学生・女）
・みんなが豊かになるようにしてほしい。（中学生・女）
・海外の国にお金をばら撒くより、日本のために優先して使ってほしい。（中学生・男）
・日本がより発展するようにしてほしい。（中学生・女）
・もっと地域の人々と連携しながら地域を活性化させる企業が出てきてほしい。（大学生・男）
・もっと社会に利益を還元して。（中学生・女）
・大変厳しい状況にあると思うが、利益獲得だけに捉われないような活動をしていってほしい。（大学生・女）
・もっと参加しやすいボランティア活動が欲しい。（高校生・女）

**【企業姿勢に関すること】（一部抜粋）記述の総計 179 件**
・どのような活動をしているのかが分かりにくいのでもっとアピールすべきだと思う。（大学生・女）
・日本の企業が一生懸命やっていることに関するアピールがすくないのであまり知ることができないのは残念である。（中学生・女）
・自分が知らないだけで、日本企業の多くは社会・環境問題に注力していると思います。黙ってやるのが美徳、という考え方もありますが、SNS などでもっと公表、情報発信してくれると関心を持っていられると思います。（大学生・女）
・中高生に対しては授業など意外に企業の働きについて知る機会が無いので機会が増えたらいいなと思う。（高校生・女）

・CM や SNS で、問題に取り組んでいることをもっと分かりやすく、強調して説明した方がいいと思います。(大学生・女)
・海外企業に負けずに頑張ってほしい。(高校生・男)
・世界で活躍する企業が、もっと出てきてほしい。(中学生・女)
・海外の企業に負けない競争力を一層強めてほしい。(中学生・女)
・将来的に日本をどうしたいか、あるいは世界をどうしたいのかを具体的な目標として描いて、世界的に成長する企業がもっと出てほしい。(大学生・男)
・安いからと言って海外に工場の拠点を移しても、今回のように輸入ができなくなれば日本のメーカーとか企業とか関係なく日本人の手に入り辛くなる。ある程度日本にも工場などを作っておくべき。(中学生・男)
・海外ではなく日本国内に工場を置いてほしい。(大学生・男)
・利益だけではなく、社会に寄り添った活動もしていってほしい。(高校生・女)
・利益ばかり追求せずに人の心を掴む商品や製品の販売に力を入れてほしいです。(中学生・女)
・企業の利益だけ考えている会社は信用できない。(中学生・男)
・利益の追求が酷すぎて環境問題に対しての方策を蔑ろにしている。(高校生・男)
・目先の利益優先ではなく、長い目で見て社会が良くなるような企業活動をしてほしい。(中学生・女)
・自社の利益を重視し過ぎている。(大学生・男)
・より良い社会づくりをされている日本企業の企業イメージはしっかりと安定していて、なおかつクリーンな印象が見受けられるように感じました。(大学生・女)
・裏がありすぎて信用できない。(高校生・男)
・不正はしないでほしい。末端で働く人たちには感謝している。いつか自分も(その末端で)働くことになると思うので頑張りたいと思う。(中学生・女)
・他の国と比べるとクリーンなイメージはある。(中学生・男)
・フェアトレードなどを高いと感じないことが普通になってほしい。(大学生・女)
・柔軟性がないと思います。(中学生・女)
・古い体制の企業が多い。(大学生・男)
・目先の利益を考えすぎなので長い目で見て動いてもらいたい。(大学生・男)
・どの企業も日本の未来を素晴らしいものに導けると思うので皆が協力しあって頑張ってほしいです。(高校生・女)
・子どもがなりたいと思える大人が働いている会社にしてほしい。(中学生・男)
・若い世代に夢を持たせる企業になってほしい。(中学生・男)
・日本の企業は皆横並びで、挑戦することに怯えている気がします。その辺りが残念です。(大学生・男)
・大事なことの決断がなかなかできない印象がある。(高校生・女)
・将来性がない。(高校生・男)
・無駄が多すぎ。(大学生・男)
・あまり魅力がない。(中学生・女)
・内部留保ばかりしない。(中学生・男)

**【製品・サービスに関すること】(一部抜粋) 記述の総計 29 件**

・消費者の声に耳を傾けることが大事だと思う。(大学生・女)
・もっと消費者の気持ちになって考えてほしい。(高校生・女)
・もっと消費者目線で。(高校生・男)
・働いている人もお客様も幸せになれる運営ができると良いと思う。(大学生・女)
・日本製の製品は安心できるのでこれからも頑張ってください。(高校生・女)
・日本の技術力の高さに驚く。(大学生・女)

**【労働環境・雇用・賃金に関すること】(一部抜粋) 記述の総計 154 件**

・時間外労働を強要されるような空気感や有給を取らせないなどのことはその後のやる気に大きくかかわると思うのでやめてほしいと思う。(高校生・男)

・残業をしなくとも、結局は持ち帰りなどによる過労死がまだ減らない気がするので、もう少し見直す必要があると感じる。（大学生・女）
・ブラック企業など残業が多い会社では将来絶対に働きたくないと思う。（高校生・女）
・残業を減らしてください！ サービス残業なんて言葉を無くしましょう。（高校生・女）
・サービス残業などがない社会にしてほしい。（大学生・女）
・過労死する人がいなくなるように、残業がないシステムを構築してほしいです。（大学生・女）
・働きすぎだと思う。海外では、休暇は１カ月取れるし、育児休暇も普通に取れる。（中学生・女）
・休みをしっかり取れて、社会の流れに臨機応変に対応してほしい。（大学生・女）
・働き方改革という言葉はよく聞くようになったが、未だに残業代が未払いであったり、残業ゼロのために早朝から出勤したりと課題点が多いように感じます。（大学生・女）
・第一に、雇用を守ってほしい。第二に、利益を従業員へ還元してほしい。（中学生・男）
・お金に余裕のある企業にはもう少し給料を上げていただきたいですね。（大学生・男）
・労働環境を向上させるためにテレワークやサービス残業の廃止、労働時間の縮小を推進してほしい。（大学生・男）
・利益や社会からの評価だけを考えている企業も少なからずあると思う。そうじゃなく、ちゃんと社員の方のことも考えてほしい。コロナで宣言が解除されたからといって無駄に出勤させたりすべきではないと思う。（大学生・女）
・なぜ若者の給料を上げないのか理由を知りたい。不景気であることは知っているが、物価や税金は上がっているのに給料だけ上がらないのでは生活が苦しいと感じる。労働量に見合う給料を出さない企業には貢献したくない。（大学生・女）
・非正規雇用労働者の人権が守られるように賃金の格差を小さくする努力をしてほしいです。（大学生・女）
・なぜ満員電車に乗ってまで出社しなければならないのか。（大学生・女）
・今回のコロナ騒動をきっかけに働き方がよりスマートになることを期待しています。（大学生・男）
・因習にとらわれず時代に即して変わっていくことが必要。年齢、性別関係なく活躍できる場を。（大学生・女）
・年功序列・終身雇用、現法上労働者が保護されすぎて怠けているせいで生産性が上がっていない。（大学生・男）
・女子が活躍できる企業が良い（大学生・女）
・女子が働きやすい環境作りをしているように感じるが、すべての企業がそのようなことをしているとは思えない。（大学生・女）
・ブラック企業と呼ばれる企業がまだ多くあるので、できるだけ早く改善してほしい。（高校生・男）
・差別、ハラスメントを根絶してほしいです。（中学生・女）
・良い人材が育つにはそれなりの環境が大事だと思う。（大学生・女）
・雇用を明確化してほしい（高校生・男）
・昨年就活をしていた先輩に聞くと、顔採用かなと思う企業が少なくありませんでした。それはなんだか悲しいです。（大学生・女）
・終身雇用が当たり前ではなくなる時代とは言いますが、それは現在の若い世代にいえることであって、実際には今の高齢世代の雇用は比較的安定しているように思います。若者を切り捨てることがないよう切に願います。（大学生・女）
・働く人のことを考えた会社にしてほしい。（中学生・女）
・下の普通のサラリーマンが上の役職の人に押し潰されている。（高校生・男）
・人を使い捨てのコマだと思わないでほしい（大学生・男）
・労働環境をもっと整えてほしい。心身ともに健康な状況で働ける場になってほしい。（大学生・女）
・雇用環境をよくしてほしい。（大学生・女）
・採用人数を増やして雇用を活性化してほしい。（大学生・男）
・来年の就活が例年通りの採用であってほしい（大学生・男）

**【激励や高評価】（一部抜粋）記述の総計 88 件**
・いつもありがとうございます。これからも頑張ってください。（高校生・男）
・日本企業の勢いが近年衰退しているように見えます。しがない学生からの一言ですが、かつての活気を取り戻して日本を豊かにするように頑張ってください。応援しています。（大学生・男）
・企業の皆様の努力が私たちの生活を支えていると思います。ありがとうございます。（高校生・男）

・平穏な日常を過ごすことができるのも、日本企業が社会貢献に向けて取り組んでいるおかげです。感謝と同時に、世界的に有名な日本企業が多いことに、日本人としてとても誇りに思います。いつも日本を支えていただき、ありがとうございます。(大学生・女)

## 3.7. 大人たちに対する次世代からのメッセージ

・下記の通り、社会全体・政治等に関することや労働環境、個々の大人等へのメッセージ等に関する多様な意見が寄せられている。

**【社会全体・政治等に関すること】（一部抜粋）記述の総計 153 件**

・より良い社会を作っていくために次世代へつながる行動をとってほしい。（大学生・男）
・将来の世代に、希望を残してほしい。（中学生・男）
・大人が目先の利益を優先したツケは子供に回ることを忘れないでほしい。（大学生・女）
・子供世代に負荷をかけないで。（中学生・男）
・少子化なので、自分達の上の世代を少人数で支えることになるのが不安。（大学生・男）
・将来の世代に借金を増やさないでほしい。（中学生・男）
・若い世代に課題と暗い未来像を残さないでほしい。（高校生・男）
・将来に金銭的負担を持ち込まないでほしい。（中学生・男）
・将来を考えた社会づくりをしてほしい。（大学生・男）
・自己利益中心で後世のことを全く無視している。（高校生・男）
・自分が大人になった時代がどんな時代か心配。（中学生・女）
・若者をないがしろにして次世代にツケが回ってくるようなことばかりしている。（大学生・男）
・未来の世代につないでほしい。（高校生・男）
・お金儲けよりも、人に役立つ会社や人が笑顔になるような会社を作ってほしい。（中学生・女）
・捨てない社会にしてほしい。（中学生・女）
・もっと環境問題について真剣に考えて「行動して」ほしい。（高校生・男）
・環境を良くしていってくれるような次世代の人を育ててください。（高校生・女）
・これからの世代も安心して地球で暮らすことができる環境を維持してほしい。（中学生・女）
・コロナでみんなが休んでいる間に、急に空気がきれいになったので、続けてほしい。（中学生・男）
・もっと環境に優しい活動を行うべき。（高校生・男）
・いろいろなことが発達するのはいいけど、人間のことだけでは無く、環境のことを考えてほしい。（高校生・女）
・食品ロスの多さはどうにかならないのか。（大学生・女）
・世の中金が全てではなく、地球環境や人間のこころも考えるべきである。（大学生・男）
・これからも保護活動に取り組んでほしい。（大学生・女）
・平等の実現、特に教育機会。（中学生・女）
・平等な社会を。（中学生・男）
・人種差別はしないで。（高校生・男）
・男女の差がなくなるようにしてほしい。 なんで、環境問題に関して関心がないのか。このままだと人間が生きられなくなるのに、なぜ考えない。早く具体的に、厳しいことでもいいから始めてほしい。（高校生・男）
・格差社会の是正（中学生・男）
・学歴ばかりで人を決めつけないで、一人ひとりの本質に目を向けてもらいたいです。（大学生・女）
・学歴社会をなくす。（高校生・男）
・本当に大学に行きたいと思っている子が金銭の問題で行けないという状況はよくないと思います。また、SNS の恐ろしさをもっと伝えるべきだと思います。（大学生・女）
・新学期を９月にする話などを実際に子供の意見を聞かずに進めるのはやめてほしい。4 月入学がいいです。（中学生・女）
・日本の政治家は自分の利権だけでなく、真剣に日本のことを考えてほしい。自分が政治家になった方がよっぽどましだと思う。（中学生・男）
・政府を批判しすぎ。（高校生・女）
・政治など、もみ消しばかりに思える。（中学生・男）
・政治家は嘘をつかないでほしい（中学生・男）
・政治家などは特に、自分の立場を守ることしか考えていない人が多い。他者のために働ける人が増えてほしい。（大学生・女）

**【労働環境について】（一部抜粋）記述の総計 52 件**

・ゆとりを持って・ストレスをぶつけない。
・大人は楽しくなさそうな人が多い気がする。そんなに頑張らないと生きていけないのかなと思うと将来が不安になる。（中学生・男）
・残業とか上司とかでストレスがたまらないようにしてほしい。（大学生・女）
・心にゆとりを。（大学生・男）
・ストレスでヘトヘトな姿を見たくない。（中学生・男）
・親が仕事から帰ってくると疲れたばかり言っているので仕事は楽しくないものだと思っている。（中学生・男）
・長い時間働いているので、休みを取ってほしい。（中学生・女）
・自分で望み仕事をしているのに楽しくなさそうな人が多過ぎる。（大学生・男）
・みんな、仕事以外の生活を楽しんでほしい。（中学生・女）
・もっと、自由な時間をつくるべきだ。（大学生・男）
・海外と比べて、日本は働きすぎということも言われているので、もっとフリーに働ける環境が整えば労働者も働きやすくなるのではないかと思う。（大学生・女）
・社会に出て仕事をしている大人たちは本当に立派だと思います。自分たちのため、国のため、頑張ってください。ただ、一番大切なことは自分の命だということを忘れないでください。（大学生・男）
・もっと下の世代に誇れる企業であってほしいです。終身雇用の時代はもう終わり！男女関係なくスキルのある人材が評価されてほしいです。（大学生・女）
・働きやすい環境を整えてほしい。（中学生・女）
・誰でも働きやすい社会（中学生・男）
・男女年齢差別がなるべくない会社が増えるといいと考えています。（高校生・女）
・リストラばかりしないで定年まで安心して働ける社会にして下さい。（中学生・男）
・ブラック企業が日本には多数存在しているイメージがある。労働環境や賃金など様々な問題を改善してほしい。（大学生・女）
・ブラック企業の撲滅（中学生・女）
・テレワークなど、もっと公立的な仕事をしたら、生産性が上がると思う。職場でも、陰湿な扱いを受けて人間関係が原因で優秀な人材を失っていると伺う。仕事に個々人が集中出来る環境を整えるべきでは。（大学生・女）
・仕事に見合った額の収入を得るべき。（高校生・女）
・全員がお金を稼げるようにする。（大学生・男）
・現場で働く人たちの給料を上げてほしい。（大学生・男）

**【個々の大人へのメッセージ】（一部抜粋）記述の総計 292 件**

・事実を隠蔽するのは悪いことです。（大学生・男）
・大人は狡い。（中学生・女）
・卑怯（高校生・女）
・嘘をつかないでほしい。（中学生・女）
・透明性が足りていない。（大学生・女）
・ルールを守る。（高校生・男）
・ニュースで不正行為を見かける、自分たちの欲ばかりで恥ずかしいと思ってほしい。社会のために、自分たちの子どもたちの未来のためにそのような行為をやめてほしい。（中学生・女）
・偽善者（高校生・男）
・どうせばれるような嘘を有名な人が平気でついているところ（中学生・女）
・マナーが悪い人が目立つ。（中学生・男）
・常識をもって行動すべき。（大学生・女）

・まず家族以外の大人が働いたりしているシーンをあまり見かけないのでSNS上で見かける大人に対して考えることくらいしかないのですが、Twitterなどで見かける大人には夢も希望も感じません。学生でも理解しているようなネットリテラシー等を未だに理解していないような大人も多数見かけます。彼ら個人の人間性の問題なので大人に対して思うこととしては少しズレてしまうかもしれませんが、こういう人間を今後生み出してしまわないためにもネットの使い方は学生の時にしっかり教えていくべきだなと思います。（高校生・女）
・ゴミはゴミ箱へ（高校生・女）
・犯罪を犯さないでほしい。（高校生・男）
・パワハラ、セクハラのない社会であってほしい。（大学生・女）
・大人は子供に教育の為なのか分からないが言葉や行動の暴力が多すぎます。だから学生や20歳前半の自殺が増えているんです。正直本当に辞めてもらいたいです。（高校生・女）
・自己中心的よりもっと広い視野で世の中をみてほしい。（高校生・男）
・周りにいる人を大切にしてほしい。悪い事をしてはいけないしそれを大人の世界ではと誤魔化してはいけない。正しくあれない人が仕事の立場上にしても上にいるからといってなんらかの形で下にいる人に対して威張ってはいけない。（大学生・女）
・自己保身ではなく、本当の意味で思いやりのある言動をとるべきである。（大学生・女）
・自分だけよければばいいという考え方の人間が多い気はする。年金も自分が貰えるのか、という論点で判断する人、コロナ流行化の外出自粛も自分が良ければまあいいかな、という人がいたのが残念だと思う。周りの人と協同して暮らしていく日本になればより国としての体力も付くだろう。ナショナリズムには扇動してほしくないが。（大学生・女）
・目の前の利益だけに目が眩みすぎ。先をみてほしい。作るのはいいけど、直していけるか？残していけるのか？それを考えてほしい。（高校生・男）
・人にされて嫌なことは自分もしない、自分の利益ばかりを考えて行動する大人を尊敬できると思いますか。（大学生・女）
・大人は、自分勝手な人が多い。人のことを言っても自分はどうなの？と思う。（中学生・女）
・大人は都合のいいように周りや権力に合わせることがある（大学生・女）
・周りの人のことも考えてほしい。（高校生・女）
・もうちょっと優しく生きていてほしい。（高校生・男）
・広い心を持ってほしい。（大学生・男）
・自分がされたくないことは相手にもしないでください。自分がされて相手もされて嬉しい行動をとりましょう。（大学生・女）
・優しくなろうよ。（大学生・男）
・自分勝手な行動は控えよう。（大学生・女）
・人を大切にする。（高校生・女）
・勝手な人が多い。（中学生・男）
・自己中心的では無く、みんながみんなを思いやれる世の中に。（中学生・男）
・利己的な人が多いように思う。（大学生・男）
・思いありのある社会を。（大学生・女）
・自分ばかりという考え方はやめた方が良い。年下は年上の召使いではない。（大学生・男）
・自己の利益だけを求めていては良い世界にはなりません（大学生・女）
・SDGsなどといったものをただのビジネスとしか捉えていない人がいるが、そういった指標を「稼ぐためにただ利用するだけ」というようなことはやめてほしい。（大学生・男）
・利益よりも持続して生きていけることが大切なこと。（大学生・女）
・嘘やごまかしやその場しのぎがダメだということを体現してほしい。あと投票率が低すぎです。これが普通だと思っている若者は別に行かなくてもいいんじゃないかと思ってしまうと思う。（大学生・女）
・都合の悪いことを子供にすぐかくす。（高校生・女）
・社会の仕組みをかくすな。（高校生・男）
・メディアの偏見報道を変えてほしい。（大学生・男）
・忖度ばかりせずに、伝えるべきことはちゃんと伝えていってほしい。（大学生・女）

・隠し事や目をつむっている事が多いと思うからそんなことないようにしてほしい。(高校生・男)
・綺麗事だけじゃなくて本音も知りたい。(高校生・女)
・素直に生きてほしい。(大学生・女)
・みんなが勝手にばらばらに動いている。(中学生・男)
・国難ともいえる事態が現在起きているのに、なぜ人々が団結することができないのかと疑問に思う。(高校生・男)
・もっと仲良くしてほしい。(大学生・女)
・協力してほしい。(大学生・男)
・子供に何でもかんでも押し付けないで。(高校生・女)
・理不尽な態度はやめてください。(高校生・女)
・自分ができないことを簡単に他人に求めないでほしい。(大学生・女)
・もっと柔軟にいろいろな物事を決めるべき。悪評が出回るとそれに対しての偏見が凄い。(大学生・男)
・自分の価値観や経験を押し付けないでほしい。(高校生・女)
・新しいことに批判的な大人が多いと思うので、もっと柔軟に物事を見てほしいと思う。(高校生・男)
・時代は変わっています。昔とは違うのです。(大学生・女)
・「あたりまえ」は無いです。もう一度自分の固定概念から離れて物事を考えてみてください。(大学生・女)
・自分たちの価値観を押し付けないでほしい。(高校生・女)
・古い考えを更新すべき。(大学生・男)
・古くからの考えを捨てて新しい考えをしていくことも大切だと思う。(大学生・女)
・無駄な固定概念を取り除いて変化し続ける社会に共に対応していきたい。(大学生・男)
・もっと柔軟な考えを持ったほうがいい。(大学生・女)
・頭が硬い。(大学生・女)
・もう少し、柔軟に否定をなくしてほしい。(大学生・男)
・世界や時代の標準に合った考え方や仕組み作りを続けてほしい。(大学生・男)
・昔の考えは捨てたほうがいい。(大学生・女)
・"働いている"という理由で傲慢になっているのは恥ずかしいことですよ。若者の意見を受け入れたくない頭の悪い年寄りは早く辞めさせた方が良いと思います。年功序列は廃止すべきです。(大学生・女)
・大人だからと上から言ってはいけません。(高校生・女)
・上の人だけでやることを決定するのではなく、周りの意見も聞くべきだと思う。(大学生・女)
・上司は自分の利益だけを考えずに若手にも優しくしてください。(大学生・女)
・主語を大きくしないで怒る時は「普通は〜しない」じゃなくて、「自分は〜だから怒っている」と言ってほしい。(高校生・女)
・自分が若者の立場だったらどうするのかよく考えてほしい。(大学生・男)
・もう子供じゃないとか、まだ子供だからとかその時で使い分けないでほしい。(中学生・女)
・大人ぶって子ども扱いするくせに、自分の立場が危うくなると子どものせいにするあたりが分からない。(大学生・女)
・自分ができていないことをさも完璧にできているかのように言うな。(大学生・女)
・言うことが一貫してないと思う。塾もコロナで休業要請されていても、返金したくないから、学校の再開を待たずに再開するなど、おかしい。学校の休業に合わせて休業したなら、最後まで学校の再開を待って始めてほしかった。大人の事情は、理解がむずかしい。(中学生・女)
・矛盾が多いです。(高校生・男)
・感情論や気合いを悪とは言わないが、それだけを振りかざしてリスクヘッジなどを放棄するのはやめてほしい。(大学生・女)
・テレビのコメンテーターに、あほが多すぎる。(中学生・男)
・考えること、学ぶことをやめるな。それをやめてしまったら屍と同じだ。そういう奴らから AI やロボットに淘汰される。(大学生・男)
・一人ひとりが自分に何ができるかを常に考えながら活動してほしい。(大学生・女)

・（大人に限った話ではないが）全体的に頭が悪いと思う。 SNS 等で気軽に情報が発信できるとはいえ、発信する場合信頼できる情報元を参照し、正確な情報と認められる場合にのみ発信するなどの配慮をしてほしい。（大学生・男）
・情報源や発信者が多い世の中なので、その情報が本当に正しいのかしっかりと吟味してから発信してほしいです。（大学生・女）
・子どもには出来ないことができる分、行動に責任を持ってほしい。（高校生・男）
・自分の言動に責任を持ってほしい。（高校生・女）
・判断が遅すぎる。慎重になるのと後回しにするのは違うということを理解してほしい。（高校生・男）
・人々がもう少し自分の意見を表に出すことができればよい社会を作るための方向性が見えてくると思う。（大学生・男）
・一人ひとりが自らの意見を持つこと。（大学生・男）
・多数派に流れようとするのはよくない。（大学生・男）
・NHK の世論調査の結果を見ていると、圧倒的に政府への批判をしている意見が多い。しかし、それを言う多くの大人は、皆が批判しているから……という理由で批判をするだけで、もしも実際に政府の政権を握る人物になったら恐らく何も思いつかない、無力な人間ばかりだ。それならば、何も言わなければいいのに。（高校生・女）
・上から言われるまで動かない上司はいらない（大学生・男）
・批判するくらいなら何か行動を起こしたらいいと思う。（高校生・女）
・大人は学生の批判ばかりして自分たちは何もしていない。（高校生・男）
・人に押し付けないで、自分でも実行してほしい。（中学生・女）
・迷ってる暇があるなら、より良い対策をねって実現する努力をすれば良いのにと例えばコロナの対策などに対して思っています。（高校生・女）
・口だけの大人は尊敬できない 行動で示してほしい（大学生・女）
・批判ばかりではなく態度で示してほしい。（大学生・男）
・意思を持って行動してほしい。（高校生・男）
・楽して稼ごうとはしないでほしい。（大学生・男）
・上下関係も大事だが、しっかりと仕事して。（高校生・女）
・私たち子供達がこんな大人になりたいと理想を持てるような手本になって頂けると幸いです。（高校生・男）
・子供たちの見本となるようなことをしてほしい。（中学生・女）
・自分の言ったことに責任を持って、真似されても恥ずかしくない行動をする（高校生・女）
・就職活動を通じて、今までは働いている社会人はすごい＝大人はすごいと勝手に思っていましたが、実際よく分からない企業や仕事をしていても「社会人」と名乗れることを理解してきました。年の功だけの人間にはなりたくないと常々感じます。（大学生・女）
・しっかり知識があって堂々とできる人が、大人として行動してほしい（高校生・男）
・若者たちのよりより手本になってもらいたいです。（大学生・男）
・子供は大人を見て育つから、一部の人にはちゃんとしてほしい。（高校生・男）
・子供たちのお手本となるような行動をもっとしてほしいと思う時がある（高校生・女）
・嫌な大人を見ると将来こんな大人にはならないようにしようと思う。（中学生・女）
・大人になりきれていない大人が多すぎる。（中学生・男）
・コロナで子供が我慢しているのに、大人が我慢できずに感染が拡大しているので、子供の手本になってほしい。（中学生・女）
・正直子どもの方がちゃんとしてることも多い。大人だから偉いとか威圧的になるのではなく、しっかり考えて行動してほしい部分もある。（大学生・女）
・大人にはやくなりたいと思える世の中に（大学生・女）
・若い世代の人を非難する前に大人が子供に真似されていることをより意識してほしいです。（大学生・女）
・尊敬できる人が少ない。（大学生・男）
・私がやっているあるスマホゲーム(メインターゲットが成人男子)の公式 Twitter アカウントで、ほぼ毎日何かしら文句をつけて攻撃している方が何人かいます。自分の父親くらいの年齢の人がそんなみっともない姿を見せないでほしいといつも思います。子供にそんな姿見せてしまって恥ずかしいと思えよ！！！！！！（大学生・女）

**【次世代への要望】（一部抜粋）記述の総計 49 件**

・子供達のことをしっかり考える国や親がいれば将来は安泰なのではないか。（中学生・女）
・子供達を大事にしてほしい。（中学生・女）
・子供には優しく。（大学生・男）
・子供たちが夢を叶えられるように支えてあげてほしい。（大学生・男）
・若い人は確かに、世間知らずで至らない部分が多いですが、相手のことをよく分からないのに若いからと批判しがちな所はその人の才能を潰す可能性があると思うので、若いという偏見を持たずに最初は接してほしいです。（大学生・男）
・子供のことも考えてほしい。（中学生・女）
・子供に対して厳しい姿勢を取りすぎるのはあまり良くないと思います。（高校生・女）
・もっと子供を考えてほしい！（高校生・女）
・子供のことを考えろ。（高校生・男）
・話を聞いてくれ、聞き流さないでくれ。聞き流したら聞いてないのと同じやで。（高校生・女）
・上からの目線でなく、同等に見てほしいです。（中学生・女）
・子供の意見をもっと反映してほしい（中学生・女）
・無意識に「あの人はだめだ。」「あいつは使えない。」と思っていませんか。年をとると経験が増えてできることが増えます。しかしその代わりにできなかったときの自分を失っていきます。当然と言えば当然ですが、「なんでこんなこともできないの？」と考え始めるのも成長してしまったからなのです。自分が子供だった時の気持ちを忘れないでください。あなたも最初は何にもできない赤ちゃんだったのだから。（大学生・男）
・自分を信じてやらせてほしい。（中学生・女）
・若者にもっと活躍させるべき。（大学生・女）
・しっかりとした意見を持つ子供の意見をしっかり聞いてほしい。（大学生・女）
・若者の意見も聞いてよいと思えば取り入れるようにしていってほしい。（大学生・女）
・子供の話を聞いてほしい。（中学生・女）
・若者の意見にも耳を傾けてほしい。（大学生・女）
・中学生、高校生から、大人のような判断ができるため、高校一年生などにも選挙権を与えるべきだと思う。（高校生・男）
・若者の意見を取り入れてほしい。（大学生・男）
・柔軟な考えを取り入れるために子供の案を積極的に活用する。（大学生・男）
・子供の意見を聞いて。（高校生・女）
・子供には子供の考えがあるから受け止めてほしいです。（高校生・女）
・若者、という言葉一つで私たちの世代の行動や性格をまとめて考えるのを本当にやめてほしいです。全員が同じではありません。（大学生・女）
・「これだから若者は」というような言葉でひとまとめにするのではなく、しっかり一人ひとりを見て接してほしい。（大学生・女）
・最近の若者は、などと、ひとくくりにしないでほしい。（大学生・女）
・コロナウイルスで自粛中に外に出ている若者を批判するような、若者ばかりを批判しないでほしい。年齢関係なく一人ひとりを見てほしい。（大学生・女）

**【激励や高評価】（一部抜粋）記述の総計 68 件**

・元気よくはたらいてほしい。（中学生・女）
・お仕事頑張ってください。（大学生・男）
・いつもお疲れ様です頑張ってください！（高校生・女）
・いつもお仕事ありがとうございます。（大学生・女）
・日本を支えてくれて、ありがとうございます。（大学生・男）

【参考①】労働価値観に関する因子分析の結果

- 学生時代の就職活動当時の考え方について、9 の質問に対する回答データを用いて因子分析を行った結果、固有値が 1 以上の因子が 3 つ得られた。固有値は、第 1 因子から順に、3.689、1.689、1.225、0.586、0.428、0.407、0.374、0.345、0.256 であった。

- 再度 3 因子を指定して、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を実施した結果が**図表 31** である。全ての質問について、負荷量は 0.400 以上と大きく、かつ複数の因子にまたがって 0.400 以上の負荷量を示していない。

- 第 1 因子は「ハードワークに対する許容度合い」、第 2 因子は「内的報酬に対する欲求」、第 3 因子は「外的報酬に対する欲求」と解釈することができる。

- なお、ここでは学生時代の就職活動当時の考え方をたずねた質問への回答データを基に因子分析を実施しているが、アンケート回答時点における考え方をたずねた質問への回答データを用いて因子分析を行っても、同様に 3 つの共通因子が得られている（因子分析の結果の詳細はここでは省略する）。

**図表 31 労働価値観についての因子分析（最尤法、プロマックス回転）の結果**

| 質問 | 第 1 因子 ハードワークに対する許容度合い | 第 2 因子 内的報酬に対する欲求 | 第 3 因子 外発報酬に対する欲求 | 共通性 |
|---|---|---|---|---|
| やりたい仕事であれば、体力的にきつくても仕方がない | **0.872** | 0.059 | -0.052 | 0.760 |
| やりたい仕事であれば、精神的にきつくても仕方がない | **0.852** | -0.126 | 0.054 | 0.707 |
| やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない | **0.662** | 0.129 | 0.035 | 0.529 |
| 自己成長のために働くことが重要だ | 0.040 | **0.784** | 0.001 | 0.636 |
| 興味・好奇心を追求して働くことが重要だ | 0.028 | **0.788** | -0.062 | 0.589 |
| 自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ | -0.038 | **0.762** | 0.077 | 0.626 |
| より高い報酬を得るために働くことが重要だ（給与の他諸手当、福利厚生含む） | -0.124 | 0.146 | **0.724** | 0.590 |
| 終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ | 0.125 | -0.013 | **0.551** | 0.363 |
| 出世・昇進のために働くことが重要だ | 0.048 | -0.091 | **0.839** | 0.664 |
| 因子寄与率 | 36.2% | 15.5% | 9.0% | |
| 累積寄与率 | 36.2% | 51.7% | 60.7% | |

（注1） 各質問は、「1=全くそう思わなかった」「2=そう思わなかった」「3=どちらでもない」「4=そう思っていた」「5=強くそう思っていた」の 5 件法により回答を得ている。
（注2） 因子間の相関係数については、第 1 因子と第 2 因子、第 1 因子と第 3 因子、第 2 因子と第 3 因子の間の相関係数はそれぞれ 0.304、0.372、0.500 である。

＜本調査に関する問い合わせ先＞
株式会社日本総合研究所
ESG リサーチセンター
メールアドレス：100860-SAKI@ml.jri.co.jp
黒田、小島、橋爪